

第 6 4 回
教育研究発表会要項

であう・つながる・うまれるコミュニケーション
～ 学びを豊かにする聞き合い ～



〈学習指導案の見方〉

1ページ目

○の□ ○○科学習指導案

- 1 単元名 ○○○○○○
2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

単元のねらいに気付く聞き合い

本單元における個の考えを

関係づけ・再構成する関わりを具体的に説明

- ### 3 聞き合いのために
- (1) 子どもにつけたい態度

聞き合いを通して教科のねらいに迫るために必要な

子どもにつけておきたい（つけたい）態度についての説明

- (2) 子どもに共有させておきたいこと

聞き合いを通して教科のねらいに迫るために

必要な子どもに共有させておきたい要素の説明

- #### 4 関係づけ再構成する手だて

教科論に基づいて 個が関係づけ・再構成する
ための手だてを具体的に説明

2ページ目

ねらいに迫るための聞き合い（関係づけ再構成する場）を
単元のどこに設けるかを考えた単元計画

5 單元構成（總時數□時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手立て
<p>1 ○○○○○○○○○○ (□時間)</p> <p>○</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>単元全体の大きなめあてを表記 ※必ずあるものではない</p> <p>2 ○○○○○○○○○○ (□時間)</p> <p>○</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>○</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>3 ○○○○○○○○○○ (□時間)</p> <p>○</p> <p>.</p> <p>.</p> <p>.</p>	<p>聞き合いのために必要な 子どもにつけたい態度</p> <p>子どもに共有させておきたいこと</p> <p>関係づけ再構成する手立て</p> <p>○○○○○○○</p> <p>○○○○○○○</p> <p>○○○○○○○</p>

3ページ目

6 第〇日 授業 ① (第□次中△時) 〇の〇教室

- (1) 本時のねらい

“であう・つながる・うまれるコミュニケーション”を研究テーマに実践を積み重ねてきた4年目の発表会です。子どもが関わりを通して学ぶ姿がはっきりと表れるのが、指導案中の二重枠の活動です。複数の授業をご参観の際には、当該箇所の子どもの様子をご覧下さい。そして、協議会では聞き合いの姿について意見を交換できることを願っています。

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手立て
<p>1</p> <p>○ ・ ・</p> <p>2</p> <p>○</p> <p>＜課題＞ ○○＞</p>		<p>本時のねらいに迫るための</p> <p>関係づけ再構成する手だて</p> <p>を具体的に説明</p>
<p>二重枠で囲まれた範囲が 個の思考モデル</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>点線枠は 関係づける考え</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>点線枠は 関係づける考え</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">↓ ↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>実線枠は 再構成された考え</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>点線枠は 関係づける考え</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin-top: 20px;"> <p>実線枠は 再構成された考え</p> </div> </div>		<p>○○○○○○○○</p>
<p>3</p> <p>課題のまとめ</p>		<p>○○○○○○○○</p>

本時のねらいに迫るための
関係づけ再構成する手だて
を具体的に説明

教科論に明示した教科としての
関係づけ再構成する手だてです。
これらの手だてをとることで、子
どもが自分の考えを明確にし
たり、友達のととの違いに気付い
たりし、自分の考えと結びつけ、
広げたり深めたりします。

目 次

日 程	2
校 舍 案 内 図	3
授業・協議会等一覧	4
全 体 講 演 会	7

学 習 指 導 案

国 語 科	9
社 会 科	2 3
算 数 科	3 3
理 科	4 7
生 活 科	6 1
音 楽 科	7 1
図画工作科	8 7
家 庭 科	9 3
体 育 科	9 9
道 徳	1 0 7
英 語	1 1 3
情 報	1 1 9
研 究 同 人	1 2 4

◆ 第 64 回教育研究発表会 日程

1 日目 11 月 22 日 (金)

本校 教育研究発表会

■全体会

- ◇ あいさつ 学 校 長 山 本 一
 - ◇ 研究概要 本 校 教 諭 岩 崎 誠
- 「であう・つながる・うまれるコミュニケーション」
～ 学びを豊かにする聞き合い ～

12:30	13:00	13:15	13:30	14:15	14:30	15:15	15:30	16:30
受付	全体会	移動	授業 ①	移動	授業 ②	移動	教科別 茶話会	

石川県音楽教育研究大会～金沢大会～

13:15	13:30	14:15	15:15	15:45	16:35
受付	小学校研究授業 (本校ランチルーム)	移動	研究協議会	大会行事 研究演奏 (本校体育館)	

2 日目 11 月 23 日 (土)

本校 教育研究発表会

8:30	9:00	9:20	9:30	10:15	10:30	11:15	11:30	12:30	13:30	14:15	14:25	15:10	15:20	16:50
受付	全体会	移動	授業 ③	移動	授業 ④	移動	教科 分科会①	昼食	授業 ⑤	移動	教科 分科会②	移動	全体 講演会	

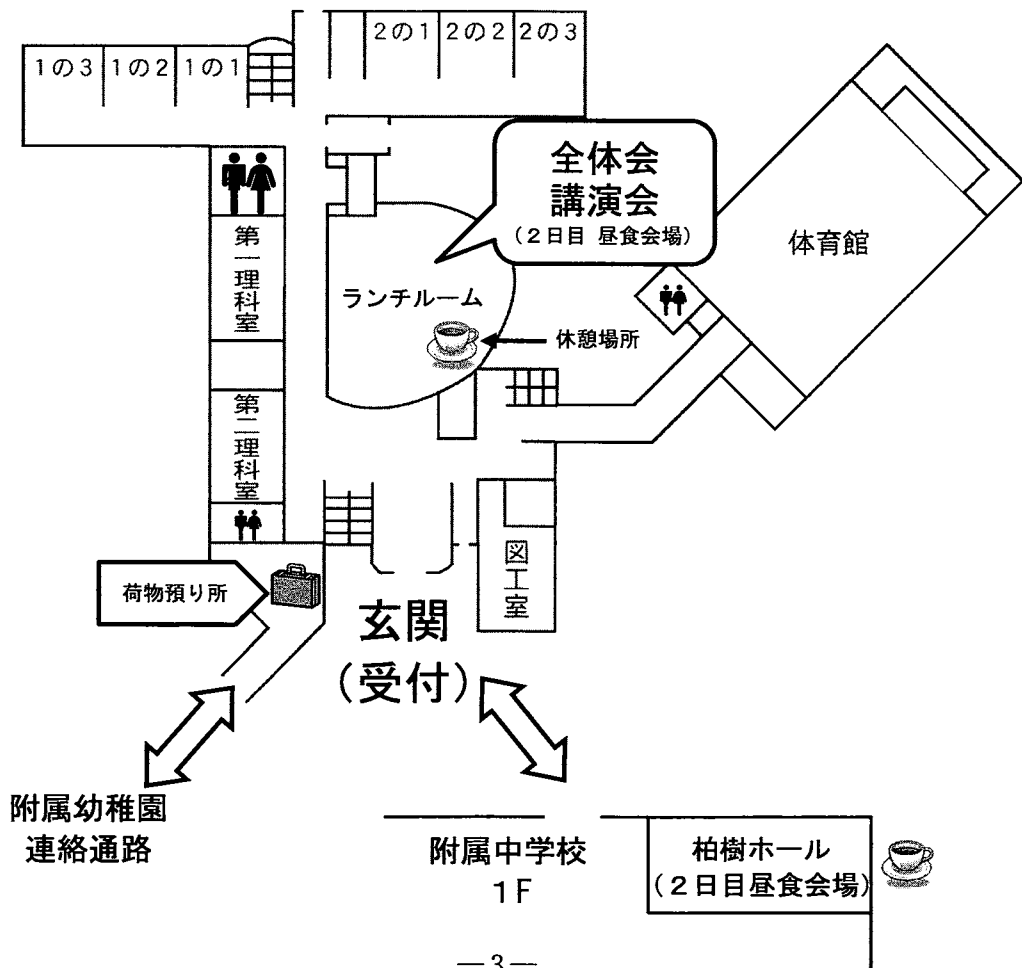
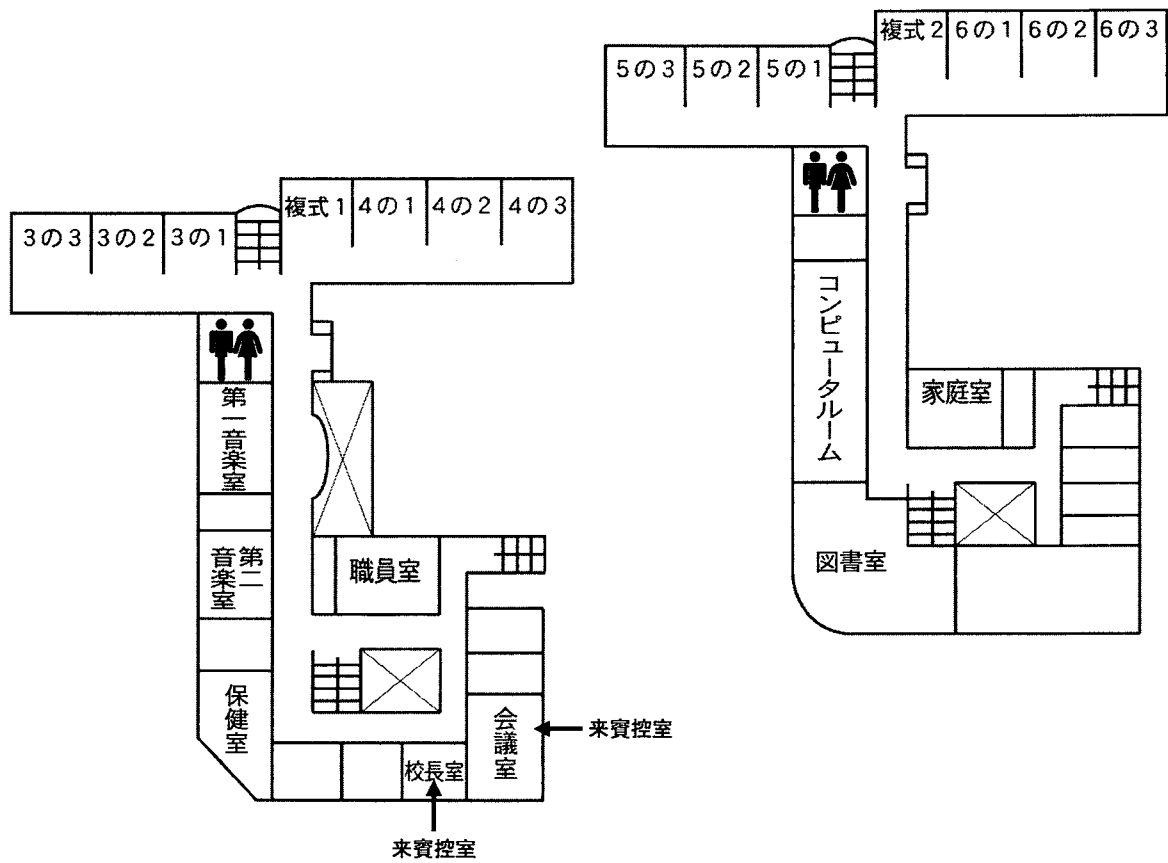
生活科～幼小連携授業～ ※附属幼稚園でも保育公開が行われます。

8:30	9:00	9:20	9:30	10:30	11:00	12:00	13:00	16:00
受付	全体会	移動	1の3 授業	移動	2の2 授業	昼食	「課題別分科会」(附属幼稚園) 文部科学省 田村調査官を迎えて	

■全体講演会

- ◇ 講師 堀 公俊 先生
堀公俊事務所代表, 組織コンサルタント, 日本ファシリテーション協会フェロー
- ◇ 演題 「学び合いを促進するファシリテーションの技術」

校舎案内図



◆ 1日目 11月22日（金） 授業等一覧

授業① 13：30～14：15

教科	学級	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
国語	4の1	「ごんぎつね」 ごんの最期について聞き合おう	加納 篤	4の1	14
	6の1	「やまなし」 十二月の谷川の様子を想像しよう	坂井 昇	6の1	18
社会	5の2	世界をリードする日本の工業 ～東日本大震災からスカイツリーを救ったバネ～	泊 和寿	5の2	28
算数	2の1	かけ算（2） ～九九のきまりをさがそう～	木谷 崇	2の1	34
	3の3	重さをはかろう ～重さのはかり方を考えよう～	石田 美保	3の3	38
体育	4の2	3Gハンドボール シュートチャンスをつくる動きを考えよう	北 豊	体育館	100

授業② 14：30～休憩～15：15

教科	学級	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
国語	1の1	「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 大すき→ずうっと大すき	登美いづみ	1の1	10
社会	複式	火事から人々をどう守るの ～消防署の役割は何？～	澤田 兼祐	複式1	24
算数	5の3	単位量あたりの大きさ（平均） ～全部たす以外に方法がない？～	福井 時昌	5の3	42
理科	6の3	水溶液の性質 ～正体を探れ！考察編～	小網 達也	第1理科室	56
図工	5の1	糸のこドライブ・パズルに挑戦 ～パターンを見つけよう！！～	宮本 美紀	図工室	88
道徳	6の2	家族でHappy ～ありがとう～	北野 美紀	6の2	108
英語	3の2	わたしができること ～できることを考えよう～	堀井 洋一	3の2	114
情報	4の3	広さを調べよう	杉森 慎一	4の3	120

授業①② 14：30～15：15

教科	学級	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
理科	3の1	明かりをつけよう ～電気を通すものと通さないもの～	森田健太郎	第2理科室	48

【教科別茶話会】（15：30～16：30）

1F ランチルームに、教科別のテーブルをご用意します。テーブルを囲み、当日の授業を見ての感想、次の日に向けてのアドバイス、日ごろの授業の中での悩み等、皆さんと共有したいと考えています。

石川県音楽教育研究大会～金沢大会～

授業 13：30～14：15

教科	学級	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
音楽	5の3	鑑賞で感じ取った曲想を演奏に生かそう	徳田 典子	ランチルーム	78

◆2日目 11月23日(土) 授業・教科分科会等一覧

授業③ 9:30~10:15

学級	教科	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
国語	1の1	「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 ずうっと大すき→ずうっと、ずっと大すき	登美いづみ	1の1	13
算数	3の3	重さをはかろう ～どれだけ重い?～	石田 美保	3の3	41
音楽	1の2	はくにとってリズムをうとう	大滝菜保美	第2音楽室	72

授業④ 10:30~11:15

学級	教科	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
国語	6の1	「やまなし」 五月と十二月の谷川の様子を比べよう	坂井 昇	6の1	21
社会	複式	火事から人々をどう守るの ～災害時の連携って?～	澤田 兼祐	複式1	27
算数	5の3	単位量あたりの大きさ(平均) ～きまりが使える場面を広げよう～	福井 時昌	5の3	45
音楽	6の3	楽しく歌おうクラスソング 「夜空ノムコウ」	徳田 典子	第1音楽室	84
図工	5の1	糸のこドライブ・パズルに挑戦 ～パターンを試行しよう!!～	宮本 美紀	図工室	91
体育	4の2	3Gハンドボール 作戦を考え連携プレーで得点を決めよう	北 豊	体育館	103

授業③④ 9:30~休憩~11:15

学級	教科	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
理科	4の3	水の姿のゆくえ ～すがたをかえると…?～	岩崎 誠	第2理科室	52
家庭	6の2	まかせてね 今日のお弁当 ～今日は私が料理長!～	中田 泉	家庭室	94

【教科分科会①】(11:30~12:30)

授業⑤ 13:30~14:15

学級	教科	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
国語	4の1	「ごんぎつね」 南吉の書いたこと書かなかったことについて考え合おう	加納 篤	4の1	17
社会	5の2	世界をリードする日本の工業 ～世界の希望 ジャパンブランドの底力～	泊 和寿	5の2	31
算数	2の1	かけ算(2) ～きまりから6の段をつくろう～	木谷 崇	2の1	37
理科	6の3	水溶液の性質 ～正体を探れ!実験編～	小網 達也	第1理科室	59
音楽	2の3	たがいの音をきこう	笹谷真理子	第2音楽室	75
体育	5の1	身近な物を使ってパワーアップ ～タオル編～	山下亜寿佳	体育館	104
道徳	6の2	家族でHappy ～ずっとみんなで～	北野 美紀	6の2	111
英語	3の2	わたしができること ～できることを紹介しよう～	堀井 洋一	3の2	117
情報	4の3	のびゆく石川 ～iPadアプリ「ロイロノート」の活用	杉森 慎一	4の3	122

【教科分科会②】(14:25~15:10)

生活科授業 ～幼小連携授業～ 9:30~11:00

教科	学級	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
生活	1の3	年長 あきとなかよし ～つき組さんとつくろう!あそぼう!～	山岸 留美	ランチルーム	62

生活科授業 ～幼小連携授業～ 10:30~12:00

教科	学級	単元・題材・主題	指導者	場 所	ページ
生活	2の2	年中 どきどきわくわく平和町探検隊 ～めざせ!平和町博士!～	中川 好美	プレイルーム ・2の2	66

【教科分科会】（11:30～12:30, 14:25～15:10）

教科	協議題	共同研究者	研究協力者	司会
国語	文学教材を読み深める聞き合い	折川 司 准教授 金沢大学	南井 由紀 教諭 金沢市立中村町小	辻口 哲也 教諭 金沢市立千坂小 北原 剛 教諭 金沢市立弥生小
社会	社会科における 学びを豊かにする聞き合い	松田 洋介 准教授 金沢大学	野崎 晃 教諭 金沢市立弥生小	瀬古 雅大 教諭 金沢市立緑小
算数	算数科における 関係づけと再構成	伊藤 伸也 准教授 金沢大学	荒磯 洋介 教諭 金沢市立千坂小	番作 剛志 教諭 金沢市立菊川小
理科	感動のある理科学習を 生み出す聞き合いとは	松原 道男 教授 金沢大学	田中 修介 教諭 金沢市立浅野小	平木 貴裕 教諭 津幡町立中条小
音楽	音楽科における 関係づけ再構成についての考察	篠原 秀夫 教授 金沢大学	日向 彰子 校長 白山市立緑屋小	岡野 恭子 教諭 金沢市立伏見台小
図工	造形活動に活きる コミュニケーションとは	鷺山 靖 教授 金沢大学	福田 満佐子 教諭 金沢市立中央小	松浦 律子 教諭 金沢市立緑小
家庭	よりよい生活をつくり出そうとする 聞き合いとは	綿引 伴子 教授 金沢大学	橋本 正恵 教諭 金沢大学附属中	馳 裕紀子 教諭 金沢市立押野小
体育	よりよい動きにつながる 聞き合いとは	吉川 京子 教授 金沢大学	北 恵子 教諭 金沢大学附属中	中村 裕一 教諭 白山市立松任小
道德	道徳的実践力につながる 効果的な聞き合い	中谷 昭代 講師 県教育委員会金沢教育事務所	堀岡 宣克 教諭 白山市立石川小	卯尾 早野佳 教諭 金沢市立新神田小
情報	ICT活用による 聞き合いへの効果	加藤 隆弘 准教授 金沢大学	角納 裕信 教諭 金沢市立木曳野小	飯田 淳一 教諭 内藤町立清湖小
英語	「気づき」や「思い」を深める コミュニケーション	山本 卓 教授 金沢大学 滝沢 雄一 准教授 金沢大学	今井 京 講師 野々市市立富陽小	吉田 武 教諭 内藤町立西荒屋小

教科	協議題	共同研究者	研究協力者	司会
生活	豊かなコミュニケーション力を育てる 幼小連携とは	土井 妙子 教授 金沢大学	橋本 郁子 教諭 金沢市立米丸小 吉川 恭子 教諭 金沢市立明成小	

★生活科協議会は、幼稚園の課題別分科会～幼小連携について語ろう～と合同で、13:00～15:30に行います。

◆ 全体講演会 <2日目> 11月23日(土) 15:20~16:50
講演者 堀 公俊 先生

演 題 学び合いを促進するファシリテーションの技術

(講演者紹介) 堀公俊事務所代表, 組織コンサルタント,
日本ファシリテーション協会フェロー



1960 年, 神戸生まれ。大阪大学大学院工学研究科修了。大手精密機器メーカーにて数多くの商品開発プロジェクトに参画し, 多数のヒット商品を育て上げる。

1995 年より組織改革, 企業合併, 教育研修, コミュニティ, NPO など多彩な分野でファシリテーション活動を展開。

2003 年に有志とともに日本ファシリテーション協会を設立し, 初代会長に就任。研究会や講演活動を通じてファシリテーションの普及・啓発に努めている。

<主な著書> 『ファシリテーション入門』『ワークショップデザイン』
『教育研修ファシリテーター』など多数



MEMO

MEMO

1の1 国語科学習指導案

登美 いづみ

- 1 単元名 大すきほんやさんをひらこう「ずうっと、ずっと、大すきだよ」
- 2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

エルフへの大好きな思いを叙述の中から見つけながら、想像を広げて読み深めていく聞き合い

本教材では、飼い主の「ぼく」が犬のエルフへの大好きな思いを回想して語っている。たとえエルフが太って動けなくなっても年老いても大好きなままである。しかし、その「大すき」は変わらないのではなく、本文では「大すき」→「ずうっと、大すき」→「ずうっと、ずっと大すき」というように明確な変化がある。大好きな思いが強くなっていく変化を、叙述を基に説明する力を育てる。そこで、「大すきせん」を使って視覚化する。

「大すきせん」とは、心情の変化を表した心情曲線の簡単なものである。縦軸を「すき」と設定し、横軸は時間軸とする。曲線を描き、変化をとらえやすくしたり、友だちと比較したりすることで、心情の変化の理由を説明したくなるように仕向ける。一人一人が聞き合いの中で自分の言葉で表現したり、友だちの意見を参考にしたりすることで、子どもの学びを豊かにする。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

聞き合いの活動で自分の考えと友達の考えとを関係付けたり、自分の考えを再構成したりするためには、子どもが意識して聞き合う必要がある。そこで、継続的に、聞き合い後に以下の項目で自己評価させる。

- 聞き合いで、今まで知らなかったことを知った。
- 聞き合いで、自分の考えが増えた。
- 聞き合いで、自分の考えを直した。
- 聞き合いで、友だちのことをすごいなと思った。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

教材文についてイメージをふくらませた後に、「大すき」が書かれている本を「大すきほんやさん」を開いて紹介する活動を行う。この言語活動を単元の初めに示すことで、並行読書を行う際、「大すき」を意識した読みができるであろう。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 既習の活用

1学期の学習「おむすびころりん」「おおきなかぶ」では、登場人物に寄り添えるようにふき出しワークシートを使用した。子どもは楽しみながら登場人物の言葉を自分で表す技能を身につけることができた。そこで、この学習でも、挿絵から「ぼく」の気持ちを想像して、ふき出しに自分の言葉で表現できるようなワークシートを準備する。「ぼく」だけにふき出しをつけることで、「ぼく」の気持ちの変化に焦点をしばって考えられるようにする。

(2) 関係づけさせたい事柄の意識化・焦点化

物語の筋をとらえやすいように場面ごとの挿絵を用意する。挿絵を使って話の展開を考えるだけでなく、挿絵と文を結びつけ、描かれた人物の様子や表情から、想像できるようにする。また、絵本の読み聞かせも並行して行い、教科書にない挿絵にも触れさせ、場面のイメージを広げる。

(3) 揺さぶる発問

子ども達がエルフに対する大すきせんを考える際に、年老いたエルフを強調する発問や「ぼく」と家族の違いを考えさせる発問をする。エルフに対する深い愛情に気付かせることで、さらに活発に意見を交流すると考える。

また、子どもの様子を見計らいながら必要に応じて子どもの体験談を聞くなどしてエルフの老いや「ぼく」の思いへの想像をふくらませるようにする。

5 単元構成（総時数 9 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 単元のめあてを知る（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元のめあてと学習の進め方をつかむ <ul style="list-style-type: none"> ・「ずうっと ずっと…」は絵本にあるね ・ぼくはエルフの事が大好きなんだね ・お気に入りの場面を紹介しよう ・ほかにも「大すき」が書かれている本を知っているよ ・自分の知っている 本をみんなに紹介したいな <p>おすすめの本を紹介する「大すきほんやさん」をひらこう</p> <p>2 ぼく的心情を読む（4 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○挿絵と文章を対応させながら「ぼく」の心情を大すきせんであらわす <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊んでいるから大すきだよ ・死んでしまったら 大すきせんは消えてしまうな ○エルフが元気だったころの「ぼく」の気持ちについて 大すきせんを使って話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・エルフとたくさん遊んで楽しかったよ ・いたずらするエルフも大好きだよ ○エルフが老いてからの「ぼく」の気持ちについて 大すきせんを使って話し合う 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・年をとっても大すきだよ ・「ぼく」がたくさんお世話してあげるよ ・みんな大すきだったんだよ ・ねるまえにかならず「ずうっと 大すきだよ」って言ってやっていたよ ○エルフが死んだ後の「ぼく」の気持ちについて大すきせんを使って話し合う 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・死んでしまっても大好きは続いているよ <p>3 お気に入りの場面を発表する（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発表の準備をする <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも一緒に楽しそうだから この場面をお気に入りの場面にしよう ・年をとったエルフに「ぼく」が一生懸命なこの場面にしよう ○お気に入りの場面を発表する <ul style="list-style-type: none"> ・私と同じ場面を気に入ったお友だちがいたよ ・自分が気づかなかったわけがあったよ <p>4 お気に入りの本を紹介する（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紹介する本の紹介文を書く <ul style="list-style-type: none"> ・大好きなこの本を紹介しよう ・きつねとおおかみがなかよくなったところを紹介するよ ○「大すきほんやさん」で「大すき」が書かれている本を紹介する <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの本を飾ると本当の本屋さんみたいだね ・気に入っている場面の絵もみせよう ・あの本がおもしろそうだな ・紹介された本が読みたくなったよ 読んでみよう 	<p>共有させておきたいこと</p> <p>「大すきほんやさんをひらこう」という目的をもって「大すき」が書かれている物語本を選び 紹介カードを書く 本屋のように本をディスプレイし 本を紹介しあう会を開き読書に広がりをもたせる</p> <p>意識化・焦点化</p> <p>本文の順を追って 年老いていくエルフの様子と ぼくの行動が分かる文を探して話し合っていく 整理して板書していくことで 叙述を丁寧に読み取れるようにする</p> <p>揺さぶる発問</p> <p>子ども達がエルフに対する大すきせんを考える際に エルフに対する深い愛情に気付かせることで、さらに聞き合いを活発にさせるために 年老いたエルフを強調する発問や「ぼく」と家族の違いを考えさせる発問をする</p> <p>揺さぶる発問</p> <p>子どもの様子を見計らいながら必要に応じて子どもの体験談を聞くなどして エルフの老いや「ぼく」の思いへの想像をふくらませるようにする</p> <p>意識化・焦点化</p> <p>おすすめ場面や好きな場面を紹介する文を書くことを確認する</p>

6 第1日 授業②（第2次中3時） 1の1教室

(1) 本時のねらい

ぼくからエルフへの思いを大すきせんで表し その理由を聞き合うことを通して エルフが生きている時の大好きな思いを読むことができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 3の場面を音読する</p> <p>2 課題について考えてきたことを聞き合う</p> <p style="text-align: center;">＜エルフへの 大すきせんはどうなるかな＞</p> <div><p>○全体で聞き合う</p><div><div>さんぽを嫌がるようになって心配したよ</div><div>獣医さんに年をとったんだと言われたよ</div><div>階段ものぼれなくなったよ</div><div>大すきせんは下がっていったよ 前のエルフとはちがうもの</div><div>年をとったから一緒に遊べなくなったんだね</div><div>寝る時に部屋につれてっっているよ</div><div>「ずうっと大すきだよ」といっているよ</div><div>やわらかいまくらをあげているよ</div><p>○なぜ ずうっと大すきだよっていったやったのかな</p><div><div>いっしょに寝ないとしんばいだからだよ</div><div>前はエルフがまくらだったからかな</div><div>まいばん言って エルフに分かってもらいたかったんだ</div><div>もうすぐ死んでしまうと分かっているからだね</div></div><p>○「エルフ ずうっと…」の続きをふき出しに書く</p><ul style="list-style-type: none">・年をとってもぼくの大切なエルフだよ おやすみ・ぼくがそばにいるからね しんばいしなくていいよ</div></div>	<p>8</p> <p>20</p> <p>15</p>	<p>意識化・焦点化</p> <p>エルフの老いや「ぼく」の気持ちについて話しえるように 本文の順を追って 年老いていくエルフの様子と 「ぼく」の行動が分かる文を板書していく</p> <p>意識化・焦点化</p> <p>挿絵からうかがえる「ぼく」の様子や気持ちに気付く事ができるように 板書の大すきせんに照らし合わせて挿絵を掲示する</p> <p>揺さぶる発問</p> <p>年老いたエルフを強調する発問をすることで 「だってそれでも…」と自分の言葉で説明したくなるように仕向ける</p> <ul style="list-style-type: none">○ぼくのへやでねなくちゃいけないのはなぜかな○やわらかいまくらをあげるのはなぜかな○太って動けなくなったのに すきだったのかな
<p>3 ふり返る</p> <p>○ワークシートにふりかえりをしよう</p>	<p>2</p>	<div>エルフは年をとって動けなくなってしまい ぼくと遊べなくなってしまったよ 大すきせんは下がると思ったけど 「ぼく」はもうすぐ死んでしまうと分かってから エルフのことを何があっても大すきだと伝えていっていると分かったよ 大すきせんは「ずうっと大すきせん」に変わったよ</div>

7 第2日 授業 ③ (第2次中4時) 1の1教室

(1) 本時のねらい

ぼくからエルフへの思いを大すきせんに表し その理由を聞き合うことを通して エルフが死んでもなお大好きな思いが強く続いていくことを読むことができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 4の場面を音読する</p> <ul style="list-style-type: none">・エルフはとうとう死んでしまったね・ずっと大すきせんはどうなるだろう <p>2 課題について考えてきたことを聞き合う</p> <p>＜エルフへの ずっと 大すきせんはどうなるかな＞</p> <p>○全体で聞き合う</p> <div><div>とうとう死んでしまったね とても悲しいだろうね</div><div>みんなで泣いて土に埋めたよ 家族中で悲しんだね</div><div>もう死んでしまったから 大すきではなくなったかもしれないね</div><div>夜の間に死んでしまったんだ もう会えないんだね</div><div>いくらか気持ちが楽だったとあるよ</div><div>ずっと大すきせんは続いているよ</div><div>子犬をもらえるのにももらなかったよ きっとエルフじゃないとだめなんだよ</div></div> <p>○なぜ ずっと ずっと大すきだよといってやるのかな</p> <div><div>エルフにその気持ちが伝わったと思っているからだよ</div><div>ほかの動物にもいってやるといっているよ</div><div>エルフが教えてくれたんだね</div><div>言うことで何があっても大すきなことが伝わるからだね</div></div> <p>○「ぼく」の気持ちをふき出しに書く</p> <ul style="list-style-type: none">・大切にするよ これからもずっと ずっと大すきだよ・安心してね ずっと僕の心の中にいるからね	8	
	20	<p>意識化・焦点化</p> <p>エルフが生きている時と、死んでしまった時とを区別させるために 前時までの大すきの線を板書する</p> <p>揺さぶる発問</p> <p>以下の発問をすることで「ぼく」の気持ちを深く考えさせたり ぼくと家族の思いの違いを感じ取らせたりする</p> <p>○どうして「ぼく」はいくらか気持ちが楽だったのかな</p> <p>○なぜ いらないといったのかな</p>
	15	<p>意識化・焦点化</p> <p>「ずっと ずっと 大すきだよ」は誰に言っているのかを問うことで 誰に対しての気持ちなのかを明確にする</p>
<p>3 ふり返る</p> <p>○ワークシートにふり返りをしよう</p>	2	

死んでしまったから ずっと 大すきせんはなくなると思ったけど「ぼく」はエルフからずっと大好きであることを教えてもらったということが分かったよ だからずっと大すきせんは「ずっと ずっと 大すきせん」に変わるんだよ

4の1 国語科学習指導案

加納 篤

- 1 単元名 読んで考えたことを聞き合おう「ごんぎつね」
- 2 本題材における聞き合い

主体的に言葉の力を活用しながら 受けとめ合った読みを関係づけ ごんの気持ちや行動の意味を中心に 作品世界を再構成していく聞き合い

「ごんぎつね」を読んで考えたことを発表し合い、全文を概観させる。その際、一人一人の感じ方の違いから、子どもとともに課題を作っていく。子どもにとって解決すべき課題を、与えられたものではなく自分達で解決したい課題であり、作品全体を見通してつながりのある課題にすることで、聞き合う価値と必要感を持たせることができるからである。

課題解決の過程では、「ごん」の気持ちの変化や行動の意味、情景などについて、言葉の力の一つである「場面の移り変わりに注意しながら、叙述を基に想像して読む」を用いて読ませる。その際、課題に対する互いの考えの根拠を聞き合わせる。表出された読みを関係づけることにより、一人で読むよりも豊かに読み深めることができるからである。子どもは課題解決のために、「自分の考えを分かってほしい」「他の考えを分かりたい」と願い、何度も叙述を読み直すことになる。

また、第三次では、各自が並行読書してきたきつねの登場する本を紹介し合い、読み合う。これは、目的に応じていろいろな本や文章を選んで読むことにつながる。

このように、互いの読みを聞き合い、聞き合った事を基に読み直すことを繰り返す中で、言葉の力は育まれ、言語感覚も磨かれていく。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

理由や事例などを挙げ、筋道立てて話したり、質問や感想、うなずきなどの反応を返ししながら聞いたりするように心がけさせる。また、読みの違いが自分の読みを豊かにすることを前提に、共通点や相違点を見つけながら話し合おうとする態度もつけておきたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

言語知識としては、主人公の気持ちは言動や情景描写から想像できること、行動には理由や思いがあること、五感を働かせて読むと想像がふくらむこと、別の言葉に置き換えることで、その言葉でしか表せない内容を見つけることができることなどを共有し、共通の既習として活用させたい。

言葉の力を意識した単元のめあてとしては、「読みが深まる体験の実感」を共有させたい。他の読みとの比較や読み直すことにより、疑問が解決したり新たな疑問が生じたりすることが、主体的な聞き合いの原動力になる。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 既習の活用

既習の場面と関係づけて考えやすいよう、学習履歴を教室掲示する。また、「モチモチの木」や「白いぼうし」等の学習で身に付けた言葉の力を生かして、叙述を基に「ごん」の気持ちの変化や行動の意味を想像させる。

(2) 関係づけさせたい事柄の意識化・焦点化

場所や時間を問うたり、ごんの行動を取り上げその意味を尋ねたり、読み取れるごんの性格を挙げその根拠となる叙述を探させたりすることで、子どもの読みの再構成を促す。また、『きつねのおきやくさま』と比較させることで、主題に迫らせる。

(3) 揺さぶる発問

子どもの思考に寄り添い、その時点で矛盾をはらんだ問いを投げかけることで、積み上げてきた読みを揺さぶる。揺さぶられた子どもは、折り合いをつけようと読み直したり聞き合ったりして、再構成することになる。

5 単元構成（総時数 12 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 学習の見通しを持つ（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全文を通読し 感想を書く ○感想を基に全文を概観し 課題を作る ○課題に対し 自分の考えを持つ <p>2 課題を解決する（6 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○場面 1（ごんの人物像）を読む <ul style="list-style-type: none"> ・いたずらばかりしているきつね ・ひとりぼっちの小ぎつね ・いたずらするのが楽しいきつね ・うなぎに首をまきつけられて ちょっとまぬけなきつね ・兵十にとってはぬすつとぎつねめ ○場面 2（情景とごんの後悔）を読む <ul style="list-style-type: none"> ・見え始めてから通った後まで見てたから ずっと隠れていた ・景色のことを詳しく書いてあるから 長い間待っていた ・なんでそんなに長い間隠れていたんだろう ・「ちがいない」とか「だろう」ってことは 本当はどうか分からないと思う ・でも ごんにとってはそれが本当のことなんだ ・兵十の顔が変わっていたのがショックで そんなふうにしかなかったんだと思う ○場面 3（償いへと向かうごんの心情の変化）を読む <ul style="list-style-type: none"> ・夢中でやったから かけもどったんだと思う ・今までそんなことしたことなかったから ・それなのに兵十に迷惑をかけてしまった ・「しまった」と思ったごんは 次からくりにしたんだね ○場面 4（兵十の言動が気になるごんの心情）を読む <ul style="list-style-type: none"> ・話の続きが気になったから 逃げなかったんだ ・本当は見つかりたかったのかも知れないな ・もし 振り向いたのが兵十だったら わざと見つかったかもしれないね ・でも ぬすつとぎつねめって思われてるよ ・なんだか ごんがかわいそう ○場面 5（兵十への思慕）を読む <ul style="list-style-type: none"> ・兵十のためにいっぱい時間を使ってるうちに ごんの中では友達みたいになっていたんじゃないかな ・兵十のかげぼうしをふみふみ行ってるのは 親子みたい ・気づいてほしかったんだと思う だって神様の仕業って言われて「引き合わないなあ」って言ってるから ○場面 6（最期の時のごんの心情）を想像する【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・分かってもらえて嬉しかったのかな ・それだったら 兵十を見てうなずくんじゃないかな ・死にそうで 目も開けられなかったんだ <p>3 比べ読みをし 次の読書へつなぐ（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『きつねのおきやくさま』を読み「ごんぎつね」との共通点・相違点について話し合う【本時】 ○きつねの登場する本を紹介し合う ○紹介された本を読んで 感想を交流する 	<p>共有させておきたいこと</p> <p>自分の読みを発言し 他の読みと関係づけることで 読み深めていくことを共有し 学習の計画を立てさせる</p> <p>初発の感想を場面毎に板書に位置づけ 感想を交流し合う中で子どもと課題を作り 共有する</p> <p>初めの 1 時間のみ 一人学習の時間を設定し 個別に支援するが 以降は 家庭学習で自分の読みを持たせた上で 次の課題について話し合わせる</p> <p>揺さぶる発問</p> <p>子どもの読みの実態に応じて必要ならば 以下のような発問をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ごめんなさい の気持ちが強いとかげをふみふみなんてするかな？ ○引き合わないと思ったのになぜ今日も 償いを続けたの？ ○なぜ 今日に限って うちの中へ入ってしまったんだろう？ <p>意識化・焦点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○からっと晴れる前 ごんはどこで何をしてたの？ ○おっちょこちょいなごんだと分かるころはどこ？ ○うなぎを放り投げないで 葉の上にのせておいたのはなぜ？ ○小さな変化にも気づける 想像力豊かなごんだと 分かるころはどこ？ ○償おうって思ったのはいつ？ ○ごんは どんな話が聞きたくてついていったんだろう？ <p>既習の活用</p> <p>学習履歴を教室掲示し 後悔から共感 償い 思慕へと変化していくごんの思いや 情景描写 ごんの人物像などを関係づける手がかりにする</p>

6 第1日 授業 ① (第2次中6時) 4の1教室

(1) 本時のねらい

利己的だったごんが 利他的行為に目ざめたときに殺されてしまう悲劇と 誰とも通じ合えない孤独だったごんが 兵十に分かってもらえたうれしさを 叙述を基に読みとることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
1 場面6を音読する	5	
2 課題について考えてきたことを聞き合う くぐったりと目をつぶったまま うなずいたごんは どんない気持ちだったか> ○班ごとに聞き合う	10	既習の活用 これまでに読みとってきたことと関係づけやすいように 学習履歴を教室掲示しておく 互いの読みを関係づけやすいように 根拠を示して話し合わせる
<div><div>分かってもらえて嬉しい やっと分かってもらえた</div><div>今頃気づいても遅いよ 死んじゃうじゃないか</div><div>命と引き替えにしてまで分かってほしかったのかな</div><div>今までいっぱいいたずらしてきたから仕方ないな</div></div>	10	
○全体で聞き合う	15	意識化・焦点化 ○引き合わないと思ったのに なぜ今日もくりを持ってきたのだろう？ 単なる償いであるなら 神様のしわざだと考える兵十には くりを持っていけないはずだから「その明くる日も」くりを持ってきたごんの行為には 償いよりもむしろ兵十への思慕が読みとれる そこと関係づけられれば うなずいた時のごんの喜びにも考えが及ぶと思われる
<div><div>やっぱり気づいてほしかったんじゃないかな</div><div>もう償いというより くりを持っていくこと自体が楽しいからだと思う</div><div>ひとりぼっちは寂しいから そのことをごんは知っていたから 何かせざるにはいられなかったんだ</div><div>いたずらぎつねではなく やさしいきつねとして死ねて 嬉しかったのかもしれない</div></div>		
<div>悔しい気持ちが強いとうなずいたりしないから やはり嬉しかったんだと思う ひとりぼっちで生きるより 死ぬけど分かってもらえる方がよかったんだな</div>		
3 ふり返る ○作者新美南吉は「ごんぎつね」にどんなメッセージをこめたのか ○今日までの学習で分かったことをふまえて自分の考えをノートに書く	5	

7 第2日 授業 ⑤ (第3次中1時) 4の1教室

(1) 本時のねらい

「ごんぎつね」を外から眺めることで 新美南吉の創作部分と書かなかった結末を知り 主題について思いを馳せることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題について考えてきたことを聞き合う</p> <p>＜作者新美南吉は「ごんぎつね」にどんなメッセージをこめたのか＞</p> <ul style="list-style-type: none">・いたずらばかりしていると殺されちゃう・人間は結局分かり合えない	5	
<p>2 『きつねのおきやくさま』を読む</p> <p>○同じきつねが主人公の話と比べて 共通点と相違点を見つけよう</p> <div><div>ひよこやあひるがくるまでは ひとりぼっちだったところが似ているな</div><div>最後に死んでしまうところも似ているな</div><div>どっちもきつねが死んでしまう話だけど 「ごんぎつね」の方が悲しいのはなぜ？</div><div>かみさまって言われて うっとりしたところは違うな</div><div>○班で話し合った後 全体で共有する</div><div>『きつねのおきやくさま』のきつねは最後にわらって死ぬから</div><div>死んだ後も ひよこたちにおはかをつくってもらえるから</div><div>作者の新美南吉は どうして続きを書かなかったんだろ</div><div>わざと悲しい終わり方にしたんだろ うけど 何か理由がありそう…</div></div>	10 5	<p>意識化・焦点化</p> <p>同じ神様でも 自分のことを神様みたいだと認められたきつねと 自分の償いに気づいてもらえず 神様のしわざだと勘違いされたごん</p> <p>同じ死ぬにしても 恥ずかしそうに笑って死んだきつねと ぐったりと目をつぶったままうなずいただけで死んだごんに気づかせ 「ごんぎつね」の悲劇性に浸らせる</p>
	10	<p>揺さぶる発問</p> <p>小さいお墓を作って涙を流してくれる後日談のある『きつねのおきやくさま』と 青い煙が筒口から細く出ている描写で終わる「ごんぎつね」を対比し 兵十の母の葬式を見て「悪さをしなくなりました」で終わる口伝に 後半部分を創作した新美南吉の意図を考えさせる</p> <p>○「ごんぎつね」の元になった「権狐」という口伝では ごんは撃たれなかったんだよ</p>
<p>3 ふり返る</p> <p>○今日の学習で分かったことをノートに書く</p> <ul style="list-style-type: none">・同じきつねが登場する話でも 随分印象が違ってたんだ 比べて読むと別の見方ができたぞ	5	

心が通じ合うことの難しさと だからこそ分かれようとする大切さを伝えたかったんじゃないかな 南吉さんもごんみたいに寂しかったのかもしれないな

参考文献：あまきみこ『きつねのおきやくさま』株式会社サンリード 1984

6の1 国語科学習指導案

坂井 昇

1 単元名 作品の世界を深く味わおう 「イーハトーヴの夢」「やまなし」

2 本單元における学びを豊かにする聞き合い

場面を比べて読んだり 作品を比べながら読んだり 作品と作者を重ねて読んだりして気づいたことを関係づけることを通して より豊かな作品の読みへと再構成していく聞き合い

「けれども、わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまい、あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません。」童話集「注文の多い料理店」の序文である。

賢治の作品は童話であるが、「イーハトーヴの夢」にも書かれているように賢治の思いや願いが伝わってくる作品が多い。そのため、本單元では子どもが作品から登場人物の気持ちや場面の様子だけを読み取るのではなく、作品に込められた賢治の思いや願いを受け取ることまでをめざしたい。特に「やまなし」は作品からだけでは、賢治の思いや願いが伝わりにくい作品である。そのため、場面を比べることや他の作品と読み比べること、「イーハトーヴの夢」で学習した賢治の生き方や考え方と重ねて読むことで、より豊かな読み取りへとせまりたいと考える。

3 学びを豊かにする聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

同じ作品を読んでも、その作品から伝わってくる賢治の思いや願いは読み手の言語経験や生活経験によって異なってくる。そのため、自分とは違った解釈であっても友達の考えを否定するのではなく、尊重し聞き合うことで自分の考えを再構成し豊かにしていこうとする態度をつけていきたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

子どもは、これまでに作品の登場人物と自分とを重ねて読むことは経験しているが、作品と作者とを重ねて読むという学習は初めてである。そのため、本單元では「やまなし」を読んで「これまでの作品とは違う、よく分からない不思議な作品だ。」という子どもの思いから学習を始めたい。そして、その思いを生かしながら「やまなしを深く理解するために作者と重ねて読もう」という単元の見通しをもち、「イーハトーヴの夢」の読み取りや「やまなし」の再読へと学習を進めていきたいと考える。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 既習の活用

作品と作者を関連付けた子どもの考えを関係づけ再構成していくことができるように、「イーハトーヴの夢」でまとめた年表を掲示し、賢治の生き方や考え方をいつでも振り返ることができるようにする。また、いろいろな賢治作品を教室に置き、単元の中で並行読書を進めていくことで、作品と作品とを関連付けた考えも関係づけ再構成していくことができるようにしたいと考える。

(2) 関係づけさせたい事柄の意識化・焦点化

2次では、五月と十二月の場面を比べて読み取る学習を行う。その際、それぞれの場面の様子を漠然と想像するのではなく、観点を決めて場面の様子を想像し、場面を比べさせたい。その観点についても、何を観点にすれば場面を比べたり作者と重ねたりできそうかを、子どもと考えながら決めていきたい。

(3) 揺さぶる発問

2次の最後には作品と作者とを重ねて読み、「やまなし」に込められた賢治の思いや願いを読み取る学習を行う。子どもは1次で学習した賢治の生き方や考え方をもとに、考えを関係づけ再構成するが、より賢治の思いや願いを焦点化するために、「どうして『やまなし』という題がついているのか」と問いかけ、十二月の世界に込められた賢治の思いや願いに着目させたいと考える。

5 単元構成（総時数 11 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 作者や作品を知り 単元の見通しをもつ（4 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「やまなし」の感想を交流し学習の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・今まで学習した物語とずいぶん違う 不思議な作品だ ・「クラムボン」や「イサド」って何だろう ・何だか深い意味がありそうだけど今までの読み方では十分に読めない 作者と重ねて読むことで賢治からのメッセージを受け取ろう ○「イーハトーヴの夢」から宮沢賢治の人物像を読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・賢治のしたこと考えたこと 作品を年表にまとめよう ・童話や詩に 賢治の夢や理想が込められているんだな ○「雨ニモマケズ」「注文の多い料理店」「どんぐりと山猫」を賢治との重なりを見つけながら読む <ul style="list-style-type: none"> ・「雨ニモマケズ」はみんなのためになりたいという賢治の考えと重なるよ ・「注文の多い料理店」も自分勝手な紳士を懲らしめている所が「人間も動物もなかよくしてほしい」という賢治の考え方と重なるんじゃないかな ・「どんぐりと山猫」の「いちばんばかで めちゃくちゃで～」と「雨ニモマケズ」の「デクノボー」も重なるよ <p>2 「やまなし」を賢治と重ねて読む（4 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○五月の谷川の様子を想像して読む <ul style="list-style-type: none"> ・最初は暗かったけど クラムボンが最後に笑ったら日光の黄金でぱっと明るくなったよ ・クラムボンは死んだり殺されたりするし 魚はかわせみに食べられるよ ・かにの兄弟はクラムボンや魚の話をしている かわせみが来た後はこわくてぶるぶるふるえているよ ・谷川の様子は明るくてきれいなのに クラムボンや魚が殺されるこわいことが起こっている かにの兄弟のこわい気持ちも伝わってくる ○十二月の谷川の様子を想像して読む 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・十二月の光は月光 水晶や金雲母や波の青白い炎もきれい ・生き物はかにの親子しか出てこない 死んだり殺されたりも出てこないよ ・かにの兄弟はあわでけんかになりそう でもやまなしが落ちてきたら おどるようにおいかけたり お酒を楽しみにしたりしているよ ・谷川の様子はきれいで静か かにの親子の楽しそうな気持ちも伝わってくるよ ○五月と十二月を比べて読み 作品に込めた賢治の思いや願いを想像する 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・谷川の様子は五月は日光で明るく 十二月は月光で美しいよ ・出来事やかにの気持ちからは 五月は自然や現実のきびしさ 十二月は自然がくれる喜びや楽しさが伝わってくるよ ・題名が「やまなし」になっていることも 賢治の思いや願いを考える手がかりになるよ ・自分に伝わってきた賢治の思いや願いを聞き合おう <p>3 紹介したい賢治作品の ブックポスターを作る（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○紹介したい賢治作品のブックポスターを作り 交流する <ul style="list-style-type: none"> ・「ゆきわたり」のポスターをかいたよ 賢治の理想の世界みたいに 人間もきつねもみんななかよくしていたよ 	<p>共有させておきたいこと</p> <p>「これまでの作品とは違う よく分からない不思議な作品だ」等の 子どもの初発の感想を生かすことで 作者の生き方や考え方を重ねて作品を読む必要感や見通しをもって「イーハトーヴの夢」の学習や「やまなし」の再読へと学習を進めていく</p> <p>賢治のいろいろな本を教室に置き並行読書を進めていくことで 賢治の作品や考え方についてより広く知ることができるようにする</p> <p>意識化・焦点化</p> <p>色・出来事・かにの様子などの観点を決めて読むことで 五月と十二月を比べて読みやすくする</p> <p>意識化・焦点化</p> <p>五月・十二月の様子を自分の言葉で短くまとめさせることで 友達と自分の共通点や相違点を意識し 関係づけ再構成ができるようにする</p> <p>既習の活用</p> <p>賢治の年表を活用し 「やまなし」と「イーハトーヴの夢」の賢治の生き方や考え方を重ねて考えることで 作品にこめた賢治の思いや願いを考えることができるようにする</p>

6 第1日 授業①（第2次中3時） 6の1教室

(1) 本時のねらい

叙述をもとに 色・出来事・かにの様子や気持ちなどの観点から 十二月の谷川の様子を想像して読み取り 自分の言葉で短くまとめることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 本時の課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none">・五月の谷川は日光で明るかったけれど かにの兄弟はこわい気持ちになったよ・十二月の様子は 五月とは変わっているよ <p>＜十二月の谷川はどんな様子かな＞</p>	5	<p>既習の活用</p> <p>前時までの学習履歴を提示することで五月との変化を比べやすくする</p>
<p>2 課題についての考えを聞き合う</p> <p>○いろいろな観点から十二月の様子を想像し 聞き合う</p> <div><div>谷川の水はラムネのびんの月光の色だ (色)</div><div>天井は波が青白い火みたいにゆれていてきれいだ (色)</div><div>クラムボンも魚もいなくて少しさびしい様子だ (出来事)</div></div> <div><div>十二月の谷川からは 月光や青白い波がきれいな水の中で かにの親子のうれしそうな様子が伝わってきたよ</div><div>やまなしが落ちてきて かにの兄弟やお父さんが追いかけているよ (出来事・かにの様子)</div></div> <p>○十二月の谷川の様子を自分の言葉で表して聞き合おう</p> <div><div>光や 出てくる生き物からは「きれい」や「静か」という言葉で表したいな</div><div>やまなしを追いかけてたり お酒になるのを待っている かにの様子は「楽しい」という言葉を使いたいな</div></div> <div><div>水の中の「静か」な様子や かにの親子の「楽しい」ようすをまとめて「平和」という言葉を使って表せるよ</div><div>かにの様子を表すのに「楽しい」だけじゃなくて「幸せ」という言葉も使いたいな</div></div>	20	<p>意識化・焦点化</p> <p>五月と共通した観点で想像することで 五月との共通点や相違点を意識することができるようにする</p>
	15	<p>既習の活用</p> <p>自分や友達の 五月のまとめを参考にするすることで 十二月の様子を自分の言葉でまとめやすくする</p>
<p>十二月は月光のきれいな光の中で冷たくて静かな様子だ やまなしがかにの親子を楽しい気持ちにしてくれている 十二月の様子を「冷たくて静かだけど楽しくて平和な世界」という言葉でまとめたよ</p>		
<p>3 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・十二月の谷川の様子は五月とずいぶん違っていたよ・五月と十二月を比べて作品にこめた賢治の思いや願いを考えよう	5	

7 第2日 授業 ④ (第2次中4時) 6の1教室

(1) 本時のねらい

五月と十二月を比べることや 題名の意味を考えるを通して 賢治の作品に込めた思いや願いを想像することができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 本時の課題をつかむ</p> <ul style="list-style-type: none">色や出来事 かにの様子などの観点で五月と十二月の様子を想像したよそれぞれの様子を自分の言葉でまとめて聞き合ったよ <p>＜五月と十二月を比べて読み 賢治の伝えたいことを考えよう＞</p>	5	<p>既習の活用</p> <p>前時までの学習履歴を提示することで五月と十二月を比べやすくする</p>
<p>2 課題についての考えを聞き合う</p> <p>○五月と十二月でどんなことが対比されているかを聞き合う</p> <div><div>五月は明るい日光の黄金で十二月はきれいなラムネのびんの月光だ【明⇄暗？】</div><div>五月は生き物がたくさん出てくるけど 十二月はかにしか出てこなくて静かだ【動⇄静】</div><div>外から来た「かわせみ」と「やまなし」が五月と十二月の世界を大きく変えているみたいだな</div><div>五月は殺す死ぬがあつてこわかったけど 十二月は平和でかにたちも楽しそうだった【恐怖⇄平和】</div></div>	25	<p>意識化・焦点化</p> <p>比べる観点を明確にすることで五月と十二月を比べやすくする また短い言葉にまとめて比べることで場面のイメージを明確にすることができるようにする</p>
<p>3 五月と十二月の対比に 賢治を重ねて読む</p> <p>○どうして「やまなし」という題がついているのかな</p> <div><div>やまなしは かにの親子を楽しい気持ちにさせるからじゃないかな</div><div>きびしい自然や苦しい農作業の中でも見つけたいと賢治が思う「喜び」や「楽しさ」が「やまなし」じゃないのかな</div><div>羅須地人協会で農業を教えたり歌や踊りを楽しんだ賢治と かにの親子を楽しい気持ちにさせたやまなしが重なるよ</div><div>人間も動物も植物も心が通い合うような 争いのない世界を「やまなし」は作ろうとしているみたいだ(やまなし＝賢治？)</div></div>	10	<p>揺さぶる発問</p> <p>「どうして『やまなし』という題がついているのか」と発問することで 十二月に着目し賢治の思いや願いを考えることができるようにする</p> <p>既習の活用</p> <p>賢治の年表を活用し 十二月の場面と「イーハトーヴの夢」の賢治の生き方や考え方を重ねて考えることができるようにする</p>
<p>五月は自然や現実の厳しさを 十二月は楽しさや喜びや心の通じ合いを表していたよ 賢治は題を「やまなし」にすることで十二月と自分の理想を重ねていたよ</p>		
<p>4 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">「やまなし」と賢治の思いや願いが重なったよ自分が選んだ作品にも賢治を重ねてブックポスターを作ろう	5	

MEMO

學習指導案

學習指導案

社会科

性 公 件

複式学級 社会科学学習指導案

澤田 兼祐

- 1 単元名 火事から人びとをどう守るの
- 2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

調査で知った関係諸機関のはたらきと人々の工夫や努力や それらに対する考えを 関係づけてとらえ再構成していく 聞き合い

複式学級では、今年度1学期に健康な暮らしを守る仕事の単元で、ごみ処理や浄水場のはたらきについて学習した。これに続いて、安全な暮らしとはどのようなものかを考えることから学習を始めていく。この単元では特に火災が起きた場合に、消防署や消防団などがどのような活動をしているのか、どのようにそれぞれがかかわり合って連携をしているのかについて調査を進め、理解を深めていく。そのように学習する中で、住民の願いやそれに応える消防署のはたらきを理解し、自分ができる防災活動にも意識を向けられるようにする。消防に関する一つ一つの活動が関係性をもってつながっていることを、その目的や効果に着目してとらえさせることで、活動の理解という知識の習得だけに終わらないようにする。各組織の活動目的から個々の社会事象をとらえた考えを関係づけていくことで組織の優れた連携に対する理解を深め、個々の考えを再構成することで、安全な暮らしを守る活動への理解を深めることにつながれると考える。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

この単元では、単元を通して知っていることや調べてきた事実をより身近にとらえて理解する態度を求めていく。火災に備えた設備を見つけたときに、そのはたらきだけを理解するのではなく、設備がなかったらどうなると予想されるか、他の設備や活動とどうつながっていくのかを予測させ、さらに調べさせていく。このような予測と調査を重ねていく態度をもたせることで、事実と事実を関係づけてとらえられるようになる。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

学習に際して、映像資料や消防署見学、インタビューで知った事実を学習の端緒とする。また、情報が不足した場合に教科書などの資料を用いて事実とそれに対する理由や根拠を見つけ出す活動を行う。

(3) 実生活に生かす発展的な活動

火災について学んだことを身近に起きるかもしれない事実とらえ、それに対して自分ができることを考えさせる。導入で示される写真で火災の恐ろしさを自覚させ、それを防ごうとしたり、備えようとしたりする実践的態度の育成を図っていく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 事実がもつ意味について考えさせる

子どもに疑問をもたせる資料の提示を行う。その資料から数多くの気づきを出し合わせ、それらの関連を考えさせる。資料は火災の現場写真など子どもが興味をもつものを選択する。また、気づきで出された事実の理由や根拠を示す資料や説明を見つけ出し話させる。そうすることで、一つの事実を聞き合いで理由や根拠を持った事実としてとらえられるようにする。

(2) 観点を明確にして、話をさせる

板書の際に、子どもの考えと事実を併記することを重視する。そうすることで視覚的にも自分たちが何について話し合っているのか迷いをもった時に話題を思い出しやすくなり、課題解決の方向に対して話がずれていないか判断して方向性の修正をしやすくなりやすくなる。

(3) 考えを比較して、よりより判断をさせる

数々の消火・防火設備や消火・防火活動などに対して、その目的や効果を知ることによって設置者の意図や設備同士、設備と活動の関連を探ることができるようになる。そのように複数の事実・資料から判断したことを聞き合わせることで、単一の見方から事実をとらえるのではなく、多角的な見方で事実をとらえられるようになっていく。複数の事実を知った上で、自分個人がどのように生活することが、安全な暮らしを支えているのか考えられるようにしていく。

5 単元構成（総時数 11 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 学習問題をつくる（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○火事の写真や資料からわかることを話し合う <ul style="list-style-type: none"> ・火事は 大事なものを壊す 怖いものだなあ ・消防車が高くはしごを のぼして放水しているよ ・金沢の原因で最も多いのが放火だけど 全国も同じかな ○学習問題をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・火を消すために 消防士はどんなことをするのだろう ・火事をいち早く察知するために どんな設備があるのだろう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>火事から人々を守るために 消防署や町では どのような活動をしているのだろう</p> </div> <p>2 火事の備えを調べる（9 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題に対する予想と 見学の計画を立てる <ul style="list-style-type: none"> ・いつ火事が起きても 素早く出動できるように 何か工夫があるのだろうか 見学で聞いてきたいな ・119 番は 消防署にかかって そこから消防車が出て火を消すのかな ・町の人との連携をしているのかな 聞いてこよう ○消防署見学を行う <ul style="list-style-type: none"> ・火事の現場に素早く到着できるように 中央司令室から現場に一番近い消防署に指令が出ているのだな ・消防士は 交代制で休憩を取っているんだね ○見学で知ったことをまとめる【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・消防車が何台もあったよ ・耐火服を着る時間を短いから 出動が素早くできるのだね ○消防署のはたらきを理解する【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・通信司令室から いろいろなところに指令が出ているね ・水道局やガス会社にも連絡を届けることが 大切なんだね ○災害を予防する消防署のはたらきを知る <ul style="list-style-type: none"> ・普段から出動に備えて 道具や設備の点検をしているのだな ・地域の防災訓練に参加して 消火体験をさせてくれたり 予防に大切なことを教えてくれたりするんだね ○学校にある火事に備えた設備を調べる <ul style="list-style-type: none"> ・火災探知機が 各部屋にあったよ ・火事を発見すると 職員室に情報が集まるよ ○地域にある火事に備えた設備を調べる <ul style="list-style-type: none"> ・街角に 消火器がおいてあったよ ・消火器があれば 小さな火は自分たちで消せるね ○消防団の活動を知る <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの町を守りたいという思いをもっているのだな ・火事ばかりでなく 土砂崩れなどの災害が起きたときには 多くの消防団が協力して人を探すことをしているのだね ○火事などの災害に対する家庭の備えについて考える <ul style="list-style-type: none"> ・火事が起きたら まず安全なところに避難するね ・避難するときには 大切なものだけもっていくのだね ・怪我を治療するためのものを準備するといいいのだね <p>3 調べたことをまとめる（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対する答えをまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・火事が起きたときになるべく早く消火するために 消防署を中心として 多くの機関が協力していたよ ・自分の身を自分たちで守るために 災害にあったときのことを家族で相談したいな 	<p>実生活に生かす発展的な活動</p> <p>火災現場の写真を読み取ること で 火事の怖さを知り 火事を防ぐために自分がどうすればよいか進んで考えたいという意欲をもたせる</p> <p>事実がもつ意味について考えさせる</p> <p>見学で知ったことについて 個々の役割を明確に話させ 写真資料を活用することで 諸機関の協力的体勢の理解をしやすくする</p> <p>事実がもつ意味について考えさせる</p> <p>連絡・消火・補助といった観点別に板書に位置づけることで 活動の関連とその目的をとらえられるようにする</p> <p>事実がもつ意味について考えさせる</p> <p>それぞれの設備を 防ぐ・消す・逃げる・知らせるなど目的別に分類させ どれも火事に備えた設備であると理解させる</p> <p>考えを比較して、よりよい判断をさせる</p> <p>板書で個々の活動とその効果について関連付けてまとめ 家族や地域の安全の視点をもって災害からの避難を考えられるようにする</p> <p>実生活に生かす発展的な活動</p> <p>消防署など行政の取り組みと個人の取り組みを分け さらに火災の予防と火事にあったときの4つの場合に分けて整理させる これにより 自分ができることを考え 行動できるようにその活動を促す</p>

6 第1日 授業 ② (第2次中4時) 複式1教室

(1) 本時のねらい

見学で知った火事に備えた工夫を発表し合い 短時間で準備ができる消防署の取り組みを知る

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
1 課題を知る くすばやく消火するために 消防署ではどのような工夫をしているのかな	5	
2 調べてきたことを 班で観点別にまとめる ○火事をくすばやく消すために 消防署でどんな工夫を見てきたか ・ 出動がくすばやくできるように 訓練をしているそうだよ ・ 中央司令室にまず情報が入り そこからいろいろなところに連絡をしているよ	15	事実がもつ意味について考えさせる 火事の現場に素早く向かえるようにすること いつ火事が起きても対応できるようにすることなど 消火のための取り組みを付箋とホワイトボードで分類できるようにする
3 学級で 消防署の工夫についてまとめる ○それぞれの班で どんな工夫を見つけたか <div><div>出動の工夫で素早く消火服に着替えられるようにしていたよ</div><div>準備だけでなく 普段から素早く行動する訓練をしているから 短い時間で出動できるよ</div><div>より短い時間で出動できるように 準備・通路・訓練の工夫があったよ</div><div>2階から直接車庫にいけるようにする 消防署のつくり工夫があったよ</div><div>確実に消火するために 短い時間でホースをつなぐ訓練をしていたよ</div><div>ホースはいくつもあったよ</div><div>近所で見た消火栓の標識も関係あるのかな</div><div>ホース同士は 簡単で頑丈につながるよ</div><div>火事が大きくなる前に消火するために 現場に到着後より短い時間で消火活動に入れるような工夫があったよ</div></div>	20	観点を明確にして 話をさせる 子どもの発言を板書で分類することで発言に連続性をもたせ その観点に関する考えを関係づけられるようにする 事実がもつ意味について考えさせる 複数の観点から消防署の取り組みをとらえることで いくつもの工夫がすべてなるべく早く消火するために行われていることが理解できるようにする
火事の現場になるべく早く到着し消火活動ができるように 出動にかかる時間や現場で準備にかかる時間を短くするため 訓練や建物の工夫があった		
4 ふり返る ・ 普段から火事に備えて訓練をしているから 火事で出動する時にあわてないのだな ・ 連絡を受けてから 5分くらいで到着するのをめざしているなんて 安心だな	5	

7 第2日 授業④（第2次中5時） 複式1教室

(1) 本時のねらい

通信司令室を中心とした連絡の仕組みを その目的と効果を関係づけてとらえ 諸機関のはたらきについて関連させてまとめることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題を確認する</p> <p>○火事が起きたとき どこに連絡すればいいのだろう</p> <ul style="list-style-type: none">・消防車の出動のため 消防署に連絡しなきゃいけないね・けが人を運ぶため 救急車にも連絡するよ <p>くすばやい消火のため どのような機関が 活動しているのだろう></p>	5	
<p>2 課題について調べ グループでまとめる</p> <p>○どのような機関が活動しているか調べよう</p> <ul style="list-style-type: none">・連絡はまず通信司令室に届くよ・消防車も救急車も 消防署にあったよ	10	
<p>3 調べたことについて 考えを出し合う</p> <p>○火事が起きると どんな機関が活動していたか</p> <div><div>通信司令室が中心になって いろいろな機関に連絡しているよ</div><div>消防署から 消防車が出動するよ</div><div>交通が滞らないように 警察にも連絡が行くよ</div><div>消火するだけでなく 交通整理など消火の助けをする機関もあるのだな</div><div>消火を速やかに行うことができるように 水道局も協力するよ</div></div> <p>○119番でつながる 通信司令室を中心とした仕組みの優れているところは どんなところだろう</p> <div><div>火事であわてるから 連絡が 119番だけなのはいのこと</div><div>もし 119番以外にも 連絡が必要だったら 連絡に時間がかかりすぎるね</div><div>もし通信司令室がなかったら 消火の水がしっかり出ないかも</div><div>通信司令室が多くの機関に指令を出すことで 短時間に多くの組織が動けるような仕組みになっていて 火事が大きくなならないうちに消火できるようになっている</div></div>	25	<p>事実がもつ意味について考えさせる 連絡・消火・補助といった観点別に板書に位置づけることで 活動の関連とその目的をとらえられるようにする</p> <p>事実がもつ意味について考えさせる 各活動の関連を地域の住民の立場から考えさせ 安全な町づくりのための 連携の工夫をとらえられるようにする</p>
<p>119番でつながる通信司令室を中心とした仕組みのおかげで 連絡するところが1ヶ所ですむ手軽さばかりでなく 多くの機関が協力して消火に向けて活動できるという大きなメリットがあった</p>		
<p>4 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・消火に機関が必要だけど うまく連携していて安心だな	5	

5の2 社会科学学習指導案

泊 和寿

- 1 単元名 世界をリードする日本の工業 ～世界の希望ジャパンプランドの底力～
- 2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

我が国の工業について問題意識をもち 自ら調べたことや考えたことを進んで表現しながら探究し明らかにしていく 聞き合い

翻ってみるに、近年の我が国の工業の様子は、自動車産業が生産台数世界一位の座を他国に譲り、大手有名企業も多くが他国資本の傘下となっている。世界最高の性能を誇った ITC 産業や電化製品産業は国際競争に苦戦し、工場等の国外移転によって好転したかに思えた企業戦略も世界情勢の急変等によって方針の転換を余儀なくされている。我が国の工業は世界をリードするどころか、他国の下請け企業となり、このまま我が国の工業は衰退してしまうのか。

本単元において、次代を担う子どもにとって本当に必要な学びは、資料を読み取る練習をしたり、我が国の工業が生み出した過去の工夫を知ったりすることではない。ましてや、世界市場では勝てないが、高い技術は持っていることを知って胸撫で下ろすことではない。十数年後に社会の舞台に出る彼らにとって本当に必要な学びとは、我が国にある、世界をリードすべき工業生産のモデルケースに学ぶことである。これまで、人々が工業の恩恵を受ける際には、公害や貧富拡大や環境破壊等々、様々な反価値が生じてきた。経済は弱肉強食であり、勝てば官軍の世界なのか。否、我が国には、自他共に繁栄する知恵をもって実践する工業のモデルケースがたくさんある。様々な主義主張や方法論が破綻する中、いよいよ、本物の工業の時代が来たのである。

自ら聞き合いを求め、共に探究し、世界の希望となって次代をリードしゆく日本の工業の底力を感じたならば、子どもは、次代を拓く知恵と意欲をもって、社会に参画してゆくであろう。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

教材や資料との出合わせ方の工夫などによって、我が国の工業生産について自らの問題意識をもって熱心に探究しようとする態度や、調べ活動を通して資料を活用しながら確かな事実認識を得ようとする態度や、共に聞き合いを通して価値ある学びを獲得したいと願いながらよりよい聞き合いをして自らも学び続けようとする態度を育んでいきたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

地図やグラフ資料や白地図へのまとめ活動などを通して、様々な工業製品が国民生活を支えていることや、我が国の各種の工業生産や工業地域の分布など、我が国の工業の現状についての概観的知識を共有させたい。また、年間を通しての取り組みになるが、多角的多面的なものの見方や考え方による調べや話し合いによって、より確かな事実や社会への認識やものの見方や考え方が深まっていくという感覚を共有させたい。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 事実がもつ意味について考えさせる

私たちの生活が様々な工業製品によって支えられているという事実や、我が国は品質の高い工業製品の輸出による貿易が国民生活の繁栄につながっているという事実から、我が国の現在の生活の豊かさは我が国の工業の発達によるところが大きいという事実などについて、具体例を多く挙げさせ、関係づけることによって事実を多角的に見て理解させる。

(2) 観点を明確にして、話しをさせる

学習問題についての自分の考えを、根拠や着目した観点などを明らかにして話させることにより、考えを整理しやすくし、自他の考えを関係づけたり再構成したりすることを促す。

(3) 考えを比較して、よりよい選択をさせる

自分の考えと他の考えを比較してよりよい選択をさせることにより、自他の考えの関係づけ再構成が促され、我が国の工業の事例や、工業の様子や特色、我が国の工業が目指すべきより良き未来への指標についての理解や考え方が深まっていく。

5 単元構成（総時数 7 時間＋課外 2 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 私たちの生活と工業生産（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにはどんな工業製品があるか <ul style="list-style-type: none"> ・冷蔵庫や洗濯機があるよ ・テレビやパソコンがある ・車や消防車 信号なども ・薬や医療機器もそうだよ ○身の周りの工業製品がなかったらどうなるか <ul style="list-style-type: none"> ・家事に時間がかかって生活が不便になる ・交通が不便になって移動に苦勞する ・病気やけが 火事になった時にとても困ることになる ・これらの製品はどこで作っているのだろう ・私たちの生活は 様々な工業製品に支えられているのだ ・我が国の工業はどのような様子や特色なのかな <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>我が国の工業の様子や特色は？</p> </div> <p>2 我が国の工業の様子と特色（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の工業地域について調べよう <ul style="list-style-type: none"> ・工場の多い場所を日本地図に表すとこうなるよ ・工場はどんな場所に多いのかな ・工場の多い場所を工業地帯とか工業地域というよ ・内陸にもあるけど海岸に多いのはなぜかな ○工業地域の立地と意味について考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・海岸沿いにあると原料や製品を船で運び出しやすい ・工業製品を大量に貿易によって外国にも船で送るからだ ・内陸にある工場のあるのはなぜかな ・精密機械などは田舎で作る方がよいし 高速道路や鉄道 飛行機なども使って輸送しているのだな ・我が国の工業地帯は全国にあつて 輸送手段を工夫しながら生産や貿易をしたりしているのだな ・中でも機械工業が盛んなのだな <p>3 どうなる?!我が国の工業（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国際社会における我が国の工業の現状はどうか <ul style="list-style-type: none"> ・自動車や電化製品も生産台数世界一でなくなったよ ・国外に作った工場は様々な事情で経営が困難に ・経営が悪化して外国企業の傘下になった有名企業もある ・もう日本の工業はダメなのか ・工業国日本が危ない ・日本の工業はどうなってしまうのか <p>4 世界の希望ジャパンプランドの底力（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災からスカイツリーを守ったバネとは【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ誰にも作れない凄い製品が作れるのか ・技術が世界一優れているからではないか ○東海バネが世界一なのはなぜか【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・最強の手仕事 最新の IT 最高の環境を目指したから ・これからの日本の工業はどうすればよいかな ○世界で活躍する日本の工業ビジョンを提案しよう <ul style="list-style-type: none"> ・常識にとらわれない逆転の発想・「人のために」の信念 ・常に向上を目指す ・敵をも味方に ・IT 活用 ・技術や利益ばかりを追いかけても駄目だ 人ために働くことだ ・工業は私たちの生活に欠かせない これから我が国の工業は人間を大切にする経営で世界の希望となるのだ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>事実がもつ意味について考えさせる</p> <p>身の回りにある工業製品の存在意義を考える活動を通して私たちの生活が工業に支えられているという事実を認識するとともに 我が国の工業について探究していく意欲と見通しを持つ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>多角的な見方・考え方の必要感を引き出す課題設定をする</p> <p>我が国の工業の様子や特色をつかむには 既習を生かして概観したり 時間経過や現状について具体的な事例を通すなど多角的な見方や考え方をもって 単元を通して探究できる課題設定が必要となる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>観点を明確にして、話をさせる</p> <p>地図やグラフ資料などの調べ活動から 地形・自然条件・工業生産品の種類・原料などの観点を明確にして話すことを通して我が国の工業の様子や特色についてつかむ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>子どもに共有させておきたいこと</p> <p>我が国の工業の様子や概観や経緯 現状について希望的観測ではなく 実態をしっかりと把握することが これからの日本の工業について考えていく原動力となる</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>考えを比較して、よりよい判断をさせる</p> <p>地図やグラフ資料などの調べ活動から 地形・自然条件・工業生産品の種類・原料などの観点を明確にして話すことを通して我が国の工業の様子や特色についてつかむ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>実生活に生かす発展的な活動</p> <p>世界で活躍する様々な工業の様子を比べることにより これから日本の企業が目指すべき姿をつかむと同時に その姿こそが世界の希望となるジャパンプランドの底力であることに気づいていく</p> </div>

6 第1日 授業 ① (第4次中2時) 5の2教室

(1) 本時のねらい

従業員80人しかいない企業が 世界一のバネメーカーになっている理由について 関心意欲を引き出し多角的な見方や考え方で予想し 話し合うことができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 東京スカイツリーを救ったバネについて知り学習問題を立てる</p> <p>○世界で唯一のバネを作る企業はどんな企業かな？</p> <ul style="list-style-type: none">・世界中 900 社以上に信頼され 三万件の注文が来る企業・値引きを一切せずに平均の四倍の利益を上げる日本企業 <p><世界一のバネメーカーになることができたのはなぜか></p>	10	<p>子どもに共有させておきたいこと</p> <p>T社の作ったバネが大地震から東京スカイツリーを救い そのバネを唯一作れるのは 世界一の日本メーカーだけであるということ</p>
<p>2 予想し 話し合う</p> <p>○予想して 話し合おう</p> <div><div>世界一高性能の機械で作っているからでは</div><div>最新の IT を活用して 正確に作っているからでは</div><div>アジアに工場を持って たくさん儲けたからでは</div></div> <div><div>バネを作る世界一の大企業だから 機械も IT も人材も最高のものを揃えられたからではないだろうか</div><div>バネを作る世界一 大きな大企業で お金を持っているからでは</div></div>	15	<p>事実がもつ意味について考えさせる</p> <p>T社が世界一な理由について 既習を生かして考えることで 様々な考えを引き出し 関係づけ再構成を促す</p>
<p>3 従業員が 80 人の企業であることを知って話し合う</p> <div><div>たった 80 人の企業に世界一高性能の機械はないだろう</div><div>少数精鋭で世界一の職人を集めた企業なのかもしれない</div><div>お金なさそうだから IT 活用もできていないかもしれない</div></div> <div><div>人数の少ない企業に世界一高性能の機械が無いとは言えない</div><div>80 人しかいない企業が世界一のバネを作る 最高の技術を持っているのはなぜなのだろう</div></div>	10	<p>考えを比較してよりよい選択をさせる</p> <p>予想を比較し合うことを通して 予想をより妥当性のあるものに関連付け再構成していく</p>
<p>4 ふり返りと次時の見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none">・技術がすごすぎるから 世界に認められたのではないか・世界一に成れたのは技術以外に何があるのか・世界で苦戦している企業のしていない何かがあるはず	10	
<p>日本の工業が苦戦する中 80 人しかいない企業が世界一のバネを作って世界で堂々と商売をしている その理由を知りたい</p>		

7 第2日 授業⑤ (第4次中3時) 5の2教室

(1) 本時のねらい

T社が世界一のバネメーカーである理由について調べ 考えたことについて話し合うことを通して 我が国の工業がより良い未来へ向かうための指標について関心をもつ

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 本時の学習について見通しをもつ</p> <p>○T社について調べ 予想を確かめよう</p> <ul style="list-style-type: none">・調べる資料が欲しいな・T社のレポートから みんなで調べよう	5	
<p>＜世界一のバネメーカーになることができたのはなぜか＞</p>		
<p>2 グループで調べ まとめる</p> <p>○T社の取り組みについてグループで調べ まとめよう</p> <div><div>オーダーメイドの機械を使っている</div><div>最新の IT を導入しているからだ</div><div>最高の環境づくりをしているから</div><div>品質がいいからだよ</div><div>世界最新で最高の技術を使っているからだ</div><div>資格制度を作って職人を育てているから</div><div>最強の手仕事ができる職人がいるからだ</div></div>	25	<p>考えを比較して、よりよい選択をさせる</p> <p>出された考えについてグループ内や全体で比較検討することによって 関係づけと再構成を促す</p>
<p>3 全体で話し合う</p> <div><div>世界最新で最高の技術を使っているからだ</div><div>最強の手仕事ができる職人がいるからだ</div><div>タブーに挑戦し 情報を公開したり 在庫をたくさん持ったりしているから</div><div>技術も大切だけど それよりも人を大切にして みんなで力と知恵を合わせている</div><div>社員を大切にして みんなが一生懸命に働いているから</div></div>		
<p>4 予想を検証し 次時への見通しをもつ</p> <p>○T社と現在世界一の日本企業と比べよう</p> <ul style="list-style-type: none">・K T社も 社員と品質の良さを大切にしている・M社も 社員と地元を大切に タブーに挑戦した・D社も 高い品質があったからタブーに挑戦できた <p>○T社の人は どう思って仕事をしているかな</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の会社と仕事に誇りをもって仕事をしている・我が国の工業がより良い未来へ向かう指標が見えてきた	15	<p>実生活に生かす発展的な活動</p> <p>確かと思える仮説ができたなら 他の事例にも当てはめて検証し証明することが 確かな学びにつながるという学び方を知らせる</p>
<p>T社が世界一のバネメーカーになることができたのは 人間を大切に 最高の商品と会社づくりをめざしたからだったのだ</p>		

MEMO

學習指導案

算 数 科

2の1 算数科学習指導案

木谷 崇

1 単元名 かけ算(2)

2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

乗法に関して成り立つ性質やきまりを用いることによって6, 7, 8, 9, 1の段の九九を進んで構成するようにする聞き合い

教科書では、かけ算(1)でかけ算の意味と、5, 2, 3, 4の段の構成について学ぶ。その後、本単元で、6, 7, 8, 9, 1の段へと学習を進め、乗法について成り立つ性質と倍の意味、2位数×1位数、九九表のきまりと学びを進めていく。

本単元では、最初に5, 2, 3, 4の段の乗法について成り立つ性質やきまりを学ぶ。次に、6, 7, 8, 9の段を構成しながら九九表の数の並び方のおもしろさを見つけ、聞き合いにつなげていく。そのことで、九九表の面白さを知り、後半のかけ算九九の学習が意欲的に行われると考える。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

① 解法の「違い」を見つけようとする態度

本学級には、すでに九九を暗唱できる子どもがいる。その中には、九九の答えを覚えることが学習の目的であると思込んでいる子どももいる。そこで、同じ答えでもいろいろな方法で解を求められることを価値づける。解法の「違い」を意識させ、新たな解法や見方、考え方を進んで身につけていく態度を養いたい。更に、それらを九九表のきまりと結びつけ2位数と1位数のかけ算を多様な考え方で求めさせたい。

② 明確な根拠に基づいて説明・理解しようとする態度

これまでの学習では、多数決などでは考え方の成否は決まらないことは指導してきた。しかし、自分の考え方に執着してしまい、他の意見を素直に受け入れられない場面も見られる。そこで、かけ算(2)では、九九の答えの見つけ方について、多くの考え方が登場するので、その根拠を問いながら学習を進めていく。また、考え方の妥当性について判断する態度も養っていく。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

本単元まで学習してきた掛け算の学習で、累加による考えを身に着けてきた。かけ算(1)の2～5の段の学習では、乗法の用いられる場面や(1つ分の数)×(いくつ分)=(全体の数)という式の意味を身に着けていることを確認し、本単元の学習に入っていきたい。

(3) 問題の設定

ここまで、累加の考えを中心に4つの段(5, 2, 3, 4, の段)の九九を構成してきた。そのことから考え方がパターン化してしまい、意欲が続かない心配がある。そこで、後半の学習では九九表のきまりを最初で取り上げ、かけ算九九を多面的にとらえられるように単元構成をする。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 表現方法の選択・変換

かけ算(1)の学習では各段をイメージしやすい具体物を素材とし、(1つ分の数)が(いくつ分)という乗法の考え方の理解を促す。更に、アレイ図、式と変換し学習を進めていく。

本単元では、これに九九表や数表を表現方法として取り入れ、多角的に乗法九九を理解できるようにする。また、引き続きアレイ図や式を使って(1つ分の数)が(いくつ分)だから○×□という言葉表現を重ね、かけ算の理解を確かなものに再構成していく。

自分の考えを持つ際には、どの表現がうまく自分の考えとして表現できるかを意識させる。説明の際にも、自分の考えと友達の考えを、板書の図・式などと結び付け関係づけを促す。

(2) 考え方の価値付け

① 「違い」の価値付け

かけ算の積が同じでもその積の出し方は多様である。同じ九九表を見ているきまりが多様に見つけることができる。解答を出すことだけでなく、多様な考え方に目を向けさせる。また、その段固有のきまりと、どの段にも共通するきまりを見つけた時は、その考え方を価値づけ、乗法の性質や、乗法の法則の考え方を一般化させていく。

② 判断基準の価値付け

新しい段の学習では、乗法の性質や、乗法の交換の法則、分配の法則の考え方が出た時には、「どうしてそういえるのか」と問うことで理由を関係づけ、九九についての考え方を再構成させていく。

5 単元構成（総時数 17 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 九九のきまり（2 時間）</p> <p>○今までの段を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2～5 の段まで しっかり覚えたよ <p>○かけ算のきまりを見つける【本時】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今までの九九の段にはそれぞれきまりがある・ どの段でも言えそうなきまりもあるよ・ 九九っていろんなきまりがあっっておもしろいな <p>2 6 の段・ 7 の段（6 時間）</p> <p>○6 の段の九九をつくる【本時】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 足し算で作れるよ・ 4 の段＋ 2 の段でもできるよ・ 表もうまく使えないかな <p>○7 の段の九九をつくる</p> <ul style="list-style-type: none">・ 6 の段と同じつくり方でできそうだな・ しっかり覚えて行こう <p>3 8 の段・ 9 の段・ 1 の段（4 時間）</p> <p>○8 の段の九九をつくる</p> <ul style="list-style-type: none">・ 8 の段は覚えにくい・ 8 の段のきまりはないかな <p>○9 の段の九九をつくる</p> <ul style="list-style-type: none">・ 9 の段もきまりを使ってできないかな・ 9 の段のきまりもありそうだな <p>○1 の段の九九をつくる</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1 の段はとっても簡単だ・ これですべての九九が分かったよ <p>4 「倍」とかけ算（1 時間）</p> <p>○倍の問題を解く</p> <ul style="list-style-type: none">・ 倍って何算かな・ 倍というのは「いくつ分」のことでかけ算だな <p>5 九九表ときまり（1 時間）</p> <p>○今までのきまりをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今までいろんなきまりがあったな 表で見ると面白いな・ 今までのきまりを使うと 10 の段 11 の段も作ることができそうだな <p>6 問題とまとめ（3 時間）</p> <p>○いろいろな九九で求められる問題を解く</p> <ul style="list-style-type: none">・ やっぱり一つ分の数がいくつ分かを考えればいいんだ・ 九九の勉強は楽しかったな	<p>表現方法の選択・変換</p> <p>九九表や数表を表現方法に取り入れ 多角的に乗法九九を理解できるようにする</p> <p>表現方法の選択・変換</p> <p>アレイ図や式を使って（1 つ分の数）が（いくつ分）だから○×□という言語表現を重ね かけ算の理解を確かなものへ再構成する</p> <p>「違い」の価値付け</p> <p>九九表の中の多様な考えからその段固有のきまりと 共通するきまりを価値づけ一般化させる</p> <p>表現様式の選択・変換</p> <p>倍の考え方をアレイ図や式で基準量が変われば比較量も異なることを表わす</p> <p>「違い」の価値付け</p> <p>同じ倍でも基準量が異なれば比較量も異なることに目を向けさせ 価値づける</p> <p>表現様式の選択・変換</p> <p>式や九九表を関連づけ かけ算の性質やきまりなど乗法九九についてまとめる</p> <p>判断基準の価値づけ</p> <p>きまりを使ってさらに 2 位数×1 位数や活用問題に活用する考えを評価する</p>

6 第1日 授業②（第1次中2時） 2の1教室

(1) 本時のねらい

2, 3, 4, 5の段の九九のきまりを見つける活動を通して 乗数と積の関係や 交換の法則などのきまりを見つけることができる

(2) 展開

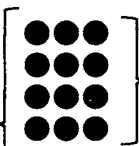
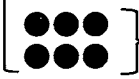
学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題をつかむ</p> <p>○習った九九を確かめよう</p> <ul style="list-style-type: none">・もうスラスラ言うことができるよ・2の段は $2 \times 1 = 2$ $2 \times 2 = 4 \dots$・5の段は $5 \times 1 = 5$ $5 \times 2 = 10 \dots$ <p><九九の答えにはどんなきまりがあるかな></p>	5	
<p>2 自分の考えを持つ</p> <p>○それぞれの段にきまりはあるかな</p> <ul style="list-style-type: none">・2の段なら見つかるよ・5の段もありそうだ <div><div>2の段の答えは2・4・6・8・10（に・し・ろ・や・とお）になっているよ</div><div>5の段の答えの一の位は5・0・5・0と繰り返している</div><div>各段にはきまりはあるのかな？</div><div>3の段の答えはバラバラできまりなんてなさそうできまりのない段もありそう</div></div>	10	<p>表現方法の選択・変換</p> <p>図・式・表などを利用して自分なりに考えを持てるようにする</p>
<p>3 考えを交流する</p> <div><div>3の段の答えの1の位は3・6・9・2・5・8・1・4・7と1～9の数がそろふよ</div><div>2×3と3×2みたいにかけられる数とかけられる数を入れかえても答えは同じだ</div><div>2の段と3の段の答えを合わせると5の段の答えになるよ</div><div>どの段も×1と×9を合わせた数と×2と×8を合わせた数が同じだ</div><div>それぞれの段にはいろいろなきまりがある</div><div>他の段も簡単に作れるのではないかな</div></div>	20	<p>「違い」の価値付け</p> <p>どの段にも共通する「同じ」考え方を価値づける</p>
<p>4 まとめる</p> <div>それぞれの段にいろいろなきまりがあった きまりは6の段でも言えるかな</div>	5	<p>判断基準の価値付け</p> <p>どの段も共通する考え方を価値付け 交換の法則や分配の法則につながるよう意識づける</p>
<p>5 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・こんなにいろいろなきまりがあるなんて知らなかった・まだ習っていない九九の段もきまりをつかおうとすぐに答えが分かるのではないかな・新しい段でも試してみたいな	5	<p>判断基準の価値付け</p> <p>きまりの中から 子どもが関係づけられたものを価値付け6の段につなげる</p>

7 第2日 授業 ⑤ (第1次中3時) 2の1教室

(1) 本時のねらい

乗法について成り立つ性質やきまりを用いるよさに気づき 6の段の構成の仕方を考えに活用することができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題をつかむ</p> <p>○昨日のきまりを思い出そう</p> <ul style="list-style-type: none">・4の段は2の段2つ分だったよ・段同士の足し算もできそうだな・あたらしい九九をすぐつくれそうだよ <p><6の段の考え方は?></p>	5	
<p>2 自分の考えを持つ</p> <p>○6の段の答えを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none">・足し算のやり方がいいかな・昨日のきまりを使ってみよう <div><div>6の段の答えは 6 6+6 6+6+6 6+6+6+6...でできるよ</div><div>3の段+3の段でできそう だ 3+3 6+6 9+9 12+12 15+15...</div><div>図にして確かめよう</div><div>かけ算の式を並べて確かめよう</div><div>6の段の答えは見つかった</div></div>	10	<p>表現方法の選択・変換</p> <p>どのような考えか分かるように式や図を使った表現を促す</p> <div><div></div><div>4×3</div><div>6×3</div><div></div><div>2×3</div></div>
<p>3 考えを交流する</p> <ul style="list-style-type: none">・まだいろんなやり方があるよ <div><div>6の段の答えは2の段と4の段を合わせたものだ</div><div>どうしてそうなるかは図を使って説明できるぞ</div><div>数の表を使っても分かりやすくなるな</div><div>2の段を3つ合わせると6の段の答えになるよ</div><div>6の段の答えは 6×1=6 6×2=12 6×3=18 6×4=24 6×5=30 6×6=36 6×7=42 6×8=48 6×9=54だ</div></div>	20	<p>「違い」の価値付け</p> <p>どの考え方も同じ答えになることを確認する</p> <p>判断基準の価値付け</p> <p>累加の考え方を評価するとともに 既習を活かした方法を価値付ける</p>
<p>4 まとめる</p> <div>6の段の答えを見つけることができた きまりを使って考えると早く見つけることができた</div>	5	
<p>5 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・こんなにいろいろなきまりがあるなんて知らなかった・まだ習ってない九九の段もきまりを使うとすぐに分かるのではないかな	5	

3の3 算数科学習指導案

石田 美保

- 1 単元名 重さのたんいとはかり方
- 2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

身の回りにあるものの重さに関心を持ち 測定する中で 生活経験や長さや体積の学習を基にしながら 数値化することのよさや普遍単位の必要性に気付いていく聞き合い

子どもはこれまでの生活経験の中で、様々なものの重さを感じてきている。自分の体重も含め身の回りのものの重さについての関心は高い。子どもは、見た目の大きさや長さなどで重い軽いを判断していることも多い。しかし、重さは、既習の長さや体積と違い視覚によって判断することができない。本単元では、既習の長さや体積と学習での学習を基に、重さについて理解し、その普遍単位を知るとともに、用途に応じて適切な計器を用いて測定できるようにすることをねらいとしている。

その手だてとして、手で持ったり、てんびんで比べたり、体験的な活動を十分に行う。それにより、量についての感覚を豊かにし、数値化することのよさや普遍単位の必要性に気付いていく聞き合いの場に結び付けていく。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

① 解法の「違い」を見つけようとする態度

重さは、長さや体積と同様に、「単位量のいくつつ分」として測定できる。任意単位から普遍単位への学習でも、長さや体積の学習を基に課題に対して自分の考えを説明していけるようにしていく。

② 明確な根拠に基づいて説明・理解しようとする態度

普遍単位による測定を十分に取り入れる。普遍単位のいくつつ分で数値化することとはかりのめもりを読むことを身につける。測定操作を確実に行えるようにすることで、重さの量感をとらえさせていく。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

長さや体積では、直接比較から任意単位による測定、普遍単位による測定へと学習を進めた。本単元でも、同じように学習を進めるが、重さは見た目では判断できないことから、長さや体積より数値化することの必要性に気付かせていく。

また、重さについての感覚は、それぞれである。身の回りのもので、どちらがどれだけ重いかや一番重いのはどれかなどと、自分の物を用いることで、測定活動への意欲が高まり、量感を基に見当をつけて測定することへの再構成していく。

(3) 問題の設定

重さの加減性を用いて、問題解決していけるように、重さを知りたいという思いが持てるような素材や数値を設定していく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 表現方法の選択・変換

重さは、見た目では判断できないことがある。そこで、てんびんの傾きで重さを視覚的にとらえる。さらに「単位量のいくつつ分」という言語的表現から「○グラム」という記号的表現へと変換させていく。また、実験や実測を図的表現にすることで、加法性があることを理解させていく。

(2) 考え方の価値付け

① 「違い」の価値付け

任意単位での測定で、数値化のよさを価値付ける。一方で同じ単位量で測らないと比べられない。そこで、単位量が違くと数値が違ふことに気づいた子どもの考えを価値付ける。任意単位の限界に気づき、普遍単位の必要性を理解させていく。

② 判断基準の価値付け

長さや体積の学習と同じように何かの何つ分で数値化できるという考えを価値付け、数値化することで重さも比較できることを理解させていく。

5 単元構成（総時数 11 時間）


主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
1 重さのくらべ方（2時間） ○どちらが重いか比べる方を考える <ul style="list-style-type: none"> ・手で持ってみればわかるよ ・金属でできたものは重いよ ・てんびんを使ったらできそう ・大きさや長さを測ってみればいいかな ・数が多いと比べるのが大変だな ○どちらがどれだけ重いか比べる方法を考える <ul style="list-style-type: none"> ・どちらが重いだったらてんびんを使えばよかったよ ・水のかさの時のように何かのいくつ分か比べればいいよ ・何か小さいものがたくさん必要だな ・1円玉1つは1グラムなんだ ・1円玉8つ分の重さは8gだ ・もっと簡単なはかり方はないかな 	表現方法の選択・変換 手で持った感覚から それでは判断できない重さについて てんびんを使って 視覚的に比較させていく 考え方の価値付け 直接比較の限界を感じ 任意単位で数値化することで比較できることを価値づける
2 はかりの使い方（5時間） ○はかりのしくみを調べる <ul style="list-style-type: none"> ・めもりが丸くなっているね ・1めもりは何グラムかな ・ふでばこの重さは480グラムだった ○1キログラムより重いものをはかる <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間より重そうなものがあるよ ・前のはかりでははかれない時は他のはかりがあるんだね ・国語辞典は1キログラム50グラムだった ○身の回りのものの重さを見当をつけてからはかる <ul style="list-style-type: none"> ・かばんは1キログラムはありそうだから 4キロのはかりではかる ・リコーダーは100グラムくらいかな ○重さの加法性を知る <ul style="list-style-type: none"> ・全体の重さからかごの重さを引けばうさぎの重さがもとめられるよ ・いろいろなものを使って1kgをつくらう ○単位を調べる <ul style="list-style-type: none"> ・1km 1kgは それぞれ1m 1gの何こ分かな ・1m 1Lは それぞれ1mm 1mLの何個分かな ・長さや水のかさと重さの単位の表し方にはいているなあ 	表現方法の選択・変換 目盛りの読み方を 数直線の読み方を基に説明するように促す 表現方法の選択・変換 重さの見当をつけて測定したり 計器を選択したりしながら 量感を身につけていく 考え方の価値付け 単位の関係を 長さや体積の学習を基にして 説明する考えを価値づける
3 まとめ（3時間） ○かざられたおもりを使って重さをはかる問題【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって測ればいいのか ○3つの箱の重さを比べる【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・どれがどれだけ重いかわかるにはどうしたらいいのかな ・2つずつ秤にのせるんだね ○「しあげのもんだい」に取り組む <ul style="list-style-type: none"> ・はかりの目盛りの読み方や重さの単位についての問題 	表現方法の選択・変換 てんびんやはかりを利用し おもりを用いて重さを測定することを考えていく

6 第1日 授業①（第3次中1時） 3の3教室

(1) 本時のねらい

限られたおもりの組み合わせによって さまざまな重さを測定できることを 見つけることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題をつかむ</p> <p>てんびんを使って 重さをはかりましょう。 ただし 使えるおもりは5こだけで、それぞれ1こずつしかありません</p> 	5	<p>考え方の価値付け てんびんがつりあうと重さが同じであることを用いている考えを価値づける</p>
<p>○㉞のほう石は何グラムかな</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1グラムと2グラムのおもりでつりあっているから ほう石は3グラムだ・ $1 + 2 = 3$ 3グラムだ <p>< 宝石の重さをはかるにはどんな組み合わせかな ></p>		
<p>2 自分の考えを持つ</p> <p>○ ㉠ 9 g ㉡ 15 g ㉢ 19 g ㉣ 22 g ㉤ 27 g の重さをはかるにはどうしたらいいかな</p> <div><p>㉠はかんたん $1\text{ g} + 8\text{ g} = 9\text{ g}$</p><p>→</p><p>㉡ 15 g は2つのおもりではできないかな 3つでできないかな</p><p>↙</p><p>$1 + 2 + 4 + 8 = 15$ だから 4つのおもりではかれるよ</p><p>→</p><p>おもりを3つ 4つと組み合わせたら できそう</p></div>	10	<p>表現方法の選択・変換 さまざまな重さを考えることとおもり2つだけでなく3つ 4つと増やしてもよいことに気づく</p>
<p>3 考えを交流する</p> <div><p>㉢ 19 g = 16 g + 2 g + 1 g</p><p>㉣ 22 g = 16 g + 4 g + 2 g</p><p>㉤ 27 g = 16 g + 8 g + 2 g + 1 g</p></div> <p>→</p> <p>他の重さはないかな やってみよう</p> <p>↓</p> <p>1 g から 31 g までの重さは5このおもりであらわせるよ</p>	15	<p>表現方法の選択・変換 重さの測り方を 言葉や式 てんびんの図を用いて説明することができる</p>
<p>4 まとめる</p> <p>1, 2, 4, 8, 16 グラムのおもりを使うと 31 グラムまでの重さが測れることが分かったよ</p>	5	<p>考え方の価値付け 他の重さも表すことができないだろうかという考えをとりあげ 検証させる</p>
<p>5 適応問題</p> <p>○ 32 g のおもりを追加すると何グラムまで測れるかな</p> <ul style="list-style-type: none">・ 63 g まで測れそうだよ	10	

7 第2日 授業 ③ (第3次中2時) 3の3教室

(1) 本時のねらい

重さの分からない箱を 条件を付けて測ることで それぞれの重さを みつける方法を考えることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題をつかむ</p> <div data-bbox="130 510 931 694"><p>重さのちがうABCの箱があります それぞれのはこの重さはどれだけでしょうか はかりではかります ただし はこを1つだけで はかりにのせてはいけません</p></div> <p>○箱の重さを求めるにはどうすればいいのかな ・はかりには 箱を2このせてもいいんだよね</p>	5	
<p style="text-align: center;">＜ はこの重さは それぞれ何グラムかな ＞</p> <div data-bbox="130 851 931 1836"><p>2 自分の考えを持つ</p><p>○ 重さを測るにはどうしたらいいかな</p><div data-bbox="161 963 900 1120"><p>2つずつの重さは 測れるなあ とりあえず測ってみようかな</p><p>2つずつはかりにのせたら 2つの重さのちがいがわかるよ</p></div><p>3 考えを交流する</p><div data-bbox="161 1232 900 1456"><p>ABの重さとACの重さの違いは Aが同じだから BとCの重さの違いだと分かるよ</p><p>どれだけ重いか 調べたら 重さも分かるかもしれないな</p><p>ABCの重さとABの重さの違いは Cの重さになるよ</p></div><p>4 測定する</p><div data-bbox="161 1478 900 1814"><p>ABの重さは900g ACの重さは700g BはCより200g重いと分かったよ</p><p>ABCの重さは1300g ABの重さは900g Cの重さは400gだ</p><p>Cが400gならBは $400 + 200 = 600$ 600gだ</p><p>Aは300g Bは400g Cは600gだよ</p></div></div> <div data-bbox="161 1848 1309 1926"><p>はこの重さの違いを 調べると それぞれの箱の重さが分かったよ</p></div>		
<p>5 ふり返る</p> <p>・一つずつ測らないのに 重さが分かったよ</p>	5	<p>考え方の価値付け 箱を2つずつはかりにのせることで のせた箱の違いに目を付ければ 重さの違いがみつかるという考えを取り上げ価値づける</p> <p>表現方法の選択・変換 3通りの箱の組み合わせから それぞれの重さの違いを 図や式を使って 説明しようとする</p> <p>考え方の価値付け 3つの箱の重さの違いと 3つの箱の合計の重さから 図や式を使って それぞれの箱の重さを求める考えを価値付ける</p>

5の3 算数科学習指導案

福井 時昌

- 1 単元名 単位量あたりの大きさ（平均）
- 2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

式や図 言語を活用して 平均の意味を理解し そのよさを認め合ったり 異種の2量の割合としてとらえられる数量について 単位量あたりの大きさを比べることの有用性をとらえたりする聞き合い

いくつかの数量があるとき、それらを同じ大きさの数量にならすというのが平均の意味である。これは、どこにおいても割合は同じという意味を指している。この均等にならす感覚を、図や言語を通してイメージし、用いることができることが平均を学習するねらいである。日常の中には、本当に均等になっているものは少ない。数量を理想化して捉え、物事を客観的に見るために平均や単位量あたりの大きさがある。単位量あたりでは、均等であるという理想が前提にある。その理想になっているものをもとに、比例の考えを使うことで、学びを豊かにしていく。多くの資料を一度に比較できるよさを実感できるために、身の回りにある単位量あたりを使った具体例が多く存在することを子ども自身が見出す活動を取り入れる。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

問題から問いを持ち、その問いを自分が考えやすい表現様式で考える態度を培う。表現様式が同じでも考え方が違う、表現様式が違って考え方が同じということを子ども自らが探す態度を身につけていかせたい。また、違う、同じと考える根拠を発信したり、受け入れたりする態度も必要である。そして、一つの問題から、次はこうだったらと考えられる子どもにしたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

テープ図、数直線にかくために1に当たるものは何か、比べる2つの量は何かを意識することを共有させておきたい。また、数直線には比例の意味がこめられており、2つの量を比べたときにどちらも同じ数をかけられていることを捉えさせておきたい。

また、問題解決を行う場合に、本当の子どもの課題としなければ、自ら思考し、表現することは行われにくい。子どもがやってみたい、おかしいなと思うように問題を仕組み、課題を子どもから出るようにしたい。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 表現方法の変換

本単元で有効にしたい表現方法は平均では式や表である。単位量あたりの大きさでは数直線や表である。その式や表などを結びつけて言語化していく活動することによって、子どもの思考力は高まっていく。平均では、式を表にしてい活動から、段ごとや列ごとにならされていくイメージを持たせながら学習を進めていく。特に図で示されている段や列の真ん中の数字や中心にある数字の意味を言語化しながら、子どもの思考を、数字をならすという考えに深めていきたい。

(2) 考え方の価値付け

まず、考え方のちがいははっきりさせていく必要がある。ちがいははっきりさせていくことにより、同じものが見えてくるからである。例えば、九九表の一部の9マスの合計を求める活動においても、段でならしていく子どもと列でならしていく子どもでは、ならす場所が違って考え方は同じである。しかし、段でならすことによって、段の合計が2、3倍になっていることが分かる。比較することできまりを見出し、そして、新たな問いを見出す子どもが育っていく。

式だけでなく、明確な図や言語で明確な根拠に基づいているものを価値付ける。さらに、本授業では、1時間目から2時間目へと能率が格段によくなっている。このよさに気づき、まだ違う考えはないかと思いをめぐらせていくことをねらっている。

5 単元構成（総時数 14 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 平均（7 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ならず経験や意味を考え 平均を知る <ul style="list-style-type: none"> ・幅とびで土を平らにしたよ ・ジュースを友達とちょうどに分け合ったよ ・テストで平均点を教えてもらっているよ ○平均の問題を通じて 平均の意味や求め方をまとめる <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの数量を等しい大きさにならしたものが平均だ ・平均は 合計÷個数で求める ・一度全部集めて 分け直すと平均になる ・数量が大きくなったり 個数が多くなったりしたときには仮の平均を使えば求めやすい ○値に 0 がある場合や分離量でも平均は小数でもよいことを知る <ul style="list-style-type: none"> ・値が 0 のときも含める ・試合の得点など小数にならないときも 平均なら小数にしてもよい ○平均から全体量を求める方法を知る <ul style="list-style-type: none"> ・平均×個数＝全体の量に当てはめる ・□×個数＝平均の式を変形する ・数直線で表し 個数と全体の量が比例していることから求める ○九九表の一部の数の合計を求める方法を工夫する【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・全部を合計して 個数で割る ・1 段ずつ平均を求め 合計する ・全部を平らにしたら 中心の数になることを利用する ○歩はばを使って およその長さをはかろう <ul style="list-style-type: none"> ・1 歩の長さはいつも同じでないから 10 歩の平均をとる ・実際に歩いてみたい <p>2 単位量当たり（7 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こんでいる経験や意味を知り マットと人数が違う 4 つの場面の混み具合の比べ方を考える <ul style="list-style-type: none"> ・かたまっても ばらけていてもマットと人数が同じなこみぐあいは同じだ ・マットの数が同じなら 人数が多い方がこんでいる ・人数が同じなら マットの数が少ない方がこんでいる ○どちらも違う場合はどうするか考える <ul style="list-style-type: none"> ・公倍数で求める ・1 枚あたりのマットの数で求める ・1 人あたりのマットの面積で求める ○数が大きい場合を考える <ul style="list-style-type: none"> ・公倍数の考え方は使いにくい ・一人あたり 1 枚あたりが考えやすい ○人口密度を知り 石川県の市町の人口密度を調べる <ul style="list-style-type: none"> ・金沢市は人口が多いから多そうだ ・野々市市や能美市は面積が小さいから分からないよ ○比例の考えを用いて 数直線で単位量あたりの問題を考える <ul style="list-style-type: none"> ・一方が○倍なら、もう一方の○倍だから分かりやすい ○比例の考えを用いて 数直線で全体の量を求める <ul style="list-style-type: none"> ・一方が○倍なら もう一方の○倍だから分かりやすい ○単位量あたりを使っているいろいろな場面を見つけよう <ul style="list-style-type: none"> ・ガソリン ・駐車料金 	<p>問題の設定</p> <p>子どもが解いてみたいという必要感を持つために 身近である学級で取り組んでいる八の字跳びを 不連続量を求める時の題材にする</p> <p>表現様式の選択・変換</p> <p>数直線や表を言語に変換するときに 比例の考えを使って説明できるようにする</p> <p>問題の設定</p> <p>九九表の中で子どもがすぐに気づかない場所の大小比較することで 問題を子どもの問いにする</p> <p>考え方の価値付け</p> <p>他の場所を求めたい 九九表全体の合計を求めたいなど新たな問いを価値付けする</p> <p>考え方の価値付け</p> <p>2 量が違ったものを比べるときに 一方をそろえればよいという考えを価値付けする</p> <p>問題の設定</p> <p>子どもの意欲を高めるために 身近である石川県の市町の人口密度が多いところはどこかという問題を提示する。</p> <p>表現様式の選択・変換</p> <p>数直線や表を言語に変換するときに 比例の考えを使って説明できるようにする</p>

(1) 本時のねらい

(2) 展開

段ごとの平均が真ん中の数字で 2, 3 段目の合計が 1 段目の 2, 3 倍になり 1 段目の合計 $\times (1 + 2 + 3)$ で合計が出る

7 第2日 授業④（第1次中6時） 5の3教室

(1) 本時のねらい

九九表の数の平均を工夫して求める活動から 平均は中心の数字であることが分かり その中心の数字とマス数をかければ合計が出ることが分かる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて																								
<p>1 問題をつかむ</p> <p>○九九表を提示し 新たな問いを聞く</p> <ul style="list-style-type: none">・キの表の合計はどうなるのだろう・もっと大きなマスにしてもできるのか・九九表の全体でもできるのか <p>○キの表の合計を求めよう</p> <ul style="list-style-type: none">・段を平均した数が2, 3倍になっていない・分配法則が使えない <p>＜キの表の合計をどうしたら見つけることができるか＞</p>	5	<table><tr><td>5</td><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>10</td><td>12</td><td>14</td></tr><tr><td>15</td><td>18</td><td>21</td></tr><tr><td colspan="3">カ</td></tr></table> <table><tr><td>6</td><td>8</td><td>10</td></tr><tr><td>9</td><td>12</td><td>15</td></tr><tr><td>12</td><td>16</td><td>20</td></tr><tr><td colspan="3">キ</td></tr></table>	5	6	7	10	12	14	15	18	21	カ			6	8	10	9	12	15	12	16	20	キ		
5	6	7																								
10	12	14																								
15	18	21																								
カ																										
6	8	10																								
9	12	15																								
12	16	20																								
キ																										
<p>2 自力解決する</p> <p>○合計を見つける方法を考える</p> <div><div>各段の平均は真ん中 だから 真ん中の数字 ×3をし 合計する</div><div>各列の平均は真ん中だ から 真ん中の数字× 3をし 合計する</div></div>	7																									
<p>3 わけを聞き合う</p> <div><div>段の考えを式で表すと $8 \times 3 = 24$ $12 \times 3 = 36$ $16 \times 3 = 48$ $24 + 36 + 48 = 108$</div><div>列の考えを式で表すと $9 \times 3 = 27$ $12 \times 3 = 36$ $15 \times 3 = 45$ $27 + 36 + 45 = 108$</div></div> <div><div>段の考えを図で表すと <table><tr><td>8</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>16</td><td>16</td><td>16</td></tr></table></div><div>すべてをならすことが できたら すぐ計算で きる</div><div>列の考えを図で表すと <table><tr><td>9</td><td>12</td><td>15</td></tr><tr><td>9</td><td>12</td><td>15</td></tr><tr><td>9</td><td>12</td><td>15</td></tr></table></div></div> <div><div>$12 \times 9 = 108$ で 合計が出た</div><div>全部 12にならす ことができる</div><div>九九表の全部 の合計を出し てみたい</div></div>	8	8	8	12	12	12	16	16	16	9	12	15	9	12	15	9	12	15	25	<p>表現方法の選択・変換 段や列をそれぞれ平均にした式を図に変換する</p> <p>考え方の価値付け 段を平均した図と列を平均した図を比較することで平均が真ん中の値であることに気づくことに価値付けする</p> <p>考え方の価値付け 九九表全体の合計を求めるなど新たな問いを価値付けする</p>						
8	8	8																								
12	12	12																								
16	16	16																								
9	12	15																								
9	12	15																								
9	12	15																								
<p>平均は中心の数字であることが分かり その中心の数字とマス数をたせば合計が出る</p>																										
<p>4 九九表の合計を求める</p> <ul style="list-style-type: none">・(中心の数字) × マスの数 = 25×81・(1段の合計) × (1 + 2 + 3 + ... + 8 + 9)	8																									

MEMO

3の1 理科学習指導案

森田 健太郎

- 1 単元名 明かりをつけよう
- 2 本單元における学びを豊かにする聞き合い

豆電球と乾電池を様々なつなぎ方でつなぐ活動をもとに 互いの思いや考えを
関係づけ再構成し 電気の性質について説明できるようになる聞き合い

本單元では、豆電球が点灯する基本的な回路や、ものには電気を通すものと通さないものがあるという、電気の性質についての見方や考え方ができることがねらいである。

子どもは、日常生活の中でおもちゃを動かしたり、ゲーム機を作動させたりする電源として、乾電池を使ったことのある経験は、少なからず体験している。また、電気製品を作動させるために電気が必要であることは理解している。しかし、ほとんどのおもちゃやゲーム機は回路が見えなかったり、複雑であったりするため、回路や導体・不導体についての理解は十分ではない。

そこでまず、豆電球と電池を自由につながせる。そこから豆電球が点灯するつなぎ方と点灯しないつなぎ方から、共通点や差異点を見いだすことができる。また、電気を通す物と通さない物を調べる活動を通して電気を通す物の性質や条件を関係づけ再構成することで、電気の性質についての見方や考え方ができるようになる。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

子どもは、1回の実験の結果で満足しがちである。しかし、その結果が正しいか間違っているかは、数回の実験を経て導き出される必要がある。また、子どもの作るテスターは接続が甘かったり、回路が間違っていたりすることがあり、必ずしも正しい結果を示すとは限らない。

そこで、実験は複数回行うことや、複数のテスターで行うよう指導する。そうすることで、より客観性のある実験結果を扱おうとする態度が養われる。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

子どもの生活経験には質的にも量的にも差があるため、そのまま聞き合いをさせても豊かなものになるとは言い難い。そこで単元の導入には、乾電池と豆電球をつなぐ活動に十分時間をとる。また、豆電球の内部の構造についても簡単にふれる。すると、回路についての理解がより深まると考える。この時の経験が共有され、聞き合う時の共通の土台となる。すると相手の考えを受け入れやすくなり、自分の意見を伝えやすくなると考える。

(3) 思いや考えが持てる課題や教材の提示

単元の初めに、豆電球の明かりがつくクリスマスツリーやレールを走るとサイレンの明かりが点滅するパトカーなどのおもちゃを提示し、自分も豆電球に明かりがつくおもちゃを作りたいという意欲がもてるようにする。この思いが、電気の性質についての理解を深めたいという、原動力になる。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 相手と共有できる表現の工夫

ソケットや豆電球内部の電気の通り道について考えたり、アルミ缶は電気を通すかを考えたりするなど、普段目にしないことや、意見が分かれやすい課題は聞き合いが有効に働く。

しかし、表現方法がまちまちであると考えが上手く共有できず、十分な関係づけがされない。そこで、共通のワークシートに自分の考えを表現させる。

(2) 考えを分類するための工夫

本單元では、「明かりがつくつなぎかたとつかないつなぎ方」「電気を通すものと通さないもの」のように比較することが多い。これらについて聞き合いを行うには、グループ内で今話しているものが、どちらに分類されるのかを、その都度確認できるようにしておく必要がある。

そのために、ベン図をもとにしたワークシートを用いて、それぞれの考えを分類させる。そうすることで、関係づけ再構成がより円滑にすすむであろう。

(3) グループ形態や交流の仕方の工夫

単元の最後には、豆電球と乾電池を使ったおもちゃ作りを行う。子どものより良いものを作りたいという気持ちをもとに、聞き合いを仕組んでいく。その時にスイッチの仕組みや、おもちゃの種類が似た者どうしでグループを組ませる。すると、同じ思いを持った者同士、聞き合う必要感が生まれる。また、作品発表の際には、スイッチの仕組みやおもちゃの種類が異なる者どうしでグループを組ませる。そうすることで、自分にはなかった考えを関係づけ再構成できる。

5 単元構成（総時数 10 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 電気の通り道を考えよう（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豆電球に明かりをつけよう <ul style="list-style-type: none"> ・どうつなげばいいのかな？ ・あれ つかないぞ どうしてかな？ ・豆電球をしっかりとつけないとだめだな ○豆電球に明かりがつくときの決まりを見つけよう <ul style="list-style-type: none"> ・乾電池のプラス極とマイナス極に導線をつなぐと明かりがつくよ ・豆電球がゆるんでいるとつかないな ・豆電球 電池のプラス極とマイナス極を導線で輪のようにつなぐと豆電球がつく ○ソケットを使わずに豆電球に明かりをつけよう <ul style="list-style-type: none"> ・ソケットがないとつかないんじゃないかな ・ソケットをよく観察すると電気の通る道がよくわかるよ ・導線一本でもつなげるようになった <p>2 電気を通すものをみつけよう（4 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電気を通すものを作ろう <ul style="list-style-type: none"> ・鉄のクリップを導線の間にはさんでも明かりはついた ・プラスチックのクリップではつかないな ・電気を通すものと通さないものがあるんだな ・調べるためのテスターを作ろう ○身の回りにあるものが電気を通すか通さないか調べよう 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄のようなものが電気を通すよ ・かたくてキラキラ光っているものが電気を通すね ・ラップは薄いけど電気を通さないね ・アルミホイルは電気を落とすのに アルミ缶は電気を通さないのはなぜだろう ○アルミ缶は電気を通すのかな 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ缶の色をぬっているところは電気が通らないね ・アルミ缶の金のところは電気が通るね ・色をはがすと電気が通るようになるね <p>3 豆電球を使ったおもちゃを作ろう（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○おもちゃの設計図を考えよう <ul style="list-style-type: none"> ・どんな材料がいるかな ・電気を通さない紙を使ってスイッチを作るぞ ・電気をつけたりけしたりするためにはスイッチを工夫しないとイケないな ・ミサイルの先が光るようにしたいな ・動物の目が光るしくみにしよう ○製作して発表しよう <ul style="list-style-type: none"> ・明かりを点滅する仕組みを作ろう ・魚が釣れると光る仕組みを作りたいな 	<p>相手と共有できる表現の工夫 金属の外側に塗料が施されている製品（アルミ缶など）は一見電気を通しそうであるが 実際は塗料をはがさないと電気は通らない このような事象は聞き合いが有効に働く しかし表現方法がまちまちであると考えが上手く共有できないことがあるので 共通のワークシートを用いて聞き合いをさせる</p> <p>グループ形態や交流の仕方の工夫 書かせた設計図をもとにスイッチの仕組みが同じメンバーで製作させる そうすることによりグループ内で聞き合いが生まれよりより物づくりが行われる また発表の段階では異なる仕組みのおもちゃの発表が聞けるようにグルーピングすることで回路についての理解を深めさせたい</p>

6 第1日 授業 ① (第2次中2時) 第2理科室

(1) 本時のねらい

電気を通す物と通さない物があることに興味をもち 予想や実験を通して聞き合うことで電気を通すものと通さないもの差異点に着目することができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 問題をつかむ</p> <p>○導線の間にはさんでも電気は通るのかな</p> <ul style="list-style-type: none">・鉄のクリップは電気が通ったよ・プラスチックのクリップは電気を通さなかったな・ものによって電気を通したり通さなかったりするのかな	5	
＜電気を通すものと通さないものを調べよう＞		
<p>2 予想する</p> <p>○鉄釘・一円玉・スプーン・ラップ・消しゴム・木の板・お玉・はさみの8つについて予想しよう</p> <div><div>鉄釘は鉄でできているから電気を通すと思うよ</div><div>はさみは鉄の部分とプラスチックの部分があるな</div><div>かたいものが電気を通すのかな</div><div>キラキラしているものが電気を通すものじゃないかな</div><div>相談しながら予想することができた 確かめてみよう</div></div>	10	<div>考えを分類するための工夫</div> <p>付箋を用いたワークシートを用いてグループで予想・実験をさせる 「電気を通すもの」「電気を通さないもの」「どちらとも言えないもの」「グループで意見がわれたもの」の4つに分類させることで 互いの考えを位置付けながら聞き合うことでより関係づけが進むと考える</p>
<p>3 実験し結果をまとめる</p> <div><div>キラキラ光る一円玉やスプーンが電気を通したよ</div><div>ラップは薄いから通しそうな気がする</div><div>木はかたいけど電気を通さないな</div><div>はさみやお玉は場所によって電気を通したり 通さなかったりするね</div><div>電気を通すものと通さないものがわかったよ</div></div>	25	
<div>電気を通すものは鉄釘・一円玉・スプーン 電気を通さないものは消しゴム・ラップ・木の板だったよ</div> <div>はさみとお玉は場所によって電気を通したり通さなかったりしたよ</div> <div>かたくてキラキラしているものが電気を通しそうだよ</div>		
<p>4 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・予想と同じでうれしかった・場所によって結果が違うなんておもしろいな・他のものでも調べてみたいな	5	

7 第1日 授業 ② (第2次中3時) 第2理科室

(1) 本時のねらい

アルミ缶の飲み口に導線をつなぐと電気を通すが塗装されているところでは電気を通さないという事実をもとに 実験を通して聞き合うことで アルミ缶の内部が電気が通ることを説明することができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 問題をつかむ</p> <p>○アルミ缶は電気を通すのかな</p> <ul style="list-style-type: none">・電気を通さなかったよ・アルミホイルは電気を通したのに同じアルミニウムでできているアルミ缶が電気を通さないのはおかしいな・飲み口の部分だけ電気が通ったよ <p>＜アルミ缶のどこを電気が通っているのかな＞</p>	5	
<p>2 実験し考察する</p> <div><p>飲み口だけ電気を通すよ</p><p>色の部分は電気を通すよ</p><p>色をはがすと電気が通るのかな</p><p>やっぱり色をはがすと電気が通るようになったよ</p><p>間に色が残っていても通るよ</p><p>飲み口と色をはがした部分でも電気が通るんだな</p><p>アルミ缶の表面を電気が通っているわけではないのかな？</p><p>アルミ缶の中を電気が通っていることがわかったよ</p></div>	35	<p>考えを分類するための工夫</p> <p>付箋を用いたワークシートを用いて グループで予想・実験をさせる 考えを分類させることで互いの考えを位置付けながら聞き合うことで より関係づけが進むと考える</p>
<p>3 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・金紙や銀紙も削って実験したいな・やっぱりアルミは電気を通すんだ	5	

アルミ缶の中を電気が通ることがわかったよ
間に電気を通さないものがあると電気は通らないんだな

4の3 理科学習指導案

岩崎 誠

1 単元名 水のすがたとゆくえ

2 本單元における学びを豊かにする聞き合い

水が温度によって状態を変えることによる体積の変化や質量の保存などの事象から 互いの思いや考えを関係づけ再構成することによって 水などの性質について 科学的な見方や考え方をもちつことができる聞き合い

本單元では、水の性質について興味・関心をもって追求する活動を通して、水のような液体が温度によって気体、固体に変わることと体積の変化、質量の保存を結び付けて考えるとともに、それらについての理解を図り、水などの性質についての見方や考え方をもちつことができるようにすることがねらいである。

子どもは、温度によって水の状態が変わることは日常生活から知っている。しかし、なぜそのようになるのかのイメージは持っていない。そこで、水が氷や水蒸気になる様子、その際に体積は変わるが重さは変わらないなどの事象を、実験を通して実感することで、イメージを持つことができる。そのイメージを友だちとの聞き合いの中で関係づけ再構成することによって、独りよがりの物から、客観性を帯びたより納得の得られるイメージに練り上げることができると考える。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

「きまり」を追求していく態度は、身についてきている。しかし、まだまだ教師によるお膳立ての上のもので、自然事象に対して自ら問題を見出し、実験や観察などを通して互いに交流して問題を解決していくまでには至っていない。本單元では、教師とともに問題を見出した上で、グループによる問題解決を図っていききたい。その上でクラス全体での交流によって共通部分をとらえていく流れを作っていく。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

- 空気や水のイメージをモデルを使って表すこと
- 温度によって体積が変化すること
- 他からの出入りがなければ重さは変わらないこと
- ドライアイスやエチルアルコールなど水以外のものも温度によって状態が変わること

(3) 思いや考えが持てる課題や教材の提示

水が沸騰して水蒸気になる様子や凝固して氷になる様子を、子どもはじっくりと観察したことではないであろう。そこで沸騰や凝固の様子を観察することから単元をスタートして、水の变化の過程や様子の変化に興味や疑問を持たせ、それらを確かめていくようにして単元を展開していく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 相手と共有できる表現の工夫

目に見えない粒子をモデルとしてクラスで共有しておくことで、互いの考えを関係づけることに有効である。このモデルを使って、自分の考えをワークシートに予想時に書き表しておくことで、友達の考えと関係づけ再構成した考えを、ワークシート上で付け加えたり、修正したりすることができる。

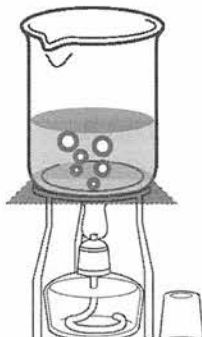
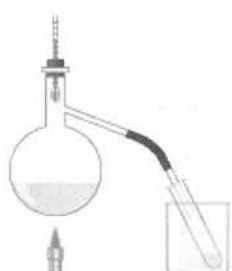
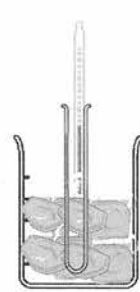
(2) 考えを分類するための工夫

ワークシートを個人用とグループ共通用の二種類用意する。個人用は自分の考えを表すもので、グループ共通用は、グループで聞き合う際に、共通のワークシートにそれぞれの考えを書き入れながら考えを交流することで、関係づけ再構成につながると考える。

(3) グループ形態や交流の仕方の工夫

交流の仕方は、個⇒グループ⇒クラス全体を繰り返す。ただし、予想時におけるクラス全体での交流は、自由にクラス内を移動して個々に聞き合いを行い、自分の考えを深めていきたい。考察時におけるクラス全体での交流は、クラスとして一般化を図っていくため、自分の座席で全体での交流を行う。

5 単元構成（総時数 12 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 問題を見出す（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水が氷や水蒸気になる様子を観察する <ul style="list-style-type: none"> ・泡が出てきて空気の中に消えていった ・水の量が減っていくね 空気と同じようになったのかな ・すごく冷たいところに入れると水がすぐに凍ってしまったよ ・水を冷やしていくと氷になるし水を熱すると水蒸気になるんだね ・水が変わった水蒸気は目に見えないんだ ・水が水蒸気や氷に変わるのは何℃で変わるのかな ・水から水蒸気や氷に変わると何がどう変わるのかな  <p>2 水を熱するとどうなるか（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水は何度で沸騰するのか <ul style="list-style-type: none"> ・100℃で沸騰するはず ・100℃になったらそれ以上はいかないのかな ○水から水蒸気になると何がどう変わるのか <ul style="list-style-type: none"> ・体積は大きくなると思うよ ・重さは変わらない？増えるかな ・確かめてみよう ○泡の正体は何か <ul style="list-style-type: none"> ・泡は水だから目に見えないけど水だと思うよ ・温度が下がると湯気になるのかな ・見えないからここが水蒸気なんじゃないかな  <p>3 水を冷やすとどうなるか（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水は何度で凍るのか <ul style="list-style-type: none"> ・0℃だよ ・0℃より下がるのかな ・0℃で凍り始めたよ しばらく0℃が続いたよ ○水は氷になると何がどう変わるのか【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・体積はたぶん小さくなるよ ・出し入れがなかったらやっぱり重さは変わらないよ ・水が氷になると何がどう変わるのかな  <p>4 水のゆくえ（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水は沸騰しなくても蒸発するのだろうか <ul style="list-style-type: none"> ・道路の水は消えてしまうから蒸発するんじゃないか ・沸騰しなかったらなくなるよ ○空気中の水蒸気は水に戻せるのか <ul style="list-style-type: none"> ・息をすると窓が白くなるよ ・冷やした時にビーカーの側面に水滴がついていたよ ・冷やすと水蒸気が水になりそうだね <p>5 まとめ（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水のすがたとゆくえをまとめてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・水蒸気になって空にいくそれで雲になるのか ・雨は蒸発した水がまた地上に戻ってくることなんだね ・洗濯物をはやく乾かすにはどうしたらいいかな 	<p>教材の工夫</p> <p>水を沸騰させてものを蒸している様子を見せることで泡の正体に疑問を持ったり水蒸気の部分と湯気の部分の違いに興味を持ったりすると思われる</p> <p>グループ形態や交流の仕方の工夫</p> <p>同じ予想同士でグループを作って実験を行い考察では違う予想同士でグループを作って聞き合う。そうすることで予想では自分の考えを強化補充し考察では選択統合などの再構成を図っていく</p> <p>相手と共有できる表現の工夫</p> <p>前単元の物の体積と力や物の体積と温度で粒子モデルを使ってきているので本単元でもその粒子モデルを使い水の変化を表すことでお互いの考えの理解が図られる</p> <p>考えを分類するための工夫</p> <p>現象を説明するためのグループで1枚のワークシートを用意してそれをもとに聞き合いを展開することで各々がワークシートに自分の考えを書き表し互いの共通点相違点がはっきりする</p>

6 第1日 授業 ② (第3次中2, 3時) 第2理科室

(1) 本時のねらい

水が氷に変わるとき重さは変わらないが体積は大きくなることを 粒子モデルを使って説明することができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 本時の学習を見通す</p> <p>○本時の流れと課題を確認する</p> <ul style="list-style-type: none">・前時までで水が氷に変わるのは0℃のときだということ は分かったよ・水蒸気では体積は大きくなるけど重さは変わらなかったよ	5	
<p>＜水は氷になると何がかわるのか＞</p>		
<p>2 予想をもってグループ 全体の順で聞き合う</p> <p>○自分の考えをもってからグループ全体の順で聞き合う</p> <div><div><p>体積</p><p>水蒸気になった時 もあったから大きくなったから 氷だから小さくなるよ</p><p>前の学習で水の温度が下がると体積は小さくなっていたよ</p><p>家の氷を凍らせると膨れていたよ 大きくなるんじゃないかな</p><p>体積は小さくなる</p><p>体積は大きくなる</p></div><div><p>重さ</p><p>氷になると重くなる感じがする</p><p>3年生の物の重さと体積で入れ替わりがなかったら重さは変わらなかったよ</p><p>物の体積と温度で体積は変わっても重さは変わらなかったと思うよ</p><p>重さは変わらないよ</p></div><p>実験して確かめてみよう</p></div>	15	<p>相手と共有できる表現の工夫 前単元の物の体積と力や物の体積と温度で粒子モデルを使っている 本単元でもその粒子モデルを使い水の変化を表すことでお互いの考えの理解が図られる</p> <p>考えを分類するための工夫 体積 重さに対する考えを持てた上でだれがどんな考えを持っているか全体で確認をする それが分かることで自分の考えと同じ人と聞き合うのか自分の考えと違う人と聞き合うのかを自己選択することができる</p> <p>グループ形態や交流の仕方の工夫 グループの聞き合いの上でクラス全体で聞き合いたい相手と考えを交流する そうすることで自信のない子は自分の考えの強化につながり自信のある子は考えの補充などにつながると考える</p>
<p>3 実験方法を確認し実験する</p> <p>○実験方法を確認し実験準備をする</p> <ul style="list-style-type: none">・実験前の水の重さをはかっておこう・エチルアルコールやドライアイスの扱いに気をつけないといけない	10	

- 実験する
- ・エチルアルコールにドライアイスを入れた中に水の入った試験管を入れるとすぐに氷になったよ
 - ・周りのいらぬ水分をふきとって重さを量ってみよう
- 4 結果をまとめ自分の考えをもつ
- 結果をノートに記録してワークシートに考えを表す
- ・凍っても重さは変わらないよ
 - ・やっぱり水の出し入れがないから重さは変わらないんだね
 - ・体積は予想と反して大きくなった なぜだろう？
 - ・水蒸気のとくと同じように図で表してみんなで考えてみよう
- 5 他の物でも確かめる
- 他の液体でも同じようになるのか確かめる
- ・ジュースも凍ったら小さくなったどうしてだろう

15

10

10

20

6 クラスで考察する

- 自分の考えをグループで聞き合う

姿を変えても重さは変わらない

やっぱり水の出し入れがないから重さは変わらないんだね
モデルで表すと粒子の数は変わらないね

重さは変わらないけど体積が大きくなったね
モデルで表すとどうしたらいいだろうか

- クラスで聞き合う

水蒸気は ○ ○ ○
粒が広がっていて
水は 〇〇
ぐっちゃりと固まっていて
氷は 〇〇
整然と並んでいるのかな

体積をクラスに例えると水蒸気は休み時間かな
水は普通の授業 氷は研究授業かな そうすると氷はカチコチで固まっているから体積は大きくならないはず

水が氷に姿を変えることによる体積の変化をイメージすることができたよ 姿が変わっても重さは変わらないこともはっきりしたよ

相手と共有できる表現の工夫

予想時にかいた粒子モデルに実験結果を反映させたものを用いて聞き合いを行う そうすることで予想と考察をつなぎより事象に合った粒子モデルへ高めていくことができる

考えを分類するための工夫

現象を説明するためのグループで1枚のワークシートを用意してそれをもとに聞き合いを展開することで各々がワークシートに自分の考えを書き表し互いの共通点相違点がはっきりする

グループ形態や交流の仕方の工夫

グループの聞き合いの上でクラス全体での聞き合いを行う その中で一般化を図っていく

水が氷にかわっても 出し入れがなければ重さがかわらないことが分かったよ しかし体積は氷になると大きくなるよ 水の小さな粒が広がったり固まったりして体積はかわっていると考えるよ

7 ふり返る

- ・他のものでも同じこと言えるかな
- ・ドライアイスも同じだよ

5

6の3 理科学習指導案

小網 達也

1 単元名 水溶液の性質

2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

水溶液に関する事象をもとに 互いの思いや考えを関係づけながら 水溶液の性質や働きについてモデル図を使って表現し 個の考えを再構成していく聞き合い

本単元は、身の回りにある水溶液の性質や溶液に溶け込んでいる溶質、金属を変化させる様子について興味・関心をもって主体的に追求する活動を通して、水溶液の性質について推論する能力を育てると共に、それらについての理解を図り、水溶液の性質や働きについての見方や考え方をもちことができるようにすることがねらいである。

水溶液の性質や働きについては、生活に密接に関係している学習内容であるが、子どもにはあまり意識されていないのが現状である。したがって、生活の中で身近に起きている事象を取り上げていくことで、水溶液の性質や働きについての互いの思いや考えを聞き合うようにする。その際に、「空気（酸素や二酸化炭素）」や「水」といった身近にあるものと水溶液の性質や働きがどのような関係にあるのかについて互いの考えを関係づける。そうすることで、水溶液の性質や働きについて日常生活との関連から推論することもできるようになり、水溶液に関する事象について、納得した上で水溶液の性質や働きについての考えを再構成することができる。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

本単元でつけたい態度は、水溶液の性質や働きをもとに、日常生活で見られる様々な自然事象に共通するきまりを追求していくことである。追求意欲をもつためには、子どもにとって身近な日常生活における自然事象をもとに、子ども自らが問題を見つけ出す必要がある。それらの問題を、単元を通して解決していくことで、互いの考えを聞き合う必要感も生まれるため、日常生活に見られる水溶液に関する様々な自然事象に共通するきまりを見つけようとする姿勢も身につけていく。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

本単元では「粒子のようなもの」をつかって、自然事象の仕組みやきまりを理解できたという経験である。第5学年「物の溶け方」で、物が水に溶ける量は、水の温度や量によって違ったり、冷やしたり温めたりすることで、水の中に溶けているものを取り出すことができたりしたことを、「粒子のようなもの」を使って理解してきた。水や水に溶かすものが「粒子のようなもの」として可視化されて表現されているため、互いの思いや考えを容易に共有することができた。水溶液の性質や働きを理解する場合でも「粒子のようなもの」として表現する方法を共有しておくことで、互いの思いや考えを聞き合うことに大変有効であると考ええる。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 相手と共有できる表現の工夫

水溶液の性質や働きに関する目に見えないきまりを追求していくために「粒子のようなもの」を使って表現させる。これによって、互いの考えを関係づけ再構成することも容易になる。

(2) 考えを分類するための工夫

水溶液の性質や働きについて互いにもっている考えから共通点や相違点を明確にし、科学的な見方や考え方につなげるために、ベン図を用いる。

(3) グループ形態や交流の仕方の工夫

単元を通してトイレ用洗剤の性質や働きを追求していく学習を行う。単元のまとめの際に、それらについて見方や考え方が似ているグループでまとめさせたり、全く違うグループでまとめさせたりすることで、関係づけ再構成に向かわせる。

5 単元構成（総時数 13 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 トイレ用洗剤のひみつをさぐれ（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トイレ用洗剤を使うと どんなよいことがあるか <ul style="list-style-type: none"> ・おしっこの汚れを落としてくれる ・トイレの中の臭いを取り除いてくれる ・便器内に発生する悪い菌の発生を抑えてくれる <p>2 水溶液に溶けているものはなんだろう（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○炭酸水に溶けているものはなんだろう <ul style="list-style-type: none"> ・中から泡が出てきたから 泡の正体のものじゃないかな ・泡は気体だから 気体は何であるか分かればいいね ・蒸発させると 何が溶けているかわかるよ ・石灰水を入れて白濁したら二酸化炭素だね ・火を近づけて炎が大きくなったら酸素だね ○炭酸水に二酸化炭素が溶けている様子をモデルで表してみよう <ul style="list-style-type: none"> ・炭酸水を振るとシュワシュワがなくなったから 二酸化炭素が外へ逃げていったんだね モデルでも表してみよう <p>3 水溶液を仲間分けしてみよう（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水溶液（食塩水・塩酸・アンモニア水・炭酸水）中に溶けているもので仲間分けをしてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・食塩水だけが熱すると 固体（食塩）が残ったよ ・炭酸水だけが泡が出るのは 水には溶けにくいってことだね ○水溶液を三つに分類すると どのように分けられるか <ul style="list-style-type: none"> ・塩酸や炭酸水は酸性だ ・アンモニア水はアルカリ性だ ・食塩水は中性だ <p>4 水溶液と金属（5 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○金属の像はどうして腐食してしまったのだろうか <ul style="list-style-type: none"> ・古くなってしまったから ・酸性雨に影響じゃないかな ○塩酸に金属を加えると どのように変化するだろうか <ul style="list-style-type: none"> ・金属は溶けてしまう ・泡を出しながら溶けていく ・熱を出しながら溶けていく ○塩酸につけた金属はどうなったのか【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・もとの金属はどこへ行ったのかなあ ・見た目はもとの金属とは何か違うなあ ・性質も違ってしまった ○塩酸の他にも金属を変化させる水溶液はあるのだろうか <ul style="list-style-type: none"> ・水酸化ナトリウム水溶液は変化させると思う ・アンモニア水も変化させるけど 食塩水はさせないな <p>5 まとめ（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トイレ用洗剤の性質や働きをまとめよう <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ用洗剤は酸性のものとアルカリ性のものがあるのは それぞれにしかできない働きがあるからだ トイレをきれいにするためでもあるんだ ・使用目的に応じて 洗剤を選べと より効果的に使うことができるんだ 	<p>考えを分類するための工夫</p> <p>何種類か存在するトイレ用洗剤から 性質や働きの観点で共通点や相違点を明確にするためにベン図を用いる ここから導き出される疑問をもとに本単元の学習の見通しを持たせる</p> <p>相手と共有できる表現の工夫</p> <p>「物の溶け方」で学んだ内容を「粒子のようなもの」を使って表現した掲示物を手がかりにして 炭酸水から炭酸が抜けていく事象を「粒子のようなもの」をつかって表現させる 目に見えない気体を可視化させることで 目の前の事象についての考えを関係づけ再構成できるようにする</p> <p>考えを分類するための工夫</p> <p>それぞれの水溶液の共通点や相違点から仲間分けをした根拠を導き出すためにベン図を用いる 仲間分けのポイントは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中に溶けているものを取り出せるか 2. 液体の色 3. 液体のにおい <p>相手と共有できる表現の工夫</p> <p>第2次で学んだ内容を「粒子のようなもの」を使って表現した掲示物を手がかりにして 金属が水溶液によって変化される様子を「粒子のようなもの」をつかって表現させる 金属が変化した時の様子をもとに 目の前の事象についての考えを関係づけ再構成できるようにする</p> <p>グループ形態や交流の仕方の工夫</p> <p>第1次で出された疑問をもとにグループを組み トイレ用洗剤の性質や働きについて互いの考えを関係づけ再構成できるようにする</p>

6 第1日 授業 ② (第4次中3時) 第1理科室

(1) 本時のねらい

塩酸に鉄やアルミニウムをつけると泡を出したり熱を発したりしながら溶けてしまい 取り出した金属がもとの金属と同じものであるか疑問をもつことができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
1 課題を知る	5	
<p>＜塩酸につけた金属はどこへ行ってしまったのか＞</p>		
2 結果を共有する	20	<p>分類するための工夫 溶けた鉄やアルミニウム様子から疑問を持てるように鉄やアルミニウムの性質との共通点や相違点についての互いの考えを関係づけられるようにベン図を用いる</p>
<p>○金属が塩酸に溶ける様子を確認しよう</p> <div><p>試験管がどんどん熱くなってきた 試験管の中の色も変わってきたし、金属も小さくなっている</p><p>鉄もアルミニウムもたくさんの泡が出て溶けている どんどん量も増えている</p><p>鉄もアルミニウムも見た目が全く違うものになってしまった</p></div>		
3 考察をして疑問をもつ	15	<p>表現の工夫 実験結果から鉄やアルミニウムの見た目が変わったことについて互いの考えを聞き合いながら モデル図を書かせることで再構成する</p>
<div><p>見た目が違ってしまった。もとの鉄やアルミニウムの性質は残っているのかな</p><p>鉄やアルミニウムの性質は何だったかな</p><p>鉄は磁石に引き合う性質があったね 電気を通すのはアルミニウムにも当てはまるね</p><p>見た目が違うだけで、鉄もアルミニウムも性質は変わっていないのかな 変わってしまったのかな</p></div>		
<p>金属を塩酸につけると 煙が出たり塩酸の色も変わったりしたので 金属は塩酸の中にとけこんだり 外へ飛んでいったりした とけた金属はもとの金属と同じだろうか</p>		
4 実験結果をもとにモデル図を書き 予想する	5	
<p>・見た目は変わってしまったけど さびた鉄と同じように鉄の性質自体は残っていると考えられるから 同じものではないかと思うな</p> <p>・あんな反応したんだから 全く別のものになったかも</p>		

7 第2日 授業④（第4次中4時） 第1理科室

(1) 本時のねらい

塩酸に溶けた金属がもとの金属とは全く別のものになり 塩酸は金属を変化させる働きがあることを理解することができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題を知る</p> <p>＜塩酸に溶けた金属はもとの金属と同じものだろうか＞</p>	5	
<p>2 実験方法を考え、実験をする</p> <p>○どんな実験方法すれば確かめられるか考えてみよう</p> <div><div>鉄は磁石と引き合うから 磁石を使ってみればいいんじゃないかな</div><div>塩酸に溶かしてみてもとの金属と同じような反応するか調べてもいいね</div><div>電気を通してみてもいいかもしれない 電気を通せばもとの金属と同じだね</div><div>もとの金属の性質と比べながら実験をしていこう</div></div>	20	<p>分類するための工夫</p> <p>金属の性質とそれを確かめる方法を結び付けて考えられるように またどのような結果が得られればよいかに ついて互いの考えを関係づけられるようにキャンデ ィ・チャートを用いる</p>
<p>3 結果を共有し 考察する</p> <div><div>磁石と引き合わなかったのだから もとの鉄とは全く別のものになった</div><div>塩酸に溶かしてみても 熱を出して反 応しなかった もとの金属とは別物だ</div><div>電気は通さなかった もとの金属とは別のものになってしまった</div><div>塩酸に溶かされたことで 金属はもとの金属とは全く別のものになってしまったようだ</div></div>	15	<p>表現の工夫</p> <p>実験結果から塩酸によって 金属がもとの金属とは全く別のものになったことをと らえるために互いの考えを 聞き合いながら 自分のモデル図を修正させる</p>
<p>塩酸に溶けた金属は本来の金属の性質が失われ もとの金属とは全く違うものにな った 塩酸は金属を変化させる働きがあることがわかった</p>		
<p>4 次時の課題をもつ</p> <p>○塩酸の他にも金属を変化させる水溶液はあるのかな</p> <ul style="list-style-type: none">・塩酸の他にアンモニア水も金属を変化させそう・ここまで違うものに変えてしまう水溶液はあるのかな	5	

MEMO

— 60 —

東郷 敬山

「！」を相手に「！」をうけるは、いかに「！」をうけるか、これは、
「！」をうけるか、これは、
「！」をうけるか、これは、

「！」をうけるか、これは、
「！」をうけるか、これは、
「！」をうけるか、これは、

学習指導案

生活科

1の3 生活科学習指導案

山岸 留美

1 単元名 あきとなかよし～つきぐみさんとつくろう！あそぼう！！～

2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

身近な秋の自然に親しみ 木の実や葉などを利用して友達と協力したり年長児と遊んだりするなかで アイデアや工夫を見つけながら さらにかかわり合って楽しく遊ぶことができる聞き合い

本単元では、学校の周りを散歩したり、秋の自然物を探したりしながら、季節の変化に気付くとともに、秋の自然物や身の回りの素材を利用しておもちゃや飾りを作りながら、創造的な発想や工夫を生かし、豊かに秋の遊びを楽しむことがねらいである。

その際、幼稚園の年長児と一緒に秋を見つけ、見つけたものでおもちゃや飾りを作り遊ぶ活動を行うことで、「○○ちゃんに見せたい。」「こんな遊び方をしたら喜んでくれそう。」などと子どもの活動意欲が高まり、お兄さんお姉さんとしてあきらめずに取り組む姿が見られるのではないかと考える。最後に、年長児と協力し合って2年生主催のピースタウンカーニバルにお店を出し、年中児・2年生と交流する場を設定することで、改めて自分たちが活動してきた秋遊びを見つめ直し、園児・友達と遊ぶよさや自分の成長に気付くことができる聞き合いにしたい。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

友達が作ったおもちゃや飾りで、秋の自然物をうまく利用している工夫やアイデア、遊び方のよさを認め、自分の活動にも生かそうとする子どもを目指す。また、幼稚園年長児といっしょに遊ぶことを通して、園児の願いに寄り添い、遊ぶ材料や作るもの、遊び方などを変えるなど、相手意識を持って活動させたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

身近な秋の自然に触れ、体の諸感覚を使って見つける活動を通して、春や夏の頃とは違った秋の特徴や季節の変化に対する気付きを共有する。そして秋の自然物を使った遊びを全員が行うことで、遊びの中で得られた秋の自然物への気付きや遊びの面白さを幼稚園の年長児と一緒に共有する。それらが共通土台となり、お店を出す際どんな材料を使ってどんな遊びをしようかと考えることにつながる。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 思いや願い、気付きの明確化

ワークシートやカード、付箋などを用い、見つけたことや調べたいこと、楽しかったことなどを文章や絵、キーワードに表す。秋見つけで表した絵カードや付箋を、場所がわかるように地図上に貼り全体で振り返ることで、「校庭にはクヌギというドングリの木があったんだな。」「幼稚園にもあるかな。」「もっとドングリについて調べたい。」など新たな思いや願い、気付きが生まれる。

(2) 思いや願い、気付きの比較・分類

見つけた秋の自然物や遊びの工夫・アイデアなどを共有するときに付箋を用いる。書き出した付箋をグループ内で一人一人がホワイトボード上に貼り仲間分けを行う。付箋を利用することで、友達の話を聞く際に「私と違う。○○さんと同じだな。」などと比べながら聞くことができる。

(3) 交流の仕方の工夫

秋の自然物を利用したおもちゃや飾りを工夫し、遊ぶ楽しさを友達に伝えるために、友達や年長児との交流の場面を設定する。活動後のふりかえりでは、友達の工夫のよさや自分の改善点を共有することで、その後の活動に生かすことができる。また、似たようなグループ同士が相談できるよう兄弟グループを作ることで互いにアドバイスしやすくなる。

(4) 目的の再確認

木の実などの自然物集めからそれらを利用した遊びの工夫、お店作りに主体的に取り組めるよう、活動の見通しを持たせるために、願いや目的を意識できるような掲示などの工夫を行う。

5 単元構成（総時数 15 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 秋見つけをしよう（4 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校の周りや公園でどんな秋が見つかるかな <ul style="list-style-type: none"> ・秋になると葉っぱの色が変わるものがあるよ 見たいな ・どんぐりみたいな木の実をたくさん拾って遊びたいなあ ・虫がいるよ カマキリやこおろぎを見つけない ○見つけたものはなあに <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場のどんぐりと違う形のどんぐりがあった ・どんぐりには[かしわ]や[クヌギ]など名前があるんだね ・公園にきれいな落ち葉がたくさんあった ・なんていう名前の木なのかな ○つき組さんに見つけた秋をしょうかいしよう <ul style="list-style-type: none"> ・三つ子山のまわりには ざくろやかりんの実もあるよ ・園庭にも 果物になる木があるんだね ・一緒に見に行こうよ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> つき組さんと つくろう！あそぼう！ </div>	<p>思いや願い、気付きの明確化 見つけた秋の自然物を絵カードに表し地図上に位置付けることで 採った場所や名前を共有し みんなでどんなものを見つけたのか把握することができる</p> <p>思いや願い、気付きの比較・分類 秋の木の実や落ち葉を色や形で比べる視点をもたせたり夏の様子からどう変わったかをきいたりして見つけた秋について伝え合う</p>
<p>2 つき組さんと秋遊びをしよう（6 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どんな遊びができそうかな やってみよう <ul style="list-style-type: none"> ・どんぐりゴマややじろべえ・マラカスやでんでんだいこ ・どんぐりでトトロ・ペンダント作り・ころがしゲーム ・オナモミダーツ・たねのくじ引き・まめまめクリップ ・木の葉の魚釣りやこすりだし、画用紙に貼ってお絵かき ・リース作り・輪投げ・まつぼっくりのけん玉・折り染め ・まつぼっくりツリー・サツマイモスタンプ・お面づくり ○つき組さんとどんな遊びをしようかな <ul style="list-style-type: none"> ・穴をあけるときけがに注意しなければいけない ・つまようじや竹ひごの入れ方にこつがあるようだ ・どちらが長くまわるかどんぐりゴマの競争しようよ ・どうやったら長くきれいにまわるのかな ・やじろべえはバランスをとるのがたいへんだ ○いろんな秋遊びをしよう 【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・落ち葉や枝で虫をお絵かきしたよ ・落ち葉の魚釣りはおもしろいな ・種でペンダントやクリップ、楽器（マラカスなど）がつくれたよ 家で作ってみたい。 ・さつまいものはんこで 名前の頭文字をくぎでほったよ ・どんぐりでトトロはかわいいな ・まつぼっくりの上にくっつけてなればよう 	<p>思いや願い、気付きの比較・分類 したい遊びを年長児に聞きながら付箋に表す それをホワイトボード上で貼りながら分類することで どんな遊びができそうかアイデアを出し合う</p> <p>交流の仕方の工夫 今まで交流してきた固定のグループで活動を行うことで緊張せずかかわり合えるようにする</p> <p>目的の再確認 「なにがしたい？」「〇〇が上手だね。」と年長児へ自分からすすんで声かけするなど楽しく活動するためのめあてを意識させて臨ませる。</p>
<p>3 秋遊びのお店やさんをしよう（5 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どんな遊びのお店にしようかな <ul style="list-style-type: none"> ・2年生からピースタウンカーニバルに誘われたよ ・オナモミダーツをやってみたいな ・コースを作ってどんぐりのレースをしたらみんなよろこぶよ ○つき組さんにどのお店をするか聞いてみよう <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくたちはどんぐりゴマを作って競争するお店にするよ ・つき組さんとなかよくお店をしたいね 係り分担しなきゃ ・たくさんお客さんが来てくれるように面白くしたいな ○お店の準備をしよう ○ピースタウンカーニバルに参加しよう 	<p>思いや願い、気付きの明確化 今自分たちがどの遊びに夢中になっているかお互いが共有できるようにお知らせボードに書き紹介タイムなどを行う</p> <p>目的の再確認 1年生が年長児にどんなお店がしたいか聞きながら お店のアイデアを考え お客さんに楽しんでもらうために 各グループでめあての掲示を作り相手意識を持たせたい</p>

6 第2日 授業 ③ (第2次中4, 5時) ランチルーム

(1) 本時のねらい

年長児といっしょに 秋の自然物を使った材料から おもちゃや飾りを作り遊ぶことを通して 秋の自然物の面白さや遊び方の工夫 友達や年長児とのかかわり合うよさに気付く

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題をつかむ</p> <p>○今まで何を作ったりあそんだりしたの</p> <ul style="list-style-type: none">・ どんぐりゴマの対戦台を作った ○○ちゃんにまけたよ・ この前まっぼっくりけん玉を作ってあそんだよ・ 落ち葉や木の実で動物園の動物を作っている <p>○今日は何をしたいのかな</p> <ul style="list-style-type: none">・ 大きなどんぐりのコースを作って転がしたい・ 今日はおナモミのまとあてを作って遊びたいな・ ○○ちゃんのすきな魚を作って魚釣り遊びをしたい	8	<p>思いや願い、気付きの明確化</p> <p>掲示で気付きを表した付箋やカードを振り返り前回までに遊んだことを思い出すことで今日つき組さんと一緒に取り組んでみたいことを考えさせる</p>
<p>くつきぐみさんと おもしろいあそびをつくろう></p>		
<p>2 グループで今日の計画を確認する</p> <p>○今日作るものや分担はこれでいいかな</p> <ul style="list-style-type: none">・ 長いコースを作ろう どんぐりを転がすと面白そう・ 段ボールのまとはおナモミがくつききそうなものをくっつけて点数をつけるよ・ 落ち葉で魚を作ったらクリップをつけて磁石で釣りをしよう	7	<p>交流の仕方の工夫</p> <p>1年生と年長児のグループは単元当初より固定しておくことで 初めは緊張していた年長児も遊びを作るころは思いを出せるようになり1年生と相談しながら楽しくかかわれるようにしたい</p>
<p>3 作って遊ぶ</p> <div><div>たしかどんぐりは軸をまっすぐいれるとよく回ったな</div><div>クヌギのどんぐりゴマはぶつかっても強いよ</div><div>わざとぶつけてケンカごまをしたい</div><div>どんぐりゴマ作りがとくいになった あそぶルールきめてみよう！</div><div>ストップウォッチで時間を計るとおもしろいな</div><div>段ボール板の上でやったらどうかな</div><div>おナモミはちくちくするからつかみにくいな はしでつまんだらどうかな？</div><div>おナモミダーツをしたら楽しかった</div><div>的には布をつけて点数を書いたら勝ち負けがわかるな</div><div>ボンドの付け方がむずかしかった いろいろな落ち葉を使うときれい</div><div>飾り作りはいろいろな種や落ち葉を使うといい</div><div>あさがおのリース作りでやったね トトロがかわいい</div></div>	35	<p>目的の再確認</p> <p>今日試したおもちゃ作りのアイデアや遊び方の工夫を後でみんなの前で発表してもらうことを事前に話すことで 目的意識を持たせる</p> <p>交流の仕方の工夫</p> <p>グループ毎に作りたいおもちゃなどの材料を選び工夫できるよう コーナーに必要な材料や道具をそろえておく場を設定する かかわりながら試して遊べるように環境を整える</p>

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>4 おもちゃや飾りのアイデアや遊び方の工夫を伝え合う</p> <div data-bbox="177 313 893 683"> <div> まつぼっくりのけん玉は ひもが長すぎないようにしたらよく入ったよ </div> <div> どんぐりゴマの周り紙の円盤を付けるときれいによく回った </div> <div> 工夫を聞いていてやってみたくなった まだ作りたい </div> <div> 枝や落ち葉、木の実で動物をいっぱいつくった 毛糸でつるせば ペンダントになるんだ </div> </div> <p>5 本時をふり振り返り 次時の予告を聞く</p> <p>○おもしろい遊びになったかな</p> <div data-bbox="177 772 893 1153"> <div> まだ できていないな どんぐりコースを作るのに時間がかかったから </div> <div> 飾りを作って遊んだよ つき組さんがじょうずに飾りを作っていた また一緒に遊びたいな </div> <div> たねや豆で楽器を作ったのが面白かった みんなで比べたら入れるものによって音が違うとわかった </div> <div> 友達やつき組さんと一緒に遊ぶと楽しいな また協力して作ろう </div> </div> <p>○2年生からの手紙を聞こう</p> <div data-bbox="177 1232 893 1444"> <div> どんぐりで遊べるたのしいお店を作りたいなあ たくさんお客さんがくるお店にしたいなあ </div> <div> もっとおもしろい遊びを作って 2年生やすみれさんに喜んでほしい </div> </div> <div data-bbox="161 1512 1309 1657"> <p>おもしろい遊びになっていったよ つき組さんの〇〇ちゃんがうれしそうだった 遊びを工夫すると面白くなった つき組さんと何のお店屋さんを出そうかな わくわくするよ</p> </div>	<p>20</p> <p>15</p>	<p>思いや願い、気付きの比較・分類 ペアの年長児と相談し 楽しかった遊びや工夫したことを聞き出しながら 付箋に書く 書いた付箋を貼りだしお互いの工夫を比べながら見合うことで その後全員交流の場に生かされる</p> <p>思いや願い、気付きの明確化 1年生・年長児におもしろかった遊びやまだやりたい遊びにシールを貼ってもらう なぜおもしろかったのかを言わせることで秋の自然物の面白さやお互いのかかわりのよさに気付かせたい</p> <p>目的の再確認 2年生からピースタウンカーニバルでお店を出しませんかというお誘いの手紙を読むことでさらに秋遊びへの思いを膨らませる</p>
<p>6 後片付けをする</p>	<p>5</p>	

2の2 生活科学学習指導案

中川 好美

1 単元名 どきどき わくわく 平和町探検隊 ～めざせ！平和町博士！～

2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

地域にかかわる活動を通して 地域で生活したり働いている人々や 附属学校園のある平和町のよさなどの気付きを友達と共有し 関係づけ再構成する中で より親しみや愛着をもって 人々や地域とかかわり 気持ちよく主体的に生活していこうとする聞き合い

本単元では、本校がある平和町の魅力に迫る。附属学校5校園のうち、幼稚園・小学校・中学校・高校がこの平和町にある。通学範囲が広範囲に及ぶ本校の子どもにとって平和町とは、住んではないがかかわりが深く、共通の地域であると言える。しかし大半がバス通学のため、平和町がどんな町であり、どんな人々が生活しているのかは知らない。そこで、学校園や平和町に自ら探検に出かける活動を通して、そこに通う人や働く人、生活している人とかかわることで、学校園そのものや平和町について関心をもち、人や地域について深い気付きをもつことができると考える。それらを共有し、探検を繰り返していく中で、子どもは学校園や平和町をより一層身近に感じ、親しみや愛着をもってさらに人や地域とかかわることができる。そして、これからもこの附属学校園に通い、平和町で生活する人の一員として、気持ちよく生活していこうとする態度を養うことができると考える。このように、一人一人の気付きを関係づけ、再構成された思いや願い、気付きをもとにして、平和町の魅力にさらに迫りながら繰り返し探検に出かけたり、自分たちの気付きを誰かに伝えたり、表現したりすることで学びが豊かになると考える。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

思いや願い、気付きを素直に表現し、共感的に受けとめていく態度を基盤とし、学習履歴を細かく掲示したり、気付きをニュースにして発信したりする活動を取り入れ、思いや願いをもとに主体的に活動に取り組む態度を目指す。また以前から継続的に交流を続けている年中児（すみれ組）とのかかわりを意図的に設け、自分たちと同じように学校園や平和町で生活する年中児にもそのよさやおもしろさを平和町博士になって伝えようとする態度を目指したい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

本校は校区が広く、地域も広範囲に及ぶため、子どもが住む町ではなく、本校所在地である平和町や附属学校園を地域として捉え、子どもに共有させることにする。また、「めざせ！平和町博士！」という目的をもたせ共有することで、探検を通して、平和町のことがよくわかった、平和町のことが前よりも好きになったという思いに寄り添いながら学習を展開していく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 思いや願い、気付きの明確化

人や地域に対する思いや願い、気付きをワークシートや付箋に言葉や文、絵で記録していくことで、自分の気付きを明確にし、相手に分かりやすく伝えることができる。また、デジカメを活用し、できるだけ実物に触れることでよりそれらが明確になり、関係づけが行われやすくなる。

(2) 思いや願い、気付きの比較・分類

絵カードを白地図に貼ったり、自分たちの手でミニチュア版ピースタウンをつくったりするなど、町全体を見させたり、一部分を焦点化して見させたりすることで、比較・分類するときの視点を与えることができる。また、付箋を用いて自分たちの気付きを分類する場面を設定する。出された気付きを比較・分類することで、自分と友達の気付きの共通点・相違点に注目し、関係づけ再構成することができる。

(3) 交流の仕方の工夫

グループからクラス全体、自分のグループから他のグループなどと相手を替えて聞き合いを行うことで、新たな気付きに触れることができる。また、年中児を相手に伝える活動を設定することで、よりわかりやすい表現方法へと工夫する必要性が生まれ、相手を意識した関係づけ再構成が行われる。

(4) 目的の再確認

長期的な単元のため、「めざせ！平和町博士！」という大きな目的を設定する。学習掲示を活用した

り、探究的な活動の中での成長を認める声かけをしたりすることで、博士になることに喜びを感じ、目的に向かった関係づけ再構成が行われる。

5 単元構成（総時数 33 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 自分の町のどきどきわくわくを紹介しよう（3時間）</p> <p>○自分の町のどきどきわくわくなところは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の近くの公園のブランコだよ 風がとても気持ちいいよ <p>○平和町にもどきどきわくわくはあるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく知らないな どきどきわくわくがあるか調べてみたいな <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> どきどき わくわく 平和町探検隊 ～めざせ！平和町博士！～ </div>	<p>思いや願い、気付きの比較・分類</p> <p>自分の町のどきどきわくわくを平和町のと比較させ 意欲を高めるため 付箋に表し 白地図に貼る</p>
<p>2 平和町のどきどきわくわくを見つけよう（12時間）</p> <p>○平和町にはどんなものがあるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属小学校・中学校・高校・幼稚園 ・市立病院 ・平和町児童館 ・郵便局 ・加登長 ・セブンイレブン ・マルエー <p>○附属学校園のどきどきわくわくを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の体育館は大きくて すごくわくわくするね ・幼稚園には生きものがいっぱいいるんだよ <p>○学校園以外のどきどきわくわくを見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸福」のおまんじゅうはおいしいね どうやって作っているのかな ・「市立病院」には毎日どれだけの人が来るのかな ・平和町のことをもっとくわしく知りたいよ 	<p>思いや願い、気付きの明確化</p> <p>友達と比べやすくするためワークシートに自分の町に対する思いや願い 気付きを書かせる また相手に伝わりやすくするため写真や絵を用いる</p>
<p>3 平和町のもっとどきどきわくわくを見つけよう</p> <p style="text-align: center;">～めざせ！〇〇博士！～（6時間）</p> <p>○もっとくわしく調べたいところはどこかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が言っていた児童館がおもしろそうだったから行ってみたいな <p>○もっとくわしく探検しに行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューしたら 初めて知ったことがたくさんあったよ ・夜中ずっと寝ないでお菓子をつくっているって知ってびっくりしたよ 	<p>思いや願い、気付きの比較・分類</p> <p>共通点・相違点を共有しさまざまな見方・考えに触れさせるため 町探検での気付きを付箋に書き 比較・分類する</p>
<p>4 平和町のもっとどきどきわくわくを伝えよう</p> <p style="text-align: center;">～めざせ！平和町博士！～（4時間）</p> <p>○〇〇博士になって 平和町のもっとどきどきわくわくを伝えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸福」にはね 実は… ・「市立病院」には 実は… ・知らないことがたくさんあったよ 平和町ってすてきな町だな <p>○平和町のどきどきわくわくをもっと広めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれ組さんにどきどきわくわくを紹介したいな ・すみれ組さんが紹介した場所を気に入ってくれたよ 	<p>交流の仕方の工夫</p> <p>クラスでの発表を生かしより相手を意識して考えることができるよう 自分たちより幼い年中児を交流の相手に設定し 気付きを生かす場面をつくる</p>
<p>5 平和町のどきどきわくわくを楽しもう</p> <p style="text-align: center;">～どきどきわくわくピースタウンカーニバルをひらこう～（8時間）</p> <p>○ピースタウンカーニバルの準備をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和町の歌をつくりたいな ダンスもあるといいな ・平和町かるたをつくって遊びたいな <p>○みんなでピースタウンカーニバルを楽しもう【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれ組さんと一緒に踊ったり歌ったりしたいな ・みんなでつくったピースタウンカーニバルは楽しいな <p>○ピースタウンカーニバルをふり返ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校園や平和町のことがよくわかって 前より大好きになったよ ・すみれ組さんと一緒に活動して楽しかったよ もっと仲良くなれたよ 	<p>思いや願い、気付きの明確化</p> <p>友達と比較しやすくするため 付箋に思いや願い 気付きを書かせる また相手に伝わりやすくするため写真や絵を用いる</p>

6 第2日 授業 ④ (第5次中3, 4時) プレイルーム(幼稚園)・2の2教室

(1) 本時のねらい

年中児と一緒にピースタウンカーニバルを楽しみ お互いの感想や気付きを共有する中で 平和町のよさや 平和町博士になって活動する自分の成長に気付く

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 前時をふり返し 本時のめあてを確認する</p> <ul style="list-style-type: none">・いよいよすみれ組さんを招待するぞ・すみれ組さんが楽しんでくれるといいな <p>くすみれ組さんと一緒に ときどきわくわくピースタウンカーニバルを楽しもう</p>	5	
<p>2 すみれ組さんを招待し ピースタウンカーニバルをする</p> <p>○楽しくピースタウンカーニバルをしよう</p> <ul style="list-style-type: none">・楽しんでもらえるように笑顔でやろう・平和町のお祭りだから 大きな声で盛り上げよう	20	
<p>3 活動をふり返し 思いや気付きを共有する</p> <p>○ピースタウンカーニバルはどうだったかな</p> <div><div>練習どおりに発表できてよかったよ</div><div>うまかったしおもしろかったよ</div><div>すみれ組さんが笑顔になってくれたから大成功だと思うよ</div></div> <p>平和町のときどきわくわくがたくさん入った楽しいピースタウンカーニバルができたよ！</p> <div><div>もっとたくさんの人といっしょにやりたいな</div><div>おもしろかったからもう1回やりたいな</div><div>他のグループの発表もやってみたい</div></div> <p>たくさんの人と一緒に もっと楽しいピースタウンカーニバルがしたいな すみれ組さんも一緒にやろうよ</p>	15	<p>交流の仕方の工夫</p> <p>年中児の感想を聞いて自分の行動をふり返ったり 新たな気付きをもったりできるよう 年中児を交えてふりかえりをする</p>
<p>4 すみれ組さんと一緒に相談しながら もっと楽しいピースタウンカーニバルをつくる</p> <p>○グループに分かれて すみれ組さんと一緒にピースタウンカーニバルをつくろう</p> <div><div>どんなことを歌にしたいのか聞いてみよう</div><div>小学校探検のことをダンスにしたいな</div><div>こんなダンスにしたらどう？</div></div> <div><div>すみれ組さんも一緒にできるように工夫しないといけない</div><div>これならすみれ組さんも一緒にできそうだね</div><div>おもしろいダンスが付け加わったよ ますますおもしろくなったね</div></div> <p>すみれ組さんと一緒にやると ピースタウンカーニバルがもっと楽しくできそうだよ</p>	20	<p>交流の仕方の工夫</p> <p>思いや願い 気付きを交流しながら活動できるよう 2年生と年中児が混在するグループをつくる</p>

5 片付けをする

- ・次使いやすいように分けて片付けよう
- ・幼稚園さんの場所だからきれいに片付けないとね

6 活動をふり返り クラス全体で共有する

○すみれ組さんと一緒につくれたかな

すみれ組さんとうまく一緒にできなかったよ

「どっちがいい？」って聞いたから答えてくれたよ

紙を持ってあげたらやりやすそうだったよ

すみれ組さんが「〇〇ちゃん」って呼んでくれてうれしかった

よし わかったぞ 工夫するともっとすみれ組さんと上手にできそうだな

すみれ組さんにやさしく教えてあげられたよ

すみれ組さんが小さくてやっぱりかわいかったよ

他のグループみたいにもっといろいろ工夫すれば、うまくいかかもしれないな 次はそうしてみよう
かわいいすみれ組さんの笑顔がもっと見たいし もっと楽しいピースタウンカーニバルができるといいな

○どきどきわくわくピースタウンカーニバルになったかな

すみれ組さんのどきどきわくわくも入ったから前よりもすてきなカーニバルになったよ

すみれ組さんも楽しめるように少しルールを変えたらいいね

写真があると、見ている人がすぐわかるからいいかも

どきどきわくわくがいっぱいあってびっくりしたよ

大きい看板をつくったらどうかな

地図があるとどんなものがあるかすぐわかるね

まだまだレベルアップできそうだね

平和町のどきどきわくわくがたくさんつまったピースタウンカーニバルになって だんだん盛り上がってきたね もう少しレベルアップして いよいよ完成だね

すみれ組さんのどきどきわくわくも入ったピースタウンカーニバルをすみれ組さんと一緒に考えることができたよ 平和町には本当にたくさんのどきどきわくわくがあるんだね みんなの平和町のどきどきわくわくや平和町のことが大好きになった気持ちが伝わるよう もっとピースタウンカーニバルを盛り上げたいな

7 本時をふり返り 次時のめあてをもつ

- ・1年生やつき組さんとも一緒にピースタウンカーニバルをするのが楽しみな

10

15

交流の仕方の工夫

平和町博士として「年中児とどのようにかかわることができたか」「どのようにピースタウンカーニバルをつくることができたか」に焦点を絞って聞き合いができるよう 2年生のみでふりかえりをする

思いや願い、気付きの比較・分類

お互いの意見の視点を明確にし 共通点・相違点に目を向けさせ 多様な考え方・感じ方に気付くことができるよう 発表を視点ごとに分けて板書したり、「似たような思いの人いる？」などと発問したりする

交流の仕方の工夫

次の活動を意識させ 見通しをもたせるために 本時の課題や板書をふり返りながらどきどきわくわくが伝わるようなピースタウンをつくるができているかどうかを問う

5

MEMO

— 71 —

1の2 音楽科学習指導案

大滝 菜保美

1 題材名 はくにのってリズムをうとう

2 題材における学びを豊かにする聞き合い

拍に合わせて 楽しく リズムをうったり つくったりするための聞き合い

本題材では、楽しく体を動かす活動や遊びを通して、音楽を形づくっている要素に着目させる。そして、リズム創作ではグループでさらに楽しくリズムをうつにはどうしたらよいかを考え、話し合い、再構成としてさらに楽しく良い演奏を創りあげていく。

1学期は、親しみやすい楽曲やことば遊びで、遊びながら拍の流れにのることや絵譜を使いリズムの違い、音楽の仕組みを意識してきた。本題材では、学んだことを生かし、他の演奏を聴き比べることにより気付きを自分たちの演奏に生かしたり「もっとこうしてみたい。」や「きれいな感じにしてみたい。」など自分の思いやイメージをもち表現したりできるようにしたい。

また、低学年では他の人の演奏を聴かないで自分勝手な速さで演奏する傾向がある。そこで、自分だけの速さで演奏するのではなく、一定の速さの拍に合わせてたり、互いの音を聴いてみんなと合わせたりする楽しさや醍醐味も味わわせたい。これらのことを意識することで、将来、思いや意図をもって美しい合唱や合奏を楽しめるようにしたい。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

わらべ歌や童謡など親しみやすい歌を取り入れ、歌うことや身体を動かし、楽しみながら拍の流れ、リズムの違いを感じとるようになることである。また、一定の拍の流れやみんなと合わせることの楽しさや大切さを学ばせたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

絵譜や音符を見てリズムと結びつけることで、一瞬で消えてしまう演奏を視覚的にとらえることである。視覚的にとらえることで、リズムを友だちと共有したりそれをもとに考えたりすることができる。このように絵譜や音符を使うことで友だちとリズムを共有することができ、話し合いが活性化していく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 音楽を形づくっている要素に着目させる

楽しいリズム伴奏を創るために、音楽の仕組みの「繰り返し」「合いの手」「問いと答え」やリズムの違いを意識させる。言葉やリズムを板書をしたり、「繰り返し」「合いの手」「問いと答え」の仕組みの楽曲を取り入れたりとすることで自然に仕組みやリズムの違いを意識させることができる。それらをもとにリズムの創作ができる。また、共有される言葉があるために関係づけや再構成するための話し合いに有利に働く。

(2) 知覚・感受したものを聴き比べる

他のグループの演奏を聴き比べ、よかったなあと思う根拠を考える。自分たちの演奏をさらに楽しくするために、いろいろな演奏を聴き比べることで、根拠をもってそれを取り入れることで演奏をよりよく変化させていくことができる。

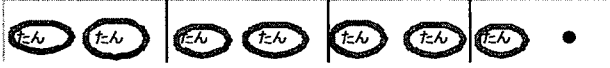

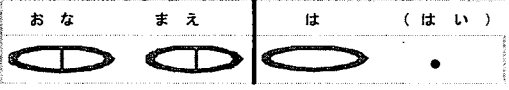
(3) テキストを活用する

リズムの違いを意識させるためのテキストとして絵譜を使用する。また、リズムを創作する時にはさらに楽しい音楽を創るために、話し合いのもととなるために絵譜や音符を使用する。絵譜や音符をもとに書き換えたり、話し合いをしたり、同じ演奏をしたりと関係づけ再構成には有効な手だてである。

(4) 魅力的な音楽と出会让せる

楽しんで体を動かす活動や遊びをするために親しみやすい楽曲を選曲する。また、音楽を形づくっている要素を意識するために要素の入った曲を選曲する。聴き取った要素は、リズム創作の要素になったり楽曲を鑑賞する時の根拠となったりする。目的意識を持たせるためにリズム創作だけではなく、楽しく快活な楽曲あいあいを選曲した。間奏のリズム伴奏を創作し、さらに楽しく歌えるようにしたい。

5 学習計画（総時数 8 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 はくをかんじとろう（2時間） （体を動かす活動）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さんぽ（音楽に合わせて口ずさんだり手拍子や歩いたりしながら はくのながれを感じ取る） ○げんこつやまの たぬきさん（歌いながら 身振りやじゃんけんをしてはくのながれを感じ取る） ・リズムに合わせて身振りやじゃんけんができて楽しかったよ  <ul style="list-style-type: none"> ○3時のおやつ（ゲーム感覚で遊びながら拍を感じ取る） ○しろくまのジェンカ（踊りを取り入れ はくの流れを感じ取る）  <p>2 音楽の仕組み「くりかえし」「あいので」「といとこたえ」や絵譜でリズム違いを意識する（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ことばあそび「おなまえリレー」（はくの流れを感じ取りながら「おなまえは？」「〇〇です」をリレーでつなげる） ・同じ文字数の名前でもいろいろなリズムができるよ  <ul style="list-style-type: none"> ○ことばあそび「すきなのは？」（同じパターンの「くりかえし」や「といとこたえ」になっていることを意識しながらすきなものを答える） ・「おなまえは（はい）」「すきなのは（はい）」のはいは「あいので」であることを意識する ○マンボ No. 5 を鑑賞する（あいのを意識させて鑑賞する） ・ことばあそびでいれた「おなまえは（はい）」と同じ合の手で掛け声が入っておもしろかったよ ○やまびこごっこ・あいあい（といとこたえを意識して交互唱を楽しむ） <p>3 リズム創作（4時間） あいあいのリズム伴奏をつくろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○あいあいの間奏のリズム伴奏を創作する【本時】 ・自分のリズムをつくったよ ・みんなでリズムを合わせると楽しくなったよ ・掛け声をかけたら もっと楽しくなったよ ○演奏を聴いてもらおう ・Aグループは 掛け声があったのしそだったよ ・Bグループは 一人とみんなにわかれて「といとこたえ」をつかっていておもしろかったよ ・Cグループは みんなのリズムをリレーでつなげていてよかったよ ・Dグループはリズムが二つにわかれていてすてきだったよ 	<p>魅力的な音楽と出合わせる 拍のながれにのって楽しみながら体を動かす活動をするために親しみやすい曲を選曲する</p> <p>音楽を形づくっている要素に着目させる 音楽や遊びの中から「繰り返し」「合いの手」「問いと答え」リズムの違いを意識させるために板書を活用する</p> <p>テキストを活用する リズムの違いを意識させるために絵譜を使う</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる 遊びながらいろいろなリズムパターンがあることを聴き比べる</p> <p>テキストを活用する グループで試行錯誤するためや皆で共有するために絵譜を使う</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる さらに良い演奏を目指すために他のグループの演奏を聴き比べる</p>

6 第2日 授業④（第3次中2時） 第2音楽室

(1) 本時のねらい

はくのにの流れにのりグループで楽しいリズムを創る

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 既習曲を歌う</p> <p>○マンボNo. 5のリズムに合わせて手拍子をうったりあいのてをいれたりする</p> <p>○あいあいを交互唱で歌う</p>	10	<p>音楽を形づくっている要素に着目させる</p> <p>リズム伴奏をつくるために音楽の仕組みを意識させる</p>
<p><グループで楽しいリズムをつくろう></p>		
<p>2 課題をつかむ</p> <p>○あいあいの間奏8小節のリズム伴奏をつくる</p> <p>○4拍子8小節のリズムをつくる</p> <p>○グループ（4人）で楽しいリズムをつくる</p>	5	
<p>3 グループで考える</p> <p>・自分の考えたリズムをもとにグループのリズムを考える</p> <div><div>みんなのリズムをつなげたらどうだろう</div><div>リズムをくりかえししてみよう</div><div>といとこたえにしてみよう</div><div>ひとりとみんなにわかれてといとこたえになるようにやってみよう</div><div>最後のほうは、リズムは細かいリズムにしたほうがにぎやかな感じになるよ</div></div>	10	<p>テキストを活用する</p> <p>リズムを考えるために絵譜を使う</p>
<p>4 グループのリズムをきいてもらう</p> <div><div>歌はいる前にあいのて「イエイ！」があってはいりやすいよ</div><div>わたしたちのグループもあいのてをいれてみ</div><div>かけ声があるとたのしくなったよ</div><div>リズムがふたつにわかれていたよ</div><div>ふたつのちがうリズムをいっしょにやってみよう</div><div>足でリズムをする人と手でリズムをする人でわかれてたのしそうだよ</div></div>	15	<p>テキストを活用する</p> <p>グループで試行錯誤するためや皆で共有するために絵譜を使う</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる</p> <p>さらに楽しく良い演奏にするために他のグループの演奏を聴き比べる</p>
<p>・みんなで合わせることは難しかったけれど 合った時はうれしかったよ</p> <p>・合いの手をいれたら あいあいの楽しい感じがしたよ</p> <p>・手拍子だけでなく 足でリズムをとるのはおもしろかったよ</p>		
5 ふり返る	5	

2の3 音楽科学習指導案

笹谷 真理子

- 1 題材名 たがいの音をきこう
- 2 本題材における学びを豊かにする聞き合い

互いの歌声や楽器の音を聴き合い アドバイスや話し合いからよりよい演奏に近づこうとする聞き合い

本題材は、互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、みんなで気持ちを合わせて楽しく演奏する活動を中心に学習を進めていく。本題材では、歌声の重なりを感じる輪唱、歌声が主旋律で鍵盤ハーモニカが副旋律を奏する合奏、鍵盤ハーモニカの合奏と段階的に進めていく。互いの歌声や楽器の音を意識したり、聴く側と演奏する側に分かれて聴き合ったりする活動を取り入れていく。聴き合う際には、音楽を形づくっている要素「拍の流れ」「強弱」、鍵盤ハーモニカの奏法「レガート」「スタッカート」などに気をつけさせたい。それらを聴き合いの土台としてアドバイスをし合うことで、自分たちの演奏をさらによりよいものにしていこうという、関係づけ再構成が行われることを期待する。また、範奏を聴き「こんな演奏にしたい。」というゴールのイメージを持ち、聴き比べ、ゴールの演奏に近づくためにはどうしたらいいのかを友達と話し合うことで関係づけ再構成していこうとする姿を期待する。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

友達の音や演奏を、意欲的に聴き取ろうとする態度である。歌声と楽器が重なり合うおもしろさを味わうためには、それぞれの旋律やその響きを聴き取る力が必要となる。題材を通じて、音や旋律を聴くことができたなら手を上げる、いっしょに小さい声で副旋律を歌ってみるなど意欲的に聴くことができる場面をつくっていききたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

楽譜を読む力である。歌声や楽器の音の重なりを、視覚的にもとらえ理解させたい。自分たちが休符の時に友達はどんな演奏をしているのか、自分たちが今、どんな役割をしているのかを楽譜からも理解することで、よりよい演奏に近づくであろう。そのためには、音符や休符、スタッカート、レガート、音楽を形づくっている要素である「強弱」「拍の流れ」などを言語と実感を伴って身に付けておくことが必要である。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 音楽を形づくっている要素に着目させる

子どもにとって、自分が演奏しながら友だちの音を聴くことは難しい。そこで演奏する側と聴く側に分かち、音楽を形づくっている要素である「拍の流れ」「強弱」奏法の違いによる「音色」を、カードに提示するなどして題材を通して意識させたい。その観点に基づいてよかったところや改善点を互いに聞き合い、修正することで、よりよい演奏につながると考える。

(2) 知覚・感受したものを聴き比べる

本題材では、歌声や楽器の音が重なり合う響きのゴールの演奏として、CDの範奏を聴かせていく。範奏から、自分の演奏する部分がどのように演奏されているか聴き取らせたり、全体のバランスや音の重なりを意識して聴かせたりしながら学習をすすめていきたい。自分たちの演奏とどこが違うのか、どのように演奏したらゴールの演奏に近づくのか、「拍の流れ」や「強弱」など観点をしばって聴かせるようにしたい。

(3) テキストを活用する

本題材では、歌声や楽器の音の重なりを視覚的に意識させるために楽譜を活用していく。休符や音符の長さ、リズムなど自分の演奏する部分だけではなく、友達の演奏する部分も意識させたい。また、気付いたことを全体で話し合い、共有するために拡大楽譜を用意する。楽譜を見ながら、実際の音が伴った聞き合いを共有したい。

(4) 魅力的な音楽と出会让せる

第3次では「かえるの合唱～発表会用アレンジ～」(ドイツ曲 松田昌編曲)をに取り組む。子どもにとっては馴染みのある曲である。2拍遅れ、1小節遅れ、2小節遅れといろんな時間差でアレンジされ音の重なりをおもしろく感じることができる楽曲である。スタッカートやレガート奏法、強弱などに着目しながら楽しく演奏させたい。

5 学習計画（総時数 12 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 歌声を聴き合いながら「どこかで」を歌う（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○曲の感じをつかんで歌う <ul style="list-style-type: none"> ・季節の歌だね ・おいかけっこの歌だよ ・「ブーン」や「ドーン」が重なっておもしろいな ○友達の歌声を聴きながら輪唱する <ul style="list-style-type: none"> ・CDを聴いてみよう 擬音語のところは やさしくきれいに声が重なっているね ・友達の歌声を聴きながら 楽しく輪唱できたね <p>2 歌声と鍵盤ハーモニカの音を聴き合いながら「ぷっかりくじら」を演奏する（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○曲の感じをつかんで主旋律を歌う <ul style="list-style-type: none"> ・歌と楽器の曲だね ・スキップのリズムにのって楽しく歌えたよ ○副旋律を演奏する <ul style="list-style-type: none"> ・四分休符や二分音符に気を付けてふこう ・拍の流れにのっているかな ○主旋律と副旋律を合わせる <ul style="list-style-type: none"> ・今のグループの演奏で副旋律がしっかり聞こえたよ もう少し小さくてもいいね ・互いの歌声や鍵盤ハーモニカの音を聴き合って楽しく演奏できたよ 	<p>音楽を形づくっている要素に着目させる 「拍の流れ」にのっているか意識させるために メトロノームをかけておく</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる 範唱や友達の演奏を聴き比べ 擬音語の重なりや「拍の流れ」「強弱」についてアドバイスさせる</p> <p>テキストを活用する 声の重なる部分や合わせるところを意識させるために自分の楽譜と拡大譜で確認させる</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる 聴くことを意識させるために副旋律だけを聴きとったり 小さな声で歌わせたりする活動を取り入れる 範唱や友達の演奏を聴き比べ バランスや「拍の流れ」「強弱」などについてアドバイスさせる</p>
<p>3 互いの鍵盤ハーモニカの音を聴き合いながら 合奏「かえるの合唱～発表会用アレンジ～」を演奏する（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○曲の感じをつかむ <ul style="list-style-type: none"> ・前に演奏した「かえるの合唱」とはちょっと感じがちがうね ・5つのパートに分かれているよ ○鳴き声パート（鍵ハ1～3）を演奏する <ul style="list-style-type: none"> ・拍をよく数えないと難しいな ・スタッカートでふくんだね ○メロディーパート（鍵ハ4～5）を演奏する <ul style="list-style-type: none"> ・「かえるの合唱」だけど今までの重なり方とはちょっとちがうな ・メロディーの前半はレガート 後半はスタッカートだよ ○鳴き声パートとメロディパートを合わせる <ul style="list-style-type: none"> ・1「かえるがないた」と2「3びきないた」は かえるがふえているから2は少し強くふいたらいいね ・3「かえるのがっしょう1」と4「かえるのがっしょう2」はどこがちがうのかな 楽譜をよく見てみよう ・強弱がちがうよ 鍵4と鍵5が入れかわっているよ ・5「かえるのだいがっしょう」はどこがちがうのかな 【本時】 ・「だいがっしょう」だけに強弱はフォルテだよ ・鍵4と鍵5の重なり方が今までより難しいよ ・6「すくなくなっていく」は少しずつ小さくなっていくよ ・最後の2小節はフォルテで心を合わせて演奏するよ <p>4 発表会をしよう（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのグループも「拍の流れ」や「強弱」に気をつけて互いの音を聴きながら上手に演奏しているね 	<p>音楽を形づくっている要素に着目させる 「拍の流れ」「強弱」「スタッカート」「レガート」など演奏や聴くために意識してほしい要素についてはカードを提示する</p> <p>テキストを活用する 音がどこで重なるのか前とどこが変わっているのかを意識させるために自分の楽譜で確かめ 拡大譜で共有する</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる よりよい演奏に近づけようとするために 友達と聴き合いアドバイスし合いながら練習する時間をとる CDによる範奏を聴き 自分の演奏する部分だけではなく 全体のバランスや音の重なりを意識して自分たちの演奏との違いを聴き取らせる</p>

6 第2日 授業 ⑤ (第3次中5時) 第2音楽室

(1) 本時のねらい

「かえるのだいがっしょう」にするために友達のアドバイスを取り入れ 互いの音や重なりあう響きを感じながら楽しく 演奏する

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 前時の学習をふり返る</p> <p>○「かえるのがっしょう2」はどんなことに気を付けて演奏したかな</p> <ul style="list-style-type: none">・友達の音を聴きながら演奏したよ・「かえるのがっしょう1」とのちがいを考えて演奏したよ・「強弱」はフォルテだね・今日はいよいよ「かえるのだいがっしょう」だね <p><「かえるのだいがっしょう」にするためにどんなふうに演奏すればいいかな></p>	5	<p>音楽を形づくっている要素に着目させる</p> <p>「拍の流れ」「強弱」などのキーワードは提示して意識させる</p>
<p>2 楽譜を見て話し合う</p> <p>○「かえるのだいがっしょう」は今までとどこがちがうかな</p> <div><div>かえるの鳴き声のリズムが変わっているよ スタaccartもついているね</div><div>鍵4と鍵5の重なり方がちがうよ</div><div>一番にぎやかなところだからフォルテでふくといいよ</div><div>ちがうところがたくさんあるなリズムや強弱に気を付けて友達の音をしっかり聴いて練習しよう</div></div>	10	<p>テキストを活用する</p> <p>まず自分の楽譜で考えをもち その考えを共有するために拡大譜を用意する</p> <p>音楽を形づくっている要素に着目させる</p> <p>「リズム」「音の重なり方」などのカードは提示し 意識して練習できるようにする</p>
<p>3 練習する</p> <p>○互いにアドバイスをしながら練習しよう</p> <div><div>フォルテは息をしっかり入れてふくといいよ 少しずつ息を入れていくとだんだん強くなっていくよ</div><div>強弱や音の重なり方に気を付けてふけるようになったよ</div><div>鍵4と鍵5の重なり方は難しいな 拍の流れにのってふこう 1,2 と数えて入るよ</div></div>	20	<p>知覚・感受したものを聴き比べる</p> <p>友達にアドバイスできるように互いに聴き合う場面を設定する CDによる範奏を聴き 自分の演奏する部分だけではなく 全体のバランスや音の重なりを意識して自分たちの演奏との違いを聴き取らせる</p>
<p>4 演奏する</p> <p>○アドバイスを生かして互いの音をよく聞いて合わせてみよう</p>	5	
<p>友達が教えてくれたことを取り入れ お互いの音をよく聴き合って「かえるのだいがっしょう」を楽しく演奏することができたよ</p>		
5 今日のまとめをする	5	

石川県音楽教育研究会指導案

小学校部会 徳田 典子

1. 題材名 鑑賞で感じ取った曲想を演奏に生かそう

(教材名) 幻のトレイン 継田和広 作曲

2. 題材の目標

- ・ 楽曲の特徴や演奏のよさに関心を持ち、打楽器を演奏する学習に意欲的に取り組む。
- ・ 思いや意図をもって、曲想を生かした表現を工夫する。
- ・ 音色・リズム・強弱・調などの要素を支えとし、曲想に合う表現をする。
- ・ 曲想とその変化などの特徴を音色・リズム・強弱・調の関わり合いから想像したことを言葉で表すなどして楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く。

3. 学習指導要領の内容との関連

【A 表現】イ. 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

ウ. 楽器の特徴を生かして打楽器を演奏すること。

【B 鑑賞】ア. 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

ウ. 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

取り扱う主な【共通事項】

音色	汽笛、鐘などその場面に合うイメージの音色
リズム	各楽器からなるリズムの音型、その場面のイメージに合うリズム
強弱	遠近感を意識した強弱
調	その場面の調性から醸しだされたイメージ

4. 学習指導にあたって

(1) 教材について

継田和弘作曲の打楽器アンサンブル『幻のトレイン』である。曲はゆっくりと蒸気機関車が発車していく場面から始まり、子どものイメージがかきたてられるような展開になっていく。打楽器が数多く使用されることからなる豊かな音色、多様なリズム、各打楽器の奏法の違いなどによる曲想の変化が味われる。蒸気機関車が力強く走っていることを想像させてくれるようなリズムの反復や、メロディの問いと答えなどの音楽の仕組みがとらえやすく、わかりやすい。また調性の変化により、醸し出される雰囲気から、子どもは自分なりに場面のイメージを想像することができるであろう。

本題材では「幻のトレイン」の演奏の聴き取りから始める。スコアから見取る作曲者の思いや意図をくみとり、自分たちの「幻のトレイン」のお話づくりをする。この楽曲は自分なりのイメージをもって、場面に合う音色をつくり、奏法を工夫して表現する学習に効果的だと考えている。模範となる演奏をDVD視聴させることから、打楽器ならではのマレットのコントロールやパフォーマンスまで、幅広い表現となることを期待している。

（２）児童について

５年３組は、音楽科の授業において、大変意欲的な学習集団である。グループで学習する場面では、お互いの意見を素直に受け入れる協力体制は出来ている。

音楽科で既習していることの中に、打楽器の学習の基礎がある。ドラムスティックを使用し、練習板でスティックコントロールを実施してきた。リズムカードを提示し、メトロノームに合わせてストロークを繰り返した。手首の使い方などの基本はその学習の中で養われている。その上で、ドラムスを導入して、楽曲に合わせてドラムスの演奏をした。学級内の個人差は、多少あるものの、簡単な８ビートのパターンについては、学級の全員が演奏出来る。また、パターンの難易度を上げてもクリアしたいと練習をくりかえす意欲的な姿が多くみられた。また、ドラムスの演奏の中で表現する fill in や solo を入れる工夫では、どの子ども進んで創意工夫しながら演奏することが出来た。

本題材では、今までに演奏経験のない打楽器との出会いがある。この学習を通して、子どもは打楽器のもつ魅力に気づき、アンサンブルを通して、楽しんで活動することが期待される。

（３）研究の視点について

研究主題「ときめき ゆらぎ そしてきらめき」にせまるためには、子どもの心がときめく楽曲と出会わせたいと考え、中心教材を打楽器アンサンブル「幻のトレイン」とした。

本題材では、副題に掲げられている子どもの姿を具現化するために、次のような手だてとする。

本題材における「豊かに感じる」は、イメージを豊かに感じて表現させるためのお話づくりの場とする。打楽器アンサンブルという演奏表現にむけて、子どもたちの「もっときいてみたい、どうしても音楽で表現したい」というときめきを引き出すために、楽曲を注意深く聴かせる。そのために、楽曲を４つの場面に分けて集中して聴かせ、各場面の音楽の要素や表現をとらえさせる。また、作曲家の意図も子どもに伝える。イメージをもって演奏させるために、聴き取ったことをもとに、あらすじを考え、お話づくりをする。

次に子どもが最もゆらぎを感じるこの楽曲の曲想の変化を感じ取らせる手だてとして、特徴的なリズムを鍵盤ハーモニカで演奏させる。

その後、各パートの譜読みに入る。抱く思いを体全体で表現し、さらに子どもがきらめくために、プロの演奏のDVD鑑賞をさせ、打楽器のダイナミクスの表現の仕方に気づかせる。マレットを交換すること、ロールの仕方や音の処理など、視覚的に自分たちの演奏との違いに気づかせる。プロの演奏のパフォーマンスから、より表現の幅が広がり、ダイナミクスの演奏表現を取り入れて、完成へとむかう。

このように、思いを音にのせて ともに学び 豊かに感じる姿を求める場を設定しながら、大会主題のときめき ゆらぎ そしてきらめく子どもの姿を求めていきたいと考えている。

5. 題材の評価規準

I 音楽への関心・意欲・態度	II 音楽表現の創意工夫	III 音楽表現の技能	IV 鑑賞の能力
<p>①「幻のトレイン」の曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>②演奏する楽器の特徴を生かして、打楽器を演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>①音色、リズム、強弱、旋律、調を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、場面にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや思い、意図をもっている</p> <p>②互いの楽器の音、リズム、強弱、各場面の主な旋律や調を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや思い、意図をもっている</p>	<p>①「幻のトレイン」の曲想を生かした表現で演奏している。</p> <p>②各場面の主な旋律や全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。</p>	<p>①「幻のトレイン」の楽曲全体にわたる打楽器が醸し出す曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。</p> <p>②「幻のトレイン」の曲想とその特徴や音色、リズム、強弱の関わり合いから想像したことを感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>

6. 題材の指導と評価の計画（8時間＋課外）

時	◎ねらい <課題> ○学習内容 ・主な学習活動 □まとめ	評価規準（評価方法）
1	<p>第一次 ◎打楽器アンサンブル「幻のトレイン」の醸し出す曲想を感じ取って聴く。 （教材名）「幻のトレイン」 継田和広 作曲</p> <p><幻のトレインはどんな感じの曲かな> ○打楽器アンサンブルの演奏を聴いて、曲全体の感じをつかむ。 ・情景を想像しながら聴き、場面ごとの感じをつかむ。 ・ワークシートに、聴き取りから曲想について感じたことを書く。</p> <p>打楽器だけの演奏なのにとっても迫力があつたよ。打楽器の音色や演奏の仕方からいろんなイメージがわいてきたよ。</p>	<p>IV-①「幻のトレイン」の楽曲全体にわたる打楽器が醸し出す曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。</p> <p>【鑑賞の能力】 （聴き取りのワークシートの記述）</p>

2	<p>< 幻のトレインに合うお話を考えよう ></p> <p>○ 曲の特徴をいかしたお話づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面ごとに曲の特徴をとらえて記入したワークシートをもとに、お話づくりをする。 ・ 自分の考えたおはなしのあらすじをワークシートに書く。 <p>私は蒸気機関車に乗って、魔法の世界にいくお話をつくったよ。海の色やお花畑の様子は曲の特徴からイメージしたよ。5の3のお話はどんなストーリーになるか楽しみだね。</p>	<p>IV-②「幻のトレイン」の曲想とその特徴や音色、リズム、強弱の関わり合いから想像したことを感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p> <p>【鑑賞の能力】 (お話づくりのワークシートの記述・発言内容)</p>
3	<p>第二次 ◎ 曲想の変化を感じとりながら演奏する。</p> <p>< 各場面の特徴のあるリズムはどれかな ></p> <p>○ 旋律の特徴から場面の曲想を感じ取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鍵盤ハーモニカで特徴のある旋律を演奏する。 ・ 演奏をして感じ取ったことや気付いたこと点について話し合う。 <p>鍵盤ハーモニカで各場面の特徴のある旋律を演奏すると、曲想が変化していくことに気付いたよ。</p>	<p>I-①「幻のトレイン」の曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (演奏聴取・演奏観察)</p>
4	<p>< 曲想の変化を感じながら演奏できるようにしよう ></p> <p>○ 曲想の変化を意識しながら演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各場面の音楽の特徴を生かした演奏をする。 ・ 各パートの譜読みをする。 <p>各パートの譜読みが出来てきたね。この場面の私のパートのリズムは、列車の走る様子を意識して演奏するよ。</p>	<p>II-①音色、リズム、強弱、旋律、調を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、場面にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている</p> <p>【音楽表現の創意工夫】 (演奏聴取、行動観察・発言内容)</p>
5	<p>< どんな演奏にしたらお話の場面が伝わるかな ></p> <p>○ 話し合ったことを生かした表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの演奏の録音と範奏との聴き比べをする。 ・ 聴き比べによって気付いた表現の違いや自分たちの演奏のよさを話し合う。 ・ 話し合った内容を生かした演奏をする。 <p>範奏の演奏を聴いたら、わくわくドキドキが伝わったよ。各場面の音色を考えたり、強弱を意識したいな。</p>	<p>III-①「幻のトレイン」の曲想を生かした表現で演奏している。</p> <p>【音楽表現の技能】 (演奏聴取・発言・演奏観察)</p>

6	<p>第三次 ◎範奏の鑑賞を生かした演奏の工夫をする。</p> <p>＜プロが演奏はどんな演奏の仕方をするのかな＞</p> <p>○映像を鑑賞して自分たちの演奏の仕方との違いに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞して気付いたことをワークシートに書く。 ・映像の鑑賞をして気付いたことを参考にして、表現の工夫をする。 <p>演奏の仕方を見ていると、マレットをかえてイメージに合う音色をつくったり、様々な打楽器の演奏の仕方がわかったよ。</p>	<p>I－②演奏する楽器の特徴を生かして、打楽器を演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【関心・意欲・態度】 (演奏聴取・ワークシートの記述・演奏観察)</p>
7	<p>＜わくわくドキドキする演奏はどんな工夫をしたらよいのかな＞</p> <p>○曲の構成を意識したダイナミクスの工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の演奏の録音を聴き、自分たちの演奏のダイナミクスの表現について確かめる。 ○楽曲を通じて、強調したい部分の演奏を見直し、ダイナミクスの工夫をする。 ・場面で一番伝えたいところはどの場面かをふりかえる。 ・まとめの合奏をする。 <p>プロの演奏から学んだマレットの使い方、楽器の演奏の仕方、そしてパフォーマンスを取り入れたら、演奏がわくわくドキドキしてきたよ。ダイナミクスを意識した表現を取り入れると、場面の様子がはっきり伝わってくるね。</p>	<p>II－②互いの楽器の音、リズム、強弱、各場面の主な旋律や調を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p> <p>【音楽表現の創意工夫】 (演奏聴取・発言・演奏観察)</p>
8	<p>＜「幻のトレイン」のまとめの演奏をしよう＞</p> <p>○全体の響きを調和させて、まとめの合奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習履歴をふりかえり、演奏表現についての確認をする。 ・5の3の幻のトレインのお話を意識した演奏をする。 ・まとめの演奏を録音する。 <p>お話に合うような演奏にするために、たくさん話しあって、表現を工夫してつくりあげてきたね。たくさんの打楽器を使って、学級みんなで素敵な演奏ができて感動したよ。</p>	<p>III－②各場面の主な旋律や全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。</p> <p>【音楽表現の技能】 (演奏観察・ワークシートの記述・発言)</p>

7. 本時の学習（第3次中第2時）

（1）本時のねらい

お話のイメージに合う演奏にするために、ダイナミクスの効果を取り入れ、奏法やマレットの扱いなどをどのように工夫して表現したらよいかについて、自分の考えや思い、意図をもつ。

（2）本時の展開

時	○学習内容 ・学習活動 「 」予想される児童の反応	・教師の指導 評価規準（評価方法）
5	・合奏する。 ・前時をふり返り、マレットの使い方や奏法に気をつけて演奏する。 くわくわくドキドキするにはどんな工夫をしたよいかな>	・前時の演奏を想起するために録音を聴かせる。
10	○曲の構成を意識したダイナミクスの工夫をする ・前時の演奏の録音や録画を鑑賞して、自分たちの演奏のダイナミクスの表現について確かめる。 「 I ではティンパニの fp やクレッシェンドの表現は列車のスピードがガンガン高まるような感じがあまり感じなかったから、f と p の差をつけたロールにして演奏するよ」	・場面の様子を意識した表現の工夫をさせるために、お話のあらすじを確認させる。
20	○楽曲を通じて、強調したい部分の演奏を見直し、ダイナミクスの工夫をして合奏する。 「やっぱり、ライトブルーの海をまっすぐに走るシーンの K の旋律は未知の世界に向かって汽車が強く走り出すような感じを出したいから、硬いマレットに換えて、リズムがはっきりと聴こえるように演奏するよ」	Ⅱ－②互いの楽器の音、リズム、強弱、各場面の主な旋律や調性、音楽の縦と横の関係を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願い、意図をもっている。
7	・まとめの合奏をする。 「パフォーマンスも取り入れて、体全体でも強弱をはっきりあらわすと、さらに演奏に迫力が出るね」	【音楽表現の創意工夫】（演奏聴取・発言・演奏観察）
	プロの演奏から学んだマレットの使い方、楽器の演奏の仕方、そしてパフォーマンスを取り入れたら、演奏がわくわくドキドキしてきたよ。ダイナミクスを意識した表現を取り入れると、場面の様子がはっきり伝わってくるね。	
3	・本時のふりかえりをする。	・場面の様子に合った演奏をするためには、どのようなダイナミクスの工夫をしたらよかったのかをふりかえらせる。

（3）本時の評価

- ・判断のポイント：A その場面において、自分のパートの演奏のダイナミクスの工夫はどうすればいいのかを演奏しながら表現を試したり、自分の考えを発言する。
- ・指導の手だて：C ダイナミクスの理解不足については、映像や実演で示し、援助する。

6の3 音楽科学習指導案

徳田 典子

1 題材名 楽しく歌おうクラスソング 夜空ノムコウ

2 本題材における学びを豊かにする聞き合い

表現を工夫する過程で歌詞や音楽に抱く思いを語り合い 音や言葉で関係づけをして
6の3のクラスソングを具現化するための聞き合い

本題材の「夜空ノムコウ」は6年3組のクラスソングとして歌うために、創り上げていくことを目指していく。選曲については全員で意見を出し合い、自分達のクラスの思いに添った選曲になるように心がけた。創り上げていく過程では、今までの既習を生かし、子どもが抱くいろいろな思いを、音や言葉にこめて表現すると予想している。特に魅力的な音楽の種類や出会わせ方を工夫することで、聞き合いを活発化したいと考えた。感動からくる自分の思いを音や言葉で友達の思いと関係づける機会となり、そのことをもとに、クラスソングの表現がより再構成されていくであろう。またクラスソングの学習では、子ども同士の日々の様々な葛藤を乗り越え、心の成長を促すことができるように導き、小学校生活最後の大切な一曲となることを目指したい。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

1学期から実施してきた発声のトレーニングを継続していく。当初、ロングトーンをしても腹筋が弱く、声を長く持続することが出来なかったが、現在は少し向上したと感じている。リーダーが中心になり、練習を進めていく活動に、教師は支援にまわり、より美しいハーモニーが奏でられるように心がけたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

合唱の学習では、共通のテキストの活用をすることで、より聞き合いを活発化させたい。楽譜に記されている音楽にかかわる用語の理解は、一学期から継続して学習してきた。そのことをもとに、自分の思いを音や言葉で具体的に説明させ、関係づけ再構成につなぎたい。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 知覚・感受したものを聴き比べる

2次では、原曲と自分達の演奏の聴き比べをする。原曲の視聴は子どもに新鮮な気付きを与えたと考えている。ハミングの仕方や間奏の口笛、また伴奏の演奏から醸し出される雰囲気はこの楽曲を引き立たせていると気付くであろう。また、三部合唱の練習にとりかかったばかりの子供達の演奏との聴き比べは、雰囲気の違いを感じるだけでなく、楽曲の構成を理解し、表現を豊かに演奏しようとするにつなげる。聴き比べの際には友達の考えと自分の考えを関係づけ再構成して、表現を練り上げていく。この繰り返しをすることで3次の聴き比べをさせ、演奏を完成させていく。

(2) テキストを活用する

6年になって三部合唱に取り組むにあたり、主旋律の動きをとらえることやその他の旋律の重なりなど、楽曲の構成や特徴を理解する根拠として活用してきた。また、テキストに書き込んである友達の考えと自分の考えを関係づけすることで、よりよい表現への気づきとなった。本題材では、まずこの楽曲を演奏する際の自分の気持ちを表すために、曲想についての考えを言葉や発想記号で書き入れる。それをもとに友達の考えと比較して関係づけして、楽曲の表現の工夫に生かしたい。

(3) 魅力的な音楽と出会わせる

本題材で原曲ととらえているのは、スマップ演奏の夜空ノムコウである。この曲は、作詞者のスガシカオや作曲者の川村結花をはじめとして、多くの歌手によるカバーがあることに目をつけた。1次の導入時にはCDによる聴き取りから、曲想について考えさせ、友達の思いと関係づけさせることから始める。また、作詞者や作曲者が歌う演奏を視聴することで、同じ楽曲でもそれぞれの解釈の違いによって、楽曲の醸し出す雰囲気が違うことに気付かせる。2次では原曲の演奏を視聴させる。自分の取り組んでいる楽曲の特徴をとらえるために、演奏の仕方を参考にさせる。3次では、アレンジの違う演奏と出会わせる。

5 学習計画（総時数 8 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 曲の雰囲気をつかんで主旋律を 歌う（2 時間）</p> <p>○主旋律を歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律のところを指でなぞるとパートの役割がわかるね ・主旋律の流れがわかると曲の構成がみえてくるよ ・私は○○と曲想記号を書くよ <p>○曲の雰囲気をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原曲CDを聴くと曲の情景が歌詞や旋律から伝わるね ・作詞や作曲をしたアーティストの演奏はそれぞれの表現したいことが伝わってくるようだ ・同じ曲なのにいろんな表現の仕方があったよ。歌詞を読み楽譜をみて自分たちの演奏はどんな雰囲気にしたらいいか考えたい 	<p>テキストを活用する</p> <p>曲の雰囲気について意識するために楽譜の曲想について感じたことを言葉か曲想記号で書かせる</p> <p>魅力的な音楽と出会わせる</p> <p>曲の雰囲気をつかませるために原曲のCDや作詞や作曲に携わったアーティストの演奏を視聴させる</p>
<p>2 楽曲の構成を理解して演奏する（3 時間）</p> <p>○各パートの役割を意識して歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の部分が一目でわかるように楽譜に書き入れるよ ・メゾはDから主旋律になるので強く歌いたい ・BやIの部分は○○な感じに…と楽譜に書いたよ <p>○楽曲の特徴をとらえた歌い方の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜のGは口笛と書いてあったが原曲では本当に○○が口笛を吹いていてびっくりしたよ ・EとFのサビの部分では原曲と違って三声になっているから音量のバランスに気をつけないと主旋律が聴こえてなくなるね <p>○前時に録音した自分たちの演奏を聴く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原曲の伴奏と違って私達の伴奏はピアノだけ歌と伴奏の旋律の流れを意識した演奏にしたい ・みんながもっと三声の響きを感じながら歌わないと音が重なった響きの美しさがでない ・曲の速度を少し変化させると雰囲気の違いを出せるかも 	<p>テキストを活用する</p> <p>自分の考えがわかるように楽譜に自分の表現の意図を書かせる</p> <p>魅力的な音楽と出会わせる</p> <p>楽曲の特徴をよりとらえさせるために原曲の映像を視聴する</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる</p> <p>原曲と自分達の演奏の聴き比べをすることで自分達の表現の不足に気付かせる</p>
<p>3 曲想を生かした表現を工夫して三部合唱する（3 時間）</p> <p>○曲想を生かした三部合唱をする【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ曲でもいろんな曲想の演奏があるね ・リズムや歌い方を変えると雰囲気がかわったよ <p>○演奏の録音の聴き比べをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めての録音は表現がはっきりとしてないね ・今日の録音は自分達の意図した表現が伝わってきたよ <p>○心のこもったまとめの演奏をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律や言葉の語感を生かした演奏にしたい ・みんなで気持ちのこもった三部合唱にしよう 	<p>魅力的な音楽と出会わせる</p> <p>アレンジの違う演奏を鑑賞することで曲想の違いに気付かせる</p> <p>知覚・感受したものを聴き比べる</p> <p>初めての録音と現在の録音を聴き比べることで演奏の変容に気付かせる</p> <p>テキストを活用する</p> <p>今まで楽譜に書き入れてきたことを見直しまとめの演奏に生かす</p>

6 第2日 授業 ④ (第3次中1時) 第1音楽室

(1) 本時のねらい

アレンジの違う「夜空ノムコウ」の演奏を鑑賞することで 曲想表現の違いについて気付き
6の3のめざす演奏に近づけるために 表現の工夫をする

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 前時のふりかえりをする</p> <p>○前時の演奏の録音を聴く</p> <ul style="list-style-type: none">・○○を入れると曲の構成がはっきりしてきたね・なんだか全体のノリも少しよくなった	5	<p>知覚・感受したものを聴き比べる</p> <p>前時までのふりかえるために まとめの演奏の録音を聴く</p>
<p>＜ どんな工夫をしたら6の3のイメージする夜空ノムコウになるのかな ＞</p>		
<p>2 アレンジの違う「夜空ノムコウ」の演奏を鑑賞する</p> <p>○三人のアーティストの演奏を聴く</p> <div><div>この演奏は出だしの言葉がはっきりしていて歌に引き込まれるね</div><div>このアレンジはゆっくりなんだけどノリが気持ちいい</div><div>自分達の演奏を見直して表現の工夫をしたい</div><div>この演奏は本当に夜空ノムコウなの？と思ってしまいうアレンジ</div></div>	15	<p>魅力的な音楽と出会わせる</p> <p>アレンジの違う演奏を鑑賞することで曲想の違いに気付かせる</p>
<p>3 鑑賞したことを参考にして 表現の工夫をする</p> <div><div>ドラムスを演奏に入れると 旋律の流れがよくなるから試してみたい</div><div>テンポを見直して私達のイメージした曲想に近づけるよ</div><div>ソウルシンガーの演奏みたいに出だしから言葉がはっきりしたらいい</div><div>アレンジの違う演奏を参考にして表現の工夫をするよ</div></div>	22	<p>テキストを活用する</p> <p>表現の工夫に活かしたために テキストに記したことをもとに音や言葉で表出させる</p>
<p>同じ曲でもリズムや歌い方の違いによって 雰囲気が違うことがわかったよ ドラムスを入れて 言葉をはっきりさせて歌うと 6の3のイメージに近づけたよ</p>		
<p>4 本時のまとめの演奏をする</p> <ul style="list-style-type: none">・6の3の曲想『○○』をめざして 言葉を丁寧に歌いたい・補助楽器を効果的に入れて テンポよく歌うよ	3	<p>知覚・感受したものを聴き比べる</p> <p>今までの演奏との聴き比べをするために本時のまとめの演奏を録音する</p>

學習指導案

図画工作科

5の1 図画工作科学学習指導案

宮本 美紀

1 題材名 糸のこドライブ～パズルに挑戦！！～

2 本題材における学びを豊かにする聞き合い

試行的思考と相互評価を通して 糸のこぎりの技能と発想パターンを共有 活用しながら 遊ぶ面白さと造形的な美しさや楽しさのあるパズルづくりを追求する聞き合い

電動糸のこぎりを使い板材を切って、パズルづくりを行う題材である。糸のこぎりの技能とデザインの発想パターンを試行、活用しながら、遊ぶ面白さと造形的な美しさや楽しさのあるパズルづくりを追求させたい。

子どもが自信をもって製作に取り組めるよう、試行を通して、糸のこぎりの技能とデザインの発想パターンを獲得させる。また、造形要素を①材料、②形、③色に分けて捉えさせることで、三つの要素についての見方を活用知識化させていく。そして、相互評価による他とのかかわりのなかで発想を多様化させる。技能と発想が充分に獲得されたところで、活用の中としての自己選択による製作へと向かわせていく。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

本題材を通じて子どもにつけたい能力とは、糸のこぎりの技能とデザインの発想の能力、主にこの二つである。試行、相互評価、製作のプロセスのなかで、どの能力に焦点をあてた学習なのか、子どもに自覚化させることで目的意識のある学びを生む。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

各自の発想を三つの造形要素①材料、②形、③色に分解し、試行、相互評価させていくことで、それぞれの要素における活用知識を明確化させる。とくに②形の発想は本題材における要であるため、より多様な発想との出会いの場を設定する。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 実践的な実感につながる試行

糸のこぎりの技能の習得によって、木工作においても直線と曲線の自由な組み合わせによる表現が可能となる。その結果、木工作でのデザインの発想の幅が広げられる。また、パズルにはいくつもの発想パターンが考えられ、遊ぶ面白さとデザイン的な美しさや楽しさを追求することができる。そこで、より多様な発想に出会ったりデザインを試行したりする二つの場を設ける。一つは糸のこぎりの技能習得のための試行であり、もう一つは多様な発想パターンの試行である。技能と発想の試行過程を保障した上で、最終的なデザインの判断を行わせる。

(2) 分類の観点の明示

デザインの試行場面において、各自のデザインがより効果的に実現できそうなパズルのパターンを見出させるために、相互のデザインについて発想パターンを観点に分類させる。

(3) 活用知識の明確化

本題材では、①材料、②形、③色の三つの造形要素を活用知識化する。

① 材料 …板材を使うことによる気をつけるポイント

② 形 …パズルのデザインポイント

③ 色 …着色ポイント

(4) 相互評価による言語化

試行や製作を相互評価させることで、個々の表現のよさが活用知識を軸に関係づけられることになる。関係づけにより、①材料、②形、③色の三つの造形要素に関わるポイントについて、子どもはより多様な発想を獲得することになるだろう。

(5) 思考プロセス全体の概観

本題材において、表現の方向性を決定づける重要な判断ポイントは二つである。形のデザインを決める場面と、配色を判断する場面である。ここでは形のデザイン場面を中心に、課題の条件を意識させたり、思考のプロセス全体から再考させたりしながら、より妥当性のある判断に迫らせていく。

5 学習計画（総時数 10 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 糸のこぎりのテクニックを習得する（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○糸のこぎりの使い方を知る <ul style="list-style-type: none"> ・刃を取り付けてみよう ・糸のこぎりを動かしてみよう ○切り方を練習する <ul style="list-style-type: none"> ・直線を切ってみよう ・曲線を切ってみよう ・形を切り抜いてみよう <p>2 パズルのデザインを試行する（3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工作用紙でパズルづくりを試行する <ul style="list-style-type: none"> ・どんなパズルにしようかな ・絵を描いてから切りとるラインを引いてみよう ・形を切り抜く技を活かせないかな ・パーツとパーツが組み合わさるパズルにできないかな ○デザインのパターンを見つける【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなのデザインを分類してみよう ・絵を描いてから切りとるパターンだね →Aパターン ・形をくり抜くパターンだね →Bパターン ・絵=パーツのパターンだね →Cパターン ・主に三つのパターンが見つかったね ・BとCを合わせたパターンもできそうだね ・Cパターンのデザインは難しそうだね ○Cパターンのデザインを共同的に試行する <ul style="list-style-type: none"> ・2～3 個のミニパズルで考えよう ・やっぱりCパターンは難しいね ・グループでコツを見つけよう ○Cパターンのミニパズルを試行する【本時】 <ul style="list-style-type: none"> ・ミニサイズの板にデザインを写そう ・糸のこぎりで切ってみよう ・思い通りに切れなくて困ったな ・板でパズルができるとうれしいな ○デザインの条件を洗い出す <ul style="list-style-type: none"> ・糸のこぎりで切れるかな？ ・パーツの大きさや数が大事だよ ・切り取るパーツと描く部分を分けて考えよう ・枠のラインも忘れないで <p>3 パターンを活かしてデザインを再考する（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊んで面白い 飾って美しく楽しいパズルをデザインする ○パーツのデザインを相互評価し合う ○6 年生からもアドバイスをもらう <p>4 板材を切る（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○板にデザインを写す ○切り取るラインにそって板を切る ○やすりをかける <p>5 パーツに着色する（2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イメージに合った色づかいで着色する <ul style="list-style-type: none"> ・均一な色づかいにしたいな ・立体的な色づかいにしてみよう <p>6 相互評価する（1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パズルで遊ぶ ○パズルを相互評価する 	<p>実践的な実感につながる試行 直線と曲線の自由な組み合わせにより 表現の幅が広がることを実感させるため 糸のこぎりのテクニックを試行させる</p> <p>実践的な実感につながる試行 個々にアイデアをもたせるため パズルのデザインを試行させる</p> <p>分類の観点の明示 発想パターンを観点として 互いのアイデアを比較分類し 関係づけさせることで 主に三つの発想パターンがあることに気付かせる</p> <p>活用知識の明確化 表現や評価における観点として三つの発想パターンを活用知識化する</p> <p>実践的な実感につながる試行 発想の難しいCパターンについては グループでコツを見つけさせる</p> <p>実践的な実感につながる試行 ミニパズルの試行により 板を切って製作する際の条件を洗い出させる</p> <p>思考プロセス全体の概観 製作に向けて よりイメージにあったパターンを選択させるため 思考プロセス全体から再考させる</p> <p>相互評価による言語化 相互評価や6 年生との交流の場を設けることによって 多様な発想と出会让せる</p> <p>相互評価による言語化 製作過程においても 自他の表現を活用知識の観点で評価し 合わせながら追求させる</p>

6 第1日 授業 ② (第2次中2時) 図工室

(1) 本時のねらい

パズルの試作を相互に比較 分類することで 互いの発想を関係づけ 製作に活かす発想パターンを見つけることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 課題を確認する</p> <ul style="list-style-type: none">・工作用紙でパズルの試作をしてみたよ○みんなのデザインを見比べよう・遊んでみたいパズルが見つかったよ・絵がきれいなパズルがあったよ・パーツとパーツが組み合わさっているのがすごいな・デザインにいくつか種類がありそうだよ○いくつあるのかな？	5	
<p>＜デザインのパターンを見つけよう＞</p>		
<p>2 デザイン进行分类する</p> <p>○ペアで比較しよう</p> <div><div>自分は絵を描いてから 切りとってパーツをつくったよ</div><div>ペアで比べると二つのパターンがあったよ</div><div>相手はパーツとパーツが組み合わさるパズルだよ</div></div> <p>○グループで比較しよう</p> <div><div>形を切り抜く方法を活かしたパズルもあるね</div><div>グループで比べると三つのパターンが見つかったよ</div><div>他にもパターンがあるのかな？みんなのを知りたいな</div></div> <p>○みんなのデザイン进行分类してみよう</p> <div><div>絵と異なるパーツの切り取りパターン → Aパターン</div><div>パーツの抜き取りパターン → Bパターン</div><div>パーツとパーツの組み込みパターン → Cパターン</div></div> <div><div>自分のパズルはAパターンのデザインなんだな</div><div>BとCを合わせたパターンもできそうだな</div><div>Cパターンのパズルが面白そう 自分もやってみよう</div></div>	15	<p>分類の観点の明示 発想パターンを観点として互いのアイデアを比較分類し 関係づけさせることで主に三つの発想パターンがあることに気付かせる</p> <p>活用知識の明確化 分類によって見出された 基本的な発想パターンを活用知識として価値付ける</p>
<p>三つのパターンが見つかったよ パターンを組み合わせることもできそうだね</p>		
<p>3 Cパターンのデザインを共同的に試行する</p> <p>○Cパターンでミニパズルをデザインしてみよう</p> <div><div>2～3個のパーツで試そう</div><div>やっぱりCパターンはむずかしいね</div><div>海の生き物でデザインしよう</div><div>グループでコツを見つけよう</div><div>例えばタコの足のラインが別の何に見えるか見立てるのがコツだね</div></div>	20	<p>実践的な実感につながる試行 活用知識としてのCパターンを共同的に試行することで その意味やコツを実践的につかませる</p>
<p>4 次時の見通しをもつ</p> <p>○Cパターンのミニパズルを板でつくってみよう</p>	5	

(1) 本時のねらい

(2) 展開

— 91 —

MEMO

學習指導案

家庭科

6の2 家庭科学習指導案

中田 泉

- 1 題材名 まかせてね 今日のお弁当
- 2 本題材における学びを豊かにする聞き合い

自分のめざすお弁当作りの課題を だれのためのお弁当作りかを意識しながら 試し調理や調理実習を通して 友達と交流しながら解決し 生活をよりよいものにしようとする聞き合い

食事は、健康な生活を送る上で不可欠なものである。また、家族とのふれあいを考えてみても食卓の果たす役割は大きい。朝食や夕食をしっかりとっているものの、家族とのふれあいが少なくなり、家族を実感する場が減ってきているように思われる。そこで、本題材では、本校の子どもにとってとても身近なお弁当に焦点を当てて、実際のお弁当作りの実習を通して、家族に思いを寄せ、家族の一員だと実感できるようにしたい。

毎日のお弁当は、家族が用意してくれるものであり、家族がさまざまな工夫を取り入れていることにはあまり気付いていない。そのことに気づき、自分も家族の一員としてできることを考え、実践していこうとする子どもに育てたい。そのためには、自分の家庭生活しか知らない子どもに、他の子どもとかかわることで、違う生活の営みに気付かせる。子どもが意欲をもって課題解決に向かうには、だれのためのお弁当作りかをしっかりと設定させ、同じような課題意識をもつ子ども同士で交流し、多様な考えを受け入れながらも、自分にとって最も適していると思われるものを選択したり、家族の一人に思いを寄せて、よりよいものに工夫をしたりしていくことが必要である。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

家族へのインタビューや家族から教えてもらったことをもとに学習を進めていくことで、常に家族への思いを意識させていく。お弁当づくりでは、おかずをつめていく作業を通して、食べる相手への思いを意識させていく。家族との交流を通して、家族のためのお弁当作りの課題に気づき、自分が作るお弁当でその課題を解決することができないかと試行錯誤する態度を育てたい。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

1 食分の献立としてのお弁当作りの過程において、基本的な考えを理解させた後、自分の家族のためのお弁当作りのこだわりへとつなげていく。そのために、栄養バランスの整った献立づくりの基本的な技能を共通理解させてから、計画を立てていく。主食、主菜、副菜といった言語やそれぞれのおおよその量のバランスなどを共有し、計画に生かしていく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 試行の場を設定する

栄養バランスのよいお弁当作りのために、主食、主菜、副菜を選択し、弁当箱に詰めるゲームを用いる。栄養や食料自給率、カロリーやかかった費用などをチェックすることができるので、自分が作りたいお弁当のイメージをもつことができる。それぞれが考えたお弁当をお互いに見せ合うことで、栄養のバランスについて比較することができ、自分の作りたいお弁当へとイメージをふくらませることができる。と考える。

また、お弁当作りの計画を立て始めてから、おかずを試し調理し交流することで、お弁当作りならではの汁が出にくいことや、冷めてもおいしいといった条件に気付かせていく。それらをふまえて、家族のためにどんな材料をどのように調理してお弁当を作っていくか再構成させていく。

(2) いろいろな視点から生活事象をとらえる

お弁当作りでは、だれのために作るお弁当かを設定させる。最終ゴールを明確にさせることで、必要感をもって主体的に取り組むことができると考える。家族の一人に思いを寄せることで、家族との交流も増え、相手意識を明確にしたお弁当作りの計画を立てることができる。相

手に応じた課題を見つけ、そのための工夫を友達と交流することで、栄養のバランスやいろいろなどアドバイスをし合い、それらをお互いに比較することで、よりよいお弁当作りへと再構成していく。

(3) 交流のしかたを工夫する

献立力決定戦では、グループで一つの献立を立て、クラス全員にプレゼンする。全員で聞き合うことで、各グループのこだわりを知り、そのための工夫を自分の献立づくりに生かすことができる考える。また、家族のためのお弁当作りの計画では、まず、作りたい相手や同じような課題を見つけた子ども同士をグループにして交流を図っていく。同じ視点をもつもの同士は、自分の考えと比較しやすく、アイデアも出しやすい。そのようにして関係づけられたものをもとに、自分の計画をもう一度見直し、どのように取り入れるか再構成していくことができる考える。

5 学習計画（総時数 15 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
1 食生活をふり返る（4 時間） ○バランスゲームを通して自分の食事について考える ・いろいろがよいとおいしそうで栄養もあるな ・栄養バランスのとれたお弁当にするのは難しいな ○献立力決定戦をする ・北野先生の好きなからあげを入れました 栄養のバランスを考えて ポテトサラダをつけました 2 家族のためのお弁当を考える（6 時間） ○お弁当の秘密を探る ・家の人は毎日ぼくたちの体のことを考えて作ってくれているんだね ・毎日違うおかずにして 飽きないように工夫しているよ ・旬の果物で季節感も出しているよ ・いろいろもよく考えられている ・学校では 肉や魚のかわりに 加工食品を使おう ○お弁当作りの計画を立てる ・忙しいお母さんのために元気の出るお弁当にしたいな ・いろいろをよくするには どうしたらよいのだろう ・のりで絵をかくて見た目もかわいらしくしたい ○じゃがいもを使ったいろいろな調理方法を試す ・ゆでて粉ふきいもにしようかな ・ゆでてから野菜とあわせてポテトサラダもいいかな ・細く切って炒めよう ○計画を修正する【本時】 ・野菜を食べてもらえるように オムライスにしてピーマンやにんじんを入れることにしたよ 3 家族のためのお弁当を作る（4 時間） ○調理の計画を立てる ・買い物をする時に気をつけることが分かったよ ・卵をゆでている間にきゅうりやハムを切れば 時間を短縮できそう ○家族の喜ぶお弁当を作る ・野菜の切り方を工夫して 作ろう 4 お弁当作りをふり返る（1 時間） ○お弁当作りをふり返り 生活に生かす計画を立てる ・盛り付けも工夫すると ふたを開けた時の楽しみも増えるかな	試行の場を設定する 作りたいお弁当をイメージして お互いに作ったお弁当を比較するために シミュレーションゲームを行う 交流のしかたを工夫する 自分の献立づくりに生かすために グループで一つの献立を完成させて 評価し合う いろいろな視点からとらえる 家族がさまざまな工夫をしていることに気づき 何気ない生活の中で問題意識をもてるように だれのためにどのようなお弁当を作るかを設定し 常に意識させる 交流のしかたを工夫する 自分の考えと比較し アドバイスしやすくするために 作りたい相手や同じような課題をもつ人同士でグループを作って交流する 試行の場を設定する お弁当ならではの工夫に気付かせるため 試し調理を行う 交流のしかたを工夫する 多くの情報を得て 家での実践に生かせるように ワークショップ形式で交流する

6 第2日 授業 ③④ (第2次中5, 6時) 家庭室

(1) 本時のねらい

一人一人が家族のために考えたお弁当を交流し お互いのよいところを見つけたり アドバイスをし合ったりしながら よりよいお弁当作りの計画を立てようとしている

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 全体の課題を確認する</p> <p>○自分が考えたお弁当の栄養のバランスを調べる</p> <ul style="list-style-type: none">・ビタミンが少し足りないな・栄養素はすべて入っているけれど 食品の数をもう少し増やしたいな	10	
くお弁当作りの計画をパワーアップさせよう>		
<p>2 自分の課題にそって 考えをもつ</p> <p>○自分なりの課題意識をもつ</p> <ul style="list-style-type: none">・ビタミンを増やすための何か工夫を考えたい野菜か果物を足そうかな・食品数を10以上にできるといいなベーコン巻きの野菜の種類を増やそうかな	10	<p>いろいろな視点からとらえる</p> <p>友達からの情報を自分の考えと比較できるように だれのためにどんなお弁当を作りたいかを常に意識させる</p>
<p>3 グループで考えを出し合う</p> <p>○作る相手が同じ人同士で交流する</p> <div><div>ベーコンといろいろな野菜を炒めて入れたら いろどりもよさそうだよ</div><div>忙しいお父さんのため のお弁当だから ごはんをおにぎりにかえて 食べやすくしたらどうかな</div><div>お父さんは和食の方が好きだから ごはんをおにぎりにかえよう すぐに食べられるベーコン巻きにおかずを変更しようと思う</div><div>ポテトサラダにして いろいろな野菜を混ぜたら いいんじゃないかな</div><div>ピーマンが苦手でもパプリカなら甘くておいしいよ いろどりもいいと思うよ</div><div>ごはんをオムライスにしてケチャップで絵をかこうと思う オムライスに細かく切った野菜を入れようと思う</div><div>卵焼きに野菜やツナを入れたらどうかな いろどりもいいよ ごはんのにりで絵をかくと喜びそうだよ</div></div>	20	<p>交流のしかたを工夫する</p> <p>友達へのアドバイスをしやすくし 友達に伝えることで自分の計画を再構成させるために 作る相手や同じ課題意識をもつもの同士で交流する</p>

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>4 お弁当作りの計画を見直す</p> <p>○友達と交流した情報をもとに自分の計画を再考する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疲れているお母さんのために ごはんをチャーハンにかえろと思う ・もっと長生きしてほしいおばあちゃんのために 煮物を付け加えようと思う ・おかずの工夫もあるけれど ごはんにも工夫を加えているどりや旬を表現できたらいいな 	10	<p>いろいろな視点からとらえる</p> <p>友達と交流したことで得られた情報を 自分の考えに取り入れられるように だれのためにどんなお弁当を作りたいかを意識させる</p>
<p>5 全体で交流する</p> <p>○よいと思ったところやアドバイスを伝える</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いろいろな野菜を食べてもらえるようにオムレツに細かく切った野菜を入れたらいいと思うよ</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>オムレツに野菜を入れるなんて考えもつかなかった 野菜を入れたらいろいろもよくなりそうだな</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>弟のためのお弁当だからウィンナーに切れ目を入れて見た目にも工夫を取り入れたらどうかな</p> </div> </div>	20	<p>交流のしかたを工夫する</p> <p>計画をよりパワーアップさせるために 全体でよいところやアドバイスを付箋に書いて交流する 新たな考えへと広がっていくように 作る相手や課題意識の異なる人とも交流する</p>
<p>6 家族のためのお弁当づくり計画を完成させる</p> <p>○友達のアドバイスを参考に家族のためのお弁当作り計画を完成させる</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>お弁当の隙間にブロッコリーやミニトマトを入れたらいいと思う</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ゆでるだけでいいから ぼくにもできそうだから いろいろもよくなるから入れてみようと思う</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>ちくわにきゅうりを入れるのはどうかな 火を使わないし 簡単にできるよ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>それはいいな きゅうりだけじゃなくて チーズを入れてもよさそう</p> </div> </div>	7	
<p>7 完成したお弁当計画を発表する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは「疲れているお父さんのための元気百倍弁当」を考えました 卵焼きにしらすを入れます いろいろをよくしたいので 野菜炒めにはピーマンとパプリカを使う予定です 	10	
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>作りたい相手や目的に合うお弁当作りの計画を立てることができた 盛り付けも考えて 家族に喜んでもらえるお弁当を作りたい</p> </div>		
<p>8 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は調理実習の計画を立てようよ 	3	

MEMO

學習指導案

体 育 科

4の2 体育科学習指導案

北 豊

1 単元名 3Gハンドボール

2 本單元における学びを豊かにする聞き合い

お互いの動きを教え合う中で 有効空間を意図的・選択的に利用してパスやゴールにつながるよりよい動きを見つけていく聞き合い

ゴール型ゲームは、自身で得点できたときに喜びを得られる。また、作戦やルールを工夫して楽しむことができ、自分たちの立てた作戦がうまくいったりチームが勝ったりしたときに喜びが得られる。3Gハンドボールは、ドリブルを使わずにパスのみでボールを運び、3面あるゴールをねらい得点を競うというゴール型ゲームである。ハンドボールは、手でボールを扱うため比較的技術的な要素は簡単で、シュートを力いっぱい打てるなど、魅力的な特性を持っている。このゲームの工夫の一つとして、ゴールに的当ての要素を取り入れてゴールが決まったときに爽快感が得られるようにしたことである。もう一つの工夫として、3面あるゴールに得点差を設けたことである。より高得点を目指すには、「どこにどのように動けばいいか」ということを考えることで、ゲームの中での空間認識や状況判断能力を身につけることが可能になるのではないかと考える。

子どもは、ゲームを通して、運動量や触球数が増え状況判断をしなければならない場面に出会う。そのときに、「何をするか」という戦術的課題を意識するようになる。味方・敵の動きによって空間が刻々と変化する中、どのような判断をすればよりパスやシュートにつながるかを聞き合いの軸としながら学習を進めたい。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

ゲームでの教え合いや励まし合いによって「ルールを守る」「勝敗を素直に認める」というマナー（社会的態度）を養うことができる。お互いに教え合い励まし合いながら、楽しく練習やゲームをすることができることを中心として学習を進めていくことにし、ここで身につけた力が高学年でのゴール型に生かされると思われる。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

みんなが楽しめるように、「みんなでチャンスをつくる」ハンドボールにしようという共通課題を設定し、単元の終末にはみんなで協力して大会を開催する流れで学習を進める。シュートの精度を上げる・ルールを工夫する・パスやシュートがつながる作戦を考える・パスやシュートの動きを高めるという意識を連続・発展させていきたい。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 試行錯誤できる場の設定

個人技能の向上と集団技能の向上という2つの視点で場を設定する。チームゲームとはいえパスやシュートといった個人技能は重要であるが、これらの技能はゲームの中で繰り返すだけでは習得されない。そこで、個人の技能を高めるドリルゲームを取り入れることにする。明確な目標を持たせるために、技能の伸びが把握できる自己評価を工夫したりチーム間やチーム内で競争したりして、技能向上の意識化を図るようにする。また、戦術的学習内容を段階的に習得できるよう、いくつかの課題ゲームを取り入れる。ハーフコートの設定で、数的優位を生かして有効空間を見つけて動いたりしながら、パスやシュートの質の向上を目指していく。そして、ゲームとゲームの間には作戦タイムを取り、チームの課題に合った戦術が選択できるように試す場を設定する。

「動けずにゲームに参加できない」「ノーマークになる動きがスムーズにできる」等子どもの実態をとらえて場をつくりかえていく。

(2) 動きの言語化と言語の動作化

クラス全体での学習課題をつかむ場面・チームごとの作戦タイムの場面・まとめの場面で、子どもの戦術的気づきを言語化する。その際に、コートやプレイヤーの位置を示すコート図を活用していく。

各チームにコート図と個人名入りのコマを配って、これを作戦板とし、コマを動かしながら動きのイメージをつかめるようにする。聞き合う中で気付いたことを動いて試すことで、動きの有効性を感じたり新たな気づきをつかんだりして空間をうまく使った動きにつなげる。

聞き合いで出てきた言葉は、動きや場所に関するもので分類し、作戦を立て際の重要なキーワードとして位置づける。

(3) 客観的な視点の活用

各チームや全体の場で、よりよい動きの解説・VTR視聴を取り入れる。ボールがつながる動きを言葉で分かっても実際の動きにどのように結びつけられたいかイメージできない子どもやチームが出てくることも予想される。その際に実際のゲームの中からねらいに即した動きを取り出し見せることで、ボールがつながる具体的なイメージを共有できるようにする。

(4) 課題に応じたグループ構成

1チームは男女混合でチーム間等質とし、その中を5人単位の2班の兄弟班に分け、チーム内で動きを見合ったりアドバイスをし合ったりできる動機づけにする。空間認識の育成や意識化につなげるために、兄弟班で1対1の観察を行い、個人の動きを記録する。触球数・シュート数・シュート決定数を記録に取ることで、個人がどのような動きをしているかつかむことができ、次のゲームに向けての改善を図る資料になると考える。

5 単元構成（総時数 9 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 3Gハンドボールを知ろう（2時間）</p> <p>○試しのゲームをする</p> <ul style="list-style-type: none">・パスをもっとつなぎたいな・シュートをたくさん決めたいな・みんなで楽しくしたいな <p>○学習計画を立てる</p> <ul style="list-style-type: none">・パスやシュートをもっとできるように練習しよう・楽しめるルールにしたいな・最後でどのチームともゲームをしたいな	<p>試行錯誤できる場の設定</p> <p>ゲーム前半を終えた後に 作戦タイムを取る コート図を使ったり実際に動作したりすることで チームの修正点を確認し ゲーム後半に入るようにする</p>
<p>2 みんなで楽しめるハンドボールをしよう（5時間）</p> <p>○ボールに慣れよう</p> <ul style="list-style-type: none">・シュートゲームをする・パスゲーム（スリーサークルハンド）をする <p>○シュートチャンスを多くつくる動きを考える【本時】</p> <ul style="list-style-type: none">・アウトナンバーの設定・ハーフコートでのミニゲームを楽しむ・ボールをもたない時の動きについて考える <p>○シュートチャンスをつくる作戦をチームで工夫する</p> <ul style="list-style-type: none">・イーブンナンバーの設定【本時】・有効空間をつくってパスやシュートにつなげる作戦を考える・チームの課題に合った作戦を選択する。	<p>課題に応じたグループ構成</p> <p>等質のグループ学習を行いグループで作戦に応じた動きを見つける お互いに考えを聞き合う中で よりよい動きを再構成していく</p>
<p>3 ハンドボール大会をしよう（2時間）</p> <p>○これまでの学習を生かしてゲームをする</p> <ul style="list-style-type: none">・作戦を生かして勝つことができたよ・前よりもパスがつながるようになったよ・シュートがたくさん決まったよ	<p>動きの言語化と言語の動作化</p> <p>コート図に気づいたことや動きを書きこんだり児童の言葉を分類したりすることで 動きの観点を持たせる</p> <p>客観的な視点</p> <p>映像や写真をもとに気づいたことを出し合い 新たな動きに生かす</p>

6 第1日 授業②（第2次中2時） 体育館

(1) 本時のねらい

チーム内やチーム間で聞き合ったりゲームで試したりしていく中で 有効空間を工夫して使いパスをつないだりシュートしたりすることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 パワーアップ運動をする</p> <ul style="list-style-type: none">・ボール体回し→投げ上げキャッチ・両手パス→片手パス→ワンバウンドパス→走りながらパス・ナンバリングパス→シュートゲーム	8	
<p>2 課題をつかみ ゲームをする</p> <p>＜シュートチャンスを多くつくる動きを考えよう＞</p> <div><p>○チームでめあてを確認し、実際に動いてみる</p><div><div>声をかけて 相手を見つ けよう</div><div>ゴールから遠 いと シュー トが決まりに くいよ</div><div>ボールを持っ て ところに固ま ると パスを 出せ ないよ</div></div><div><div>ボールを持っ てい ない人はどうし たらいいかな</div><div>どこに動いたらパ スやシュートがし やすいかな</div></div></div> <p>3 全体での聞き合いをもとに 試しのゲームをする</p> <p>○チームで話し合いをし 動き方を考える</p> <div><div>パスをしたら 誰 もいないところに すぐに動いたらいい</div><div>空きスペー スにすばやく動く</div><div>ボールを持っ て いない人は空き スペースに広が ればいいよ</div></div> <p>パス&ゴー すぐパス</p> <div><div>ゴールのうらは人 がいないからそこ へ動いたよ</div><div>ノーマーク になるよう に動く</div><div>相手にマーク されないよう にフェイント を入れよう</div></div> <p>うら 空いたところ</p>	15	<p>動きの言語化と言語の動作化 実際のゲームでの動きを提示し 共通の言葉を分類し 動きを図化してイメージをつかみやすくする</p> <p>試行錯誤できる場の設定 戦術的学習内容を段階的に習得できるよう いくつかの課題ゲームを提示し 実態に合った場で動けるようにする</p> <p>客観的な視点の活用 実際の映像を見せ 作戦板を活用することで コマを動かしながら動きのイメージを共有する</p> <p>課題に応じたグループ編成 兄弟班で1対1の記録を取り動きについてアドバイスし合う</p>
<p>4 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・守りにじゃまされずにシュートができるようになってよかった・マークがないところに動けばパスがつながりシュートできた みんなで力を合わせることもできた	5	

ボールを持たない人の動きが大事だね ノーマークになるように動いたり 空きスペースを見つけそこにすばやく動いたりすると シュートチャンスが増えるよ

7 第2日 授業④（第2次中3時） 体育館

(1) 本時のねらい

チーム内やチーム間で聞き合ったりゲームで試したりしていく中で 有効空間を工夫してつくりパスをつないだりシュートしたりできるように作戦を立てることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 パワーアップ運動をする</p> <ul style="list-style-type: none">・ボール体回し→投げ上げキャッチ・両手パス→片手パス→ワンバウンドパス→走りながらパス・ナンバリングパス→シュートゲーム <p>2 課題をつかみ ゲームをする</p>	<p>8</p> <p>15</p>	
<p>＜シュートチャンスがたくさんできるようにチームで作戦を立てよう＞</p>		
<div><p>○チームでめあてを確認し 実際に動いてみる</p><div><div>空きスペースを見つけ て動こう</div><div>ノーマーク になるよう に動こう</div><div>対戦相手はど んなふう に守るの かな</div></div><div><p>チームの作戦</p><ul style="list-style-type: none">・ロングパス作戦・フェイント作戦・パスパス作戦・おとり作戦・サイド攻撃作戦</div><p>3 全体での聞き合いをもとに 試しのゲームをする</p><p>○他チームの作戦を参考にして作戦を立て直す</p><div><div>ロングパスはつ ながりにくい な</div><div>動きに変化を つけるとス ペースが できる</div><div>前に出たり下 がったり変化 をつけよう</div><div>短いパスはつ ながりやす そうだから 試してみ たいな</div><div>他のチームの 作戦を参考 にしたいな</div><div>相手にマーク されない ようにフェ イントを入 れよう</div><div>サイドからの 得点が多い よ固まっ ていたら 声をかけ てサイド に動こう</div><div>守りの位置 を見てパス をしたり 走りこん だりしな いとだめ だな</div><div>前の味方に パスをする ふりをして 逆の味方に パス</div></div></div>	<p>17</p>	<p>試行錯誤できる場の設定 チームの作戦をもとに実態に合った練習方法を選択できるようにする</p> <p>動きの言語化と言語の動作化 作戦をネーミングし図化することで イメージを持てるようにする 作戦でうまくいったところとそうでないところを整理する</p> <p>客観的な視点の活用 実際に動きをつかむために 触球数・シュート数・シュート決定数を記録する チームで作戦を立てる際の参考にする</p> <p>課題に応じたグループ編成 兄弟班で1対1の記録を取り 動きについてアドバイスし合う</p>
<div><p>他のチームの作戦をもとに〇〇作戦を試したら、パスもうまくつながりシュートチャンスも増えたよ</p></div>		
<p>4 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・作戦がうまくいったときはうれしかったよ 協力できてよかったよ・マークがないところに動けばパスがつながりシュートできた みんなで力を合わせることができた	<p>5</p>	

5の1 体育科学習指導案

山下 亜寿佳

1 単元名 身近な物を使ってパワーアップ～タオル編～（体づくり運動）

2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

動かしている体の部位と体力要素を意識して タオルを使った運動に取り組む中で自分の体力に応じたよりよい運動を見つけていく聞き合い

1学期には、身近にある新聞紙を使って体づくり運動に取り組んだ。子どもは新聞紙になりきって新聞紙の形と同じような動きを楽しんだり、新聞紙を棒状にして様々な運動を考えたりしながら、自分の体力に応じた運動に取り組んでいた。体力を高める運動では、体の柔らかさと巧みな動きの体力要素を意識した運動を考えることができた。

本単元では、力強い動きを高めるための運動を意識して、自分の体力に応じた運動を考えていく。身近な物であるタオルを使い、自己や友達の体重を利用したり、人数を増やしたりしながら、様々な運動に取り組むことができる。一人でできる運動から人数を増やしてできる運動を考えていくことで、一人で考えた運動の気付きを生かし、運動について聞き合うことができると考える。また、1学期に取り組んだ新聞紙を使った運動の経験を生かし、タオルを使った運動を試してつかんだ気付きを聞き合ったり、気付きをもとにした運動を試したりしながら、よりよい運動を見つけていくことができる。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

子どもが自分の体力を知り、タオルを使って様々な運動を試行錯誤する態度をつけていきたいと考える。また、自分の体力を知るとともに、一人一人の体力には違いがあることを知り、その違いを意識しながら様々な運動に友達と協力して取り組む態度もつけていきたいと考える。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

子どもは1学期に新聞紙を使った運動を経験しているが、タオルを使った運動は初めて経験する。そのため、様々な運動を試すとともに、新聞紙を使った運動で考えた運動も試していく中で、子どもは多様な気付きをつかむことができる。多様な気付きをよりよい運動につなげるためには、運動のねらいを意識して運動に取り組む必要がある。1学期に取り組んだ新聞紙の運動との違いは、体力要素の違いである。タオルを使った運動では、力強い動きを高めるための運動を共有して取り組んでいくことで、運動のねらいに合った気付きを生かして聞き合うことができると考える。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 試行錯誤できる場の設定

力強い動きを高めるための運動を意識して、タオルを使って運動に取り組めるようにする。単元を通して同じ運動ばかり取り組むことがないようにするため、見つけた運動を全体で共有し、その運動を試すように促す。一人では気付くことができなかった運動を試すことで、新たな気付きをつかみ、よりよい運動が再構成される。よりよい運動が再構成されるために、見つけた運動を試行錯誤できる場を設定し、様々な運動に取り組めるようにする。

(2) 動きの言語化と言語の動作化

個々で見つけた運動を全体で共有するために、全員で見ることができる表を作り、運動を記していく。記す際は、全体で運動にネーミングをし、全員が個々で見つけた運動を共有できるようにする。表を見て、運動を試すことができる。運動のネーミングをしたり、運動を試したりしていくことで、運動に対する気付きを聞き合い、よりよい運動につながると考える。

(3) 客観的な視点の活用

タブレット端末PCで動いている様子を確かめることで、体のどこを意識して運動しているのか客観的に感じ取ることができる。運動している様子をタブレット端末PCに記録し、必要に応じて記録された動きを見ながら、運動について聞き合うことで、新たな気付きをつかんだり、よりよい運動を再構成したりすることができると考える。

(4) 課題に応じたグループ構成

無作為編成グループを編成し、誰とでも協力して力強い動きを高めるための運動に取り組めるようにする。無作為編成グループを編成することで、毎時間違った仲間と運動に取り組むことができ、一人一人の体力の違いを感じ取れるとともに、運動に対する気付きにも違いがあることを感じ取ることができる。その違いを聞き合うことで、新たな気付きをつかみ、よりよい運動が再構成され则认为る。

5 単元構成（総時数 4 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 オリエンテーションをする（1 時間）</p> <p>○タオルを使って体を動かそう</p> <ul style="list-style-type: none">・どんな動きができるかな・新聞紙を使った時の運動を試してみよう・新聞紙の時とちがう運動ができそう・タオルを引っ張り合うと つな引きみたい・なわとびみたいに とぶこともできそう <p>○力強い動きを高めるための運動について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none">・新聞紙を使った運動とねらいがちがう・タオルの引っ張り合いは力強い動きを高められそう・自分の体重を利用して運動することもできそう・タオルを持たなくても床に置いて道具みたいに使いそう	<p>試行錯誤できる場の設定</p> <p>タオルを使った運動を試行錯誤する中で 見つけることができた運動を全体で聞き合い その運動を試す場を設定する</p>
<p>2 力強い動きを高めるための運動を考えよう（2 時間）</p> <p>○一人でできる運動を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none">・タオルの上に体をのせて 手の力だけで進んでみよう・タオルを床の上に置き うでたてふせの姿勢でタオルをふまないように移動してみよう・あおむけになり 足に丸めたタオルをはさんで 足を上げたり下げたりすると 腹筋をよく使っているよ <p>○二人でできる運動を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none">・タオルの上に一人のってもらい それを引っばってみよう・タオルを引っ張り合い 力試しをしよう・あおむけになり 足でタオルを引っ張り合うのもおもしろそう <p>○三人以上でできる運動を考えよう【本時】</p> <ul style="list-style-type: none">・タオルに二人のってもらいと 動くことができるかな・タオルにのった人を運ぶ競争ができそう・タオルを床に何枚も並べて タオルをふまないようにうで立てふせの姿勢で動いてみよう・一枚のタオルを使って三人以上でぞうきんがけをやろう	<p>課題に応じたグループ構成</p> <p>無作為編成グループを設定し いつも違う仲間と運動することで 一人一人の運動に対する気付きに違いがあることを知り 違いを聞き合えるようにする</p> <p>動きの言語化と言語の動作化</p> <p>見つけた運動を全体でネーミングをし 表にまとめていく。その運動のよさについて聞き合い 全体で試してみること で 新たな気付きをつかめるようにする</p> <p>客観的な視点の活用</p> <p>必要に応じてタブレット端末 P C で運動の様子を記録し 運動している様子を客観的に見ることで 運動のねらいに合っているのか聞き合えるようにする</p>
<p>3 考えた運動を楽しもう（1 時間）</p> <p>○考えてきた運動をやってみよう</p> <ul style="list-style-type: none">・タオルを使った運動をたくさん考えたから 運動を選んでやってみよう・自分はどうの力をもっとつけたいから うでを使った運動を中心にやってみよう・友達といっしょに タオルにのった人を運ぶ競争をもう一度やってみよう・腹筋の運動を続けてきたら あおむけの運動で足が何度も上がるようになったよ	

6 第2日 授業 ⑤ (第2次中2時) 体育館

(1) 本時のねらい

一人や二人で取り組んできたタオルを使った運動を生かして 人数を増やした運動を試行錯誤しながら見つけることができる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 タオルを使った準備運動をしよう</p> <p>○運動の前と後に脈を測る</p> <p>○タオルを使ったストレッチ運動をする</p> <ul style="list-style-type: none">・かたのまわりをよくのばそう・ペアになって ゆっくりタオルを引っ張り合おう	10	
<p>2 グループに分かれて運動を考える</p> <p>く力強い動きを高めることを意識して 三人以上でできる運動を考えよう></p> <p>○これまで考えてきた運動を生かして運動を考える</p> <div><p>一人や二人で考えた運動を人数を増やしてやってみよう</p><p>タオルで人を運ぶ運動は人数が増えたと重くなるな</p><p>タオルを何枚もならべて、うで立てふせの姿勢で移動してみよう</p><p>タオルと引っ張り合う運動は人数が増えてもできるかな</p><p>人数を増やしてぞうきんがけをしよう</p><p>グループで競争するのもいいね</p><p>人数を増やすと一人や二人でできなかった運動が新しくできたよ</p></div>	12	
<p>3 見つけた運動を発表し、運動を試す</p> <div><p>タオルで人を運ぶ運動で競争を全員でやってみよう</p><p>うで立てふせの姿勢でタオルをふまないように動きましたうで立てグルグルという名前がいいかな</p><p>ぞうきんがけリレーをすると、力を合わせる必要があるよ</p><p>決められた時間でできた回数や進んだ距離を記録していくといいね</p><p>競争すると速さばかり意識するけど、ゆっくり運動しても力を使っているよ</p></div>	15	<p>試行錯誤できる場の設定 一人や二人で取り組んできた運動を 人数を増やしてやってみよう促す</p> <p>課題に応じたグループ構成 無作為グループ編成することで 多様な気づきがつかめるようにする</p> <p>客観的な視点の活用 タブレット端末PCを使い客観的に運動している様子を見ることで 動いていた時には気付かなかったことをつかめるようにする</p> <p>動きの言語化と言語の動作化 見つけた運動を全体でネーミングし言語化することで運動を共有する 共有した運動を全体で試してみること で 新たな気づきがつかめるようにする</p>
<p>4 ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・新しい運動もでき 楽しくパワーアップできたよ・人数が増えたと 手や足の力をいつもより力を入れてやることができたよ <div>人数をかえた運動をたくさん考えることができたよ 考えてきた運動をもっとやってみたいな そうすると パワーアップにつながっていきそうだ。</div>	8	

6の2 道徳学習指導案

北野 美紀

1 学習名 家族でHAPPY 4-(5) 家族愛

2 本学習における学びを豊かにする聞き合い

資料を通して 家族が強い信頼関係と絆で結ばれていることを改めて感じ
家族の幸せを考えて生活したいと内省していく聞き合い

家族という集団においてそのありがたさは普段意識されず、相互理解や協力もとりたてて必要感のないまま過ごすことが多い。本学習では、家族のつながりこそが自分のよりどころであり、家族が支え合っているからこそ自分が安定して生きられることを実感させたい。したがって、聞き合いの中では常に自分の生活に引きつけて価値を考えさせていく。家族のあり方や自分の行動を具体的に見つめるために、子どもの実態に合わせ共感できる資料を用い、多様な考えの関係づけを仕組んでいく。一人一人が家族のありがたさやその中で自分の存在意義を感じた上で、さらに強いつながりを作り、家族の幸せを求めていくために努力しようとする態度を養う。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

高学年になり、感情を素直に表さず、家族での会話が少なくなる児童が増える。これは自立や成長の面から言えば必ずしも悪いことではない。しかし、自分を支えてくれるまわりの人の愛情に気づき、自分の立場を自覚することは必要である。そこで、資料を通した聞き合いによって、毎日たくさんの人に支えられて生活していることを自覚したり、まわりの人への感謝を素直に表したりすることの大切さに気づかせる。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

一人一人の家庭環境が違うことについて子どもは理解している。それぞれの家庭には、その家族なりの思いやりの心の表し方があり、比べられるものではない。しかし、頭で家族のありがたさを分かっていたとしてもそれを素直に言葉や行動に移すことが難しい時期でもある。そこで、日々の学校生活の中で、個性を尊重し合える環境を作り、自分の思いを素直に表出することへの抵抗を少なくしておく。互いに受けとめ合う経験を積み重ねることで自分の居場所を実感し、豊かな生活を送ろうとする意識が高まっていく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 考えを比較・共有するための視覚的表現の工夫

ワークシートを用いて考えを書く活動を取り入れることで個の考えの変容を視覚的に残していく。ワークシートの形態を工夫することで価値に新しい視点に気付かせる。さらに考えを出し合う際、ホワイトボードなどを利用してグループでの意見交流も記録に残しながら活動させる。対立する考えを表現する場合には、心のカードを用いることで理由づけをさせながら見えない心の揺れを表現させる。こうして考えの根拠となったものを明らかにすることが比較・分類の手助けとなり、互いの考えの共有にもつながりやすくなる。また、板書で価値に対する考えを比較・整理して構造的に表していく。このことが、価値に対する新たな視点を獲得するために有効となる。

(2) 目的に応じた交流の工夫

ねらいとする価値に対する多様な経験や考えを交流するために、考えを出しやすい少人数のグループ交流を取り入れる。これは、共通点や相違点を見つけやすくし、一人一人の考えの補足や深まりにつながると考える。さらに、予め価値に対する自分の経験を見つめた上で、交流にのぞませる。ねらいとする価値についての考えを広めるためにはワールドカフェ形態やインタビュー形態を取り入れる。短時間で多くの交流を持つことができ、新しい視点で価値を見直すきっかけとなる。

展開後段で内省を目的とする交流を持つ場合、ペアでの鉛筆トークをすることで資料を通した聞き合いのまとめのような時間を持ちながら、価値についての見つめ直しをする時間も生ま

れる。終末でおこなわれる個の内省に向けて段階的なアプローチができると考える。

(3) 内省を促す場の工夫

価値に対する考えを、導入前、導入時、展開中段、展開後段、終末など数回に分けてワークシートに書く時間をとる。聞き合いによって自分の考えに変容が見られ、それを意識できたとき、本学習で大切にしたいねらいが見えてくる。また、聞き合いの途中のワークシートでは、自分の考えに揺れが生じ、もっと考えを深めたい、広めたいなどの思いを持つことをねらう。このことで、焦点を絞った聞き合いに繋げていく。

家族愛の学習では、各家庭環境の違いにも配慮が必要であり、内省にも個人差が大きいと考えられる。しかし、自分の生活をよりよくし、家族の幸せのために役立つために大事にしたい心について焦点をしばらく内省させていく。

5 学習計画

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>教科 特別活動との関連</p> <p>国語との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「カレーライス」から家族のつながりについて考える <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんに対してイライラする気持ちよく分かる ・自分もお父さんに対して素直になれない時がある ・分かっているけど、なかなか素直にはなれない ・どれだけぶつかっても、家族だからこそ分かり合える ・お互いの足りないところは、補わなければならない <p>行事や家庭生活との関連（「あゆみ」を通して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ふじだなおとぎ会 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のがんばりを見てほしい ・恥ずかしいけれど、見てくれるとがんばれる ・ほめられて、とてもうれしい ○運動会 <ul style="list-style-type: none"> ・最後の運動会を見に来てほしい ・応援してくれてありがとう ・くやしかったことも聞いてもらえて力になった ○あゆみより <ul style="list-style-type: none"> ・両親は遅くまで仕事をがんばってくれている ・お手伝いをしたらとても疲れた ・兄弟げんかで家の中をいやな空気にしてしまった <p>1 道徳 「家族でHAPPY」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○かけがえのない存在「家族」【本時】 <p>資料名 ぼくが生まれた日（文溪堂）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は家族にとっても大切にされているんだ ・家族はかけがえのないものだ ○家族の幸せ【本時】 <p>資料名 サンタがやってくる（自作資料）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族がみんなで楽しく過ごせることが幸せなことだ ・家族の幸せのために自分にできることはないかな <p>2 道徳 「ありがとう」関連価値 感謝2-(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業を前にして <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人との思い出がつまった6年間だった ・家族の支えがあったから、今日までがんばって来られた ・これからも支えてもらうことが多いだろう ・自分も家族の力になりたい 	<p>内省を促す場の工夫</p> <p>テーマを設けてあゆみを書かせることで 共通の視点で価値に対する考えをもたせる</p> <p>視覚的表現の工夫</p> <p>目的に応じた交流の工夫</p> <p>ホワイトボードや心のカードを用いることで 深めの発問で生まれた心の揺れを表現しやすくし 共感的な聞き合いにつなげる</p>

6 第1日 授業 ② (第1時) 6の2教室

(1) 本時のねらい

資料を通して家族一人一人の思いを理解することで 家族を敬愛する心情を育てる

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 家庭の中での自分を思い返す</p> <p>○叱られたり 家族をうるさく感じたことはあるかな</p> <ul style="list-style-type: none">・「勉強しなさい」ばかり言われる・片付けをしないと 厳しく叱られるのがいや <p><自分にとって家族はどんな存在かな></p>	5	
<p>2 資料を見て 考えを出し合う</p> <p>○のび太は叱られてどんな気持ちだったかな</p> <div><div>なんでこんなにうるさいんだ</div><div>ぼくなんかいない方がいい</div><div>言われなくても分かっている</div></div> <p>○のび太の誕生を喜び 成長を願う両親を見て のび太はどう思ったかな</p> <div><div>あんなに喜んでくれてうれしい</div><div>とてもしあわせそう</div><div>名前にそんな願いがあったのか</div><div>期待に応えたい</div><div>そんなに期待されてうれしいはずかしい</div><div>自分のことをこんなに思ってくれている</div></div> <p>○のび太は木を見上げてどんなことを考えたかな</p> <ul style="list-style-type: none">・期待に応えたい・この家族に生まれてきてよかった・しあわせだな <p>3 自分の家族を見つめ直す</p> <p>○家族っていいなと感じたことはあるかな</p> <div><div>誕生日のお祝い</div><div>風邪をひいたときの看病</div><div>家族旅行</div><div>のび太以上に自分も大事にされている</div></div>	25	<p>視覚的表現の工夫</p> <p>家族に対するのび太の気持ちを対照的に板書に表すことで 気持ちと行動のずれをとらえられるようにする</p> <p>目的に応じた交流の工夫</p> <p>ペア交流で家族のあたたかさや幸せをかみしめるのび太の気持ちを考えさせる</p>
<p>4 教師の説話を聞き 課題についてふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・家族の誕生はこの上ないしあわせなこと・大切だからこそ心配も期待も大きいんだ	10	
	5	
<p>家族がいつも自分を大切に思ってくれているからこそ叱られたり ケンカしたりするんだ 自分にとって家族ってあたたかくかけがえのない存在なんだ</p>		

7 第2日 授業 ⑤ (第2時) 6の2教室

(1) 本時のねらい

資料を通して家族の幸せについて考え 進んで役に立とうとする態度を養う

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 クリスマスの思い出をふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">・毎年プレゼントを楽しみにしている・サンタクロースに手紙を書いたことがある・ごちそうを食べながら、楽しく過ごしている <p>＜家族が幸せに過ごすにはどんな心が大切かな＞</p>	5	
<p>2 資料を通して考えを出し合う</p> <div><p>○友だちの話を聞いてあきはどんな気持ちになったかな</p><p>サンタクロースはいるはずだ</p><p>家族がだましているのかな</p><p>ぼくはベビーちゃんじゃない</p><p>○家族の様子を見てあきはどんな気持ちになったかな</p><p>楽しみにしている弟には言わない</p><p>父も母もニコニコしていてうれしい</p><p>○迷い始めたあきの心の中はどうだったかな</p><p>真実を確かめる</p><p>事実を確かめない</p><p>本当のことを知りたい</p><p>友だちに</p><p>からかわれたくない</p><p>プレゼントをもらいたい</p><p>サンタを信じていたい</p><p>家族で楽しみたい</p><p>自分のことを考える</p><p>家族のことを考える</p></div> <p>3 あきはどうしたのか考える</p> <div><p>サンタを信じていたいけれど、事実は確かめたい</p><p>家族が楽しく暮らせるよう確かめるのはやめておこう</p><p>弟の楽しみを奪うのはよくない</p><p>事実はどちらでもいい</p><p>家族で楽しく過ごしたい</p></div> <p>4 自分の生活をふり返る</p> <ul style="list-style-type: none">○家族の幸せのためにどんなことを大事にしているかな・あまり考えていなかったな・お手伝いもいいけどサプライズで喜ばせてみようかな <div><p>家族のことを考えてみんなで楽しめることがすごく幸せなことだ</p><p>それを忘れず 家族のあたたかい時間をふやしていきたい</p></div>	25	<p>目的に応じた交流の工夫</p> <p>役割読みをすることで登場人物がそれぞれ大事にしている価値に違いがあることを意識させる</p> <p>視覚的表現の工夫</p> <p>目的に応じた交流の工夫</p> <p>ワークシートや心のカードを使って主人公の行動を考えた上で 2つの価値の間でゆれる主人公の迷いを明確にするため グループで意見交流しながらホワイトボードに両方の理由付けを書き込ませる</p>
	10	<p>内省を促す場の工夫</p> <p>ワークシートに続きを考えることで 家族の幸せのために何を大事にしたらよいかを見つめさせる</p>
	5	

MEMO

MEMORANDUM FOR THE RECORD
SUBJECT: [Illegible]

1. [Illegible]

2. [Illegible]

3. [Illegible]

4. [Illegible]

5. [Illegible]

6. [Illegible]

7. [Illegible]

8. [Illegible]

9. [Illegible]

10. [Illegible]

11. [Illegible]

12. [Illegible]

13. [Illegible]

14. [Illegible]

15. [Illegible]

16. [Illegible]

17. [Illegible]

18. [Illegible]

19. [Illegible]

20. [Illegible]

21. [Illegible]

22. [Illegible]

23. [Illegible]

24. [Illegible]

25. [Illegible]

26. [Illegible]

27. [Illegible]

28. [Illegible]

29. [Illegible]

30. [Illegible]

31. [Illegible]

32. [Illegible]

33. [Illegible]

34. [Illegible]

35. [Illegible]

36. [Illegible]

37. [Illegible]

38. [Illegible]

39. [Illegible]

40. [Illegible]

一冊、収録
www.bunshin.co.jp

→ www.113.jp → 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308
→ 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308

英語学習指導案 308 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308
英語学習指導案 308 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308 英語学習指導案 308

学習指導案

英語

3の2 英語学習指導案

堀井 洋一
Glen Bradshaw

1 単元名 わたしができること ～ I can … ～

2 本單元における学びを豊かにする聞き合い

I can … などの英語表現を使って 自分のことを伝え合う活動を通して 様々な表現に気づき 自分と友達とを比較して よさを改めて認識する聞き合い

本単元のねらいは、I can … などの表現を使って自分のことを他に伝えること。できることなどを伝え合う活動を通して、自分や友達のよさを改めて見直すことの2点である。

この目標を達成するために、子ども同士によるコミュニケーション活動が、有効かつ不可欠なものとなる。特にねらいの2点目は、自分のできることなどを考えて表現することを通して自己肯定感を高めることにもつながる。また、友達ができることを聞くことにより、肯定的な他者理解も起こる。

本単元の導入では、スポーツなど子どもにとって身近な内容を扱う。子どもは、外来語と英語での表現の違いに気づき、聞き慣れた外来語と英語表現とを比較しながら、その意味を理解することができる。また、扱う表現を徐々に広げることにより、およその意味を理解しながら自他の比較を行うことができるようになる。

また、単元の最後には、自分ができることなどを留学生に紹介する活動を取り入れる。英語表現を使ったやりとりを通して、友達の意外な一面を知ったり自分との共通点を発見したりする。これにより新たな視点で友達を認めることができるとともに自分のよさに気付くことになる。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

① 積極的に話してみたい。伝えたい。という意欲

本単元では、自他の比較やよさの再認識につなげるために、「できること」を題材にすることで、自分のことをアピールしたい。伝えたい。という意欲を持たせる。

② 相手のことを知りたい。という思い

相手意識を持ってコミュニケーション活動をすることによって他への再認識が起こる。自分ができることを相手もできるだろうか。という思いでコミュニケーションを行う。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

① 基本となる英語表現に触れ、英語の音声に慣れること

“I can … .” を使えば、できることを表現できること、その内容によって “I can … .” “I can play (the) … .” となることを知り、慣れていく必要がある。また、既習の “I like … .” や “I have … .” の表現にも慣れていることで相手の言いたいことが理解できる。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 目的に応じたグループ活動

第1次、第2次では、「～できる」を表す英語表現や語彙に聞き慣れるために、グループでの活動を取り入れる。子どもは聞いたことがある英語表現などをもとに相談しながら、「～できる」を表す英語表現を理解しようとする。これによって、英語表現への気づきが充実する。

また、第3次では留学生交流へ向けて少人数グループを活用する。楽器やスポーツなど、できることが共通している子ども同士でグループを編成し、留学生との交流で紹介するタスクを取り入れることで、外国の人に伝わる表現や自分たちが言える表現を選択させる。

(2) コミュニケーション活動の工夫

単元を通した留学生との交流を取り入れる。交流でできることを考え、スピーチや実演を行うことで外国の人に言いたいことが伝わる満足感を味わうことになる。この際には、自分のできることを一方的に伝えるだけでなく、留学生にも “Can you … ?” を使って質問することで自他の比較をさせ、自分や友達のよさ、さらには日本のよさについて再認識させる。

この活動では、できることが似ているメンバーでグループを編成し、留学生にどのように紹介すれば相手に印象的に伝わるかを考えながら、自分たちのことを留学生に分かってもらおうと工夫する場を作る。

(3) 「英語表現への気づき」や「異文化や他者への思い」の明確化

できることを知って「すごいな。」と感じたことやできることが同じ友達がいって「よかったな。」という思いをもたせたい。そこで、自他の比較が起きやすいようにワークシートを工夫する。また、シェアリングでは、できることを聞いて感じたことを扱い、他のよさを認める発言を取り上げていく。

5 単元構成（総時数 6 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 「できる（できない）」の言い方を知る（2時間）</p> <p>○「できる（できない）」の言い方を知り 音声に慣れる <「できる」、「できない」の言い方を知ろう> キーワードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツは I can play … を使えば言えるね ・バスケットボールは basketball って言うのか 言い方が少しちがうね ・先生はテニスができるんだ ・他にもできることがあるんだね でも play を使っていなかったよ ・自分のできることを I can… に当てはめればいいんだ <p>○「できますか」の言い方を知り 尋ね方に慣れる <「～ができますか」の言い方を知ろう> B I N G O ゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Can you … ? を使えば質問できるね ・答える時は Yes, I can. か No, I can' t. を使うといいよ ・私は料理ができるけど みんなはどうなのかな <p>2 留学生交流へむけて自分ができていることを考える（2時間）</p> <p>○自分ができていることを友達に紹介してグループを作る 先生クイズ 【本時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～先生はギターが弾けるんだね ・saxophone って何だろう 聞いたことがないよ ・magic って手品のことかな <p><自分のできていることを考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・将棋は英語でどう言えばいいのかな ・バイオリンを弾けるけど 英語ではどういうのかな <p>○留学生交流で自分たちができていることを考える 【本時】</p> <p><自分のできていることを紹介しよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・～さんはピアノが弾けるのか ぼくはリコーダーが吹けるから合奏ができるぞ ・～さんはダンスができるのか いっしょに踊ってみてもいいな 留学生の人たちも踊ってくれるかな ・ぼくは囲碁ができるし ～さんは将棋ができる どちらも日本のものだな 外国には将棋はあるのかな <p>3 留学生と交流する（2時間）</p> <p>○留学生との交流で自分たちができていることを紹介する <留学生の方に自分たちのできていることを紹介しよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで楽器の演奏をしようよ ・空手を見てもらおう ・遊びグループでけん玉や折り紙を教えよう ・留学生の人でもできるかどうか Can you … ? で聞いてみようよ 	<p>コミュニケーション活動の工夫 BINGO ゲームを通して できることを友達と聞き合うことで I can … や Can you… ? の表現に気付き 慣れる</p> <p>目的に応じたグループ構成 留学生にできていることを紹介するためのグループを作る活動により 自分と比較しながら 互いができていることに気付かせる</p> <p>「気づき」や「思い」の明確化 友達のできていることを自分と比べることができるように シェアリングの場を工夫する</p> <p>コミュニケーション活動の工夫 留学生に 自分たちができていることをグループで紹介することにより 表現の見直しや表現方法の工夫をねらう</p>

6 第1日 授業 ② (第2次中1時) 3の2教室

(1) 本時のねらい

先生ができることを聞いて 新たな英語表現に気付き 留学生に自分のできることを伝えるために 適切な表現や内容を選んだりして 分かりやすく伝えようとする

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 WARM UP ○できることの言い方を練習しよう</p> <ul style="list-style-type: none">・ I can play baseball (soccer, tennis …) .・ I can play the (guitar, piano …) .・ I can (swim, cook …) . <p>2 課題を知る</p> <div>I can play ☆☆ . I like ☆☆. Can you play ☆☆? Do you like ☆☆? I can play the ★★ . I have a ★★. Can you play the ★★? What can you do?</div> <ul style="list-style-type: none">・ 先生は☆☆ができるんだね ぼくも☆☆が好きだな・ 何かできることってあるかな <p>＜ 留学生との交流で 自分ができることを考えよう ＞</p>	5 5	
<p>3 先生クイズをする</p> <p>○先生たちはどんなことができるのかな</p> <div><div>クイズ1 I can play basketball . I have two balls.</div><div>クイズ2 I can do a magic trick . Can you do … ?</div><div>クイズ3 I can play the saxophone . I like music.</div></div> <div><div>a magic trick ってなに?</div><div>手品じゃないかな</div><div>○○先生はバスケットボールができるんだ ぼくはサッカーができるよ</div><div>スポーツや楽器の言い方がわかったよ play や play the, do を使えばできることが言えるね</div><div>saxophone はサックスのことなんだね 言い方がちがうんだな</div></div>	10	<p>目的に応じたグループ構成</p> <p>聞きとった表現を共有して考えられるように グループでの活動をする</p>
<p>4 シェアリングをする</p> <ul style="list-style-type: none">・ スポーツのときは play を使えるね・ チェロは cello だね 知らなかったよ	8	<p>「気づき」「思い」の明確化</p> <p>グループや学級でのシェアリングを行う</p> <p>クイズを通して気付いたこと明確にするため知った単語を記入するワークシートを準備する</p>
<p>5 留学生交流でできそうなことを考える</p> <div><div>バイオリンを弾けるよ なんて言えればいいの</div><div>調べてみよう 聞いてみよう</div><div>violin でいいんだね</div><div>I can play the violin .でよさそうだ</div></div>	15 2	<p>コミュニケーション活動の工夫</p> <p>自分ができることを伝えようとするために グループで協力して できることの紹介文を作る</p>
<p>6 ふりかえりをする</p> <div>I can . を使って できることを紹介できそうだよ うまく伝わるといいな</div>		

7 第2日 授業 ⑤ (第2次中2時) 3の2教室

(1) 本時のねらい

できることを伝え グループ作りを行う活動を通して 自分と友達のできることを比べ 自分にも友達にも得意なことがあることを再認識する

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 WARM UP&課題を知る</p> <p>○グループで紹介文を練習する</p> <ul style="list-style-type: none">・I can play the violin. がうまく言えるかな・大丈夫だよ ちゃんと言えているよ <p>く 自分のできることを紹介しよう ></p>	5	<p>目的に応じたグループ構成</p> <p>友達のできることを聞いて アドバイスできるように前日のグループを単位にした活動とする</p>
<p>2 自分ができることを紹介する</p> <div><div>I can play the piano. Can you play the piano?</div><div>ピアノが弾ける人って多いんだな</div><div>ピアノが弾けるのはいいいな</div><div>I can do karate. Can you do karate?</div><div>空手ができるのは ぼくだけなんだな</div></div> <div><div>Yes,I can. わたしもピアノは弾けるよ</div><div>少しなら弾けるけど… なんて言えばいいの</div><div>No,I can't. I can sing a song</div><div>No,I can't. かっこいいな 見たいな</div><div>空手は do karate なんだ</div></div>	15	<p>コミュニケーション活動の工夫</p> <p>留学生の方を迎えるためのグループ作りという意識を明確に持って比較しながら聞くことができるようにワークシートに自分のできることを 友だちのできることを書き込む欄を設ける</p> <p>また 紹介する相手をペアグループ 学級全体へと広げることによって表現への慣れをねらう</p>
<p>3 グループ作りをする</p> <div><div>クイズ1 I can dance. Who am I?</div><div>クイズ2 I can play the violin. Who am I?</div><div>クイズ3 I can play the piano. Who am I?</div></div> <div><div>ダンスができるのは ~さんだよ</div><div>バイオリンが弾けるって言っていたよ</div><div>ピアノが弾ける人はたくさんいるね</div><div>いっしょに何かできるかもしれないよ</div></div>	15	<p>コミュニケーション活動の工夫</p> <p>インタビューしたことをもとに Who am I ?クイズを行うことで できることを共有しグループ作りへの意識を持たせる</p>
<p>4 シェアリングをする</p> <ul style="list-style-type: none">・~さんは 空手ができるからすごいなと思った・~さんも私もピアノが弾ける・~さんは囲碁ができるんだ ぼくは将棋ができるから似ているよ	10	<p>「気づき」「思い」の明確化</p> <p>自他のよさを見直すことができるよう シェアリングでは できることの紹介を通して発見したことをふり返らせる</p>
<p>みんな いろんなことができるんだ 協力してわたしたちのことができることが留学生の人に伝わるといいね</p>		

MEMO

4の3 情報教育（算数科）学習指導案

杉森 慎一

1 単元名 広さを調べよう（スクールプレゼンターの活用）

2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

面積を求めるための図形操作で 電子黒板での操作を見ながら 自分の考え方と関係付け より良い解法をつくっていく聞き合い

本単元は、面積について単位と測定の意味を理解することで、長方形及び正方形の面積の求め方について考え、複合図形など他の図形の面積を求める場面でも活用できるようにすることをねらいとする。図形を操作する活動でのICT活用の利便性として、速く直感的な操作性、修正が可能という可逆性、解法を複数記録できる保存性が挙げられる。また、自らの考え方を正確に伝えることが可能で、互いの考えを聞き合うときにバイアスが発生しにくい。これにより、互いの考えを関係付けながら、速く、簡単に、正確な答えに導いていくことができる。また、正解は比較的簡単に導かれると思われるので、何通りもの説明に共通する「一言説明」を考えるようにすることが聞き合いに向かうと考える。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

- ・より効率的な手段を選択しようとする態度
- ・思考スキルにより解決させようとする態度

(2) 子どもに共有させておきたいこと

- ・スクールプレゼンター操作能力
- ・メタ認知し自らの考えを他に反映させようとする事

4 関係づけ再構成する手だて

(1) 思考の活性化につながる場の設定

ペアや少人数グループで話し合ったりすることで、新しい思考に出会うことが可能となり、一人一人が関係づけを行うための視点が増加し、新しいグループ内において、今までにないアイデアが発生すると考える。

(2) メタ認知を促す発問

解答して答えを得るだけではなく、自らの考えと他の考えを関係づけてより良い説明を導くために、現在の状況を把握させて、目標に向けた聞き合いが行われるようにする。

5 単元構成（総時数 10 時間）

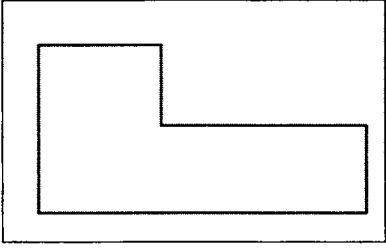
主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
<p>1 広さの表し方（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広さの比べ方をいろいろな方法で考える ・陣取りゲームをやってみたい <p>2 長方形と正方形の面積（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長方形と正方形の面積を求める公式をつくる ・たて、横の長さがわかれば面積が求められるね ○複合図形の面積の求め方を考える【本時】 ・切り貼りして公式に当てはめられるね <p>3 大きな面積の単位（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○長さがmの場合も公式が適用できることを理解する ・mになっても同じだね ○面積単位の相互関係を理解する ・広さによって単位が変わることが分かった <p>3 まとめ（2時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を確実に身に着ける 	<p>タブレット活用による効果的な資料提示</p> <p>関心意欲を引き出すためにタブレットを活用する</p> <p>メタ認知を促す発問</p> <p>現在の状況を把握させ、互いの考えを関係づけ より良い答えを導くようにする</p> <p>思考の活性化につながる場の設定</p> <p>弾力的なグループ構成から多様な考えを関係づけるようにする</p>

6 第1日 授業②（第2次中3時） 4の3教室

(1) 本時のねらい

複合図形の面積を求めるための図形操作で 電子黒板での操作を見ながら 自分の考え方と関係付け 一般化した説明をつくっていく聞き合い

(2) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<p>1 既習事項のフラッシュ問題をする</p> <p>○長方形 正方形の面積を答える</p> <ul style="list-style-type: none">・○cm² かんたん・横の長さが分らないと答えられないよ <p>2 課題をつかむ</p> <p>くふくざつな形の面積の求め方を考え、いつでもあてはまる説明にしよう></p> <p>○問題の図形を提示する</p> <ul style="list-style-type: none">・曲がった四角形だな・長さが分らないんだけど...・長さが全部わからなくてもできるの？		
	10	
<p>3 問題に取り組む</p> <p>切ってみよう</p> <p>方眼にあてはめよう</p> <p>適当に切るのではダメ</p> <p>大きな長方形にしよう</p> <p>分らない長さが分かった</p> <p>1cmずつ数えよう</p> <p>分けて考えたら？</p> <p>別々に計算できる</p> <p>大から小を引けばいい</p> <p>合わせたら長い長方形になった</p>	20	<p>思考の活性化につながる場の設定</p> <p>弾力的なグループ構成から多様な考えを関係づけるようにする</p>
<p>4 まとめる</p> <p>共通している考え方は？</p> <p>ぴったり、きれいに</p> <p>長方形にすればよい</p> <p>計算が楽になるように</p>	10	<p>メタ認知を促す発問</p> <p>自分の状況を把握し発表されている考えと関係付けるようにする</p>
<p>5 適用題をする</p> <p>・今のやり方を使えば簡単だね</p>	5	
<p>長方形にすればよい</p>		

4の3 情報教育（社会科）学習指導案

杉森 慎一

- 1 単元名 のびゆく石川（iPad アプリ「ロイロノート」の活用）
- 2 本単元における学びを豊かにする聞き合い

我が県の特徴を調べ紹介し合うとともに 更なる発展を願う未来へのアイデアをタブレット等の活用で互いの思いや考えを関係づけ再構成して 県の将来像についての新たな意見をもつことができるようになる聞き合い

本単元は、県内の特色を調べ紹介し合う学習から、石川への愛着を高めるとともに、県の未来像を考え、将来に向けての新しい提言をまとめていくことで県の様子への認識を深めることをねらいとする。

北陸新幹線開通を2年後に控えた本県は、観光資源や産業など非常に魅力的な特色を備える県である。各都市における色彩豊かな自然や受け継がれる伝統文化について紹介し合うことで、県民の一人として愛着を深めるようにしたい。

また、現状を踏まえたうえで、今後強調していけばよい点や改善の余地などのアイデアを出し合い、わが県の未来像を構築していく。しかし単なる理想論の発表会ではなく、互いに寄り添う部分に関係づけ、より良い解に導かれることができるように再構成していく。

情報教育の視点からは、膨大な資料から、自分の意見を強化・補完するものを選択し、より効果的にプレゼンテーションすることができることをねらいとする。本単元では、ICT活用として、iPad アプリ「ロイロノート」による情報収集と情報整理、そして発表のツールとしての活用を提案するとともに、新しい協働学習の型を提示できることを期待している。

3 聞き合いのために

(1) 子どもにつけたい態度

自らの考えを他の考えを取り入れながら思考し、より良い考えに再構成していくために、情報収集においては、ネット一辺倒ではなく、多様な手段を活用する必要がある。求めている解に最も近づけるような手段として、必要に応じて図書資料など従来の紙媒体による教材や、関係者に実際に会って行うインタビューなどの有効性を意識できるようにして学習を進めていきたい。また、場面に合致した思考スキルの選択・活用によって、より良い解を導こうとする態度も必要である。

(2) 子どもに共有させておきたいこと

ICT一般化による多種の機器を活用できる環境を整備するとともに、それらを十分に活用できる能力を養っていきたい。同様に、適切な思考スキルの選択と実際に活用できる能力を高めておく。

4 関係づけ再構成する手だて

(1) タブレット活用による情報収集

iPad における高い情報収集能力に加え、ロイロノートでは必要な資料を直感的に整理することができる。カードを並び替えながらアイデアを関係づけていくことにより、論理的思考も高まる。

(2) タブレット活用による効果的な資料提示

ロイロノートによるプレゼンテーションは、作成段階の操作が極めて簡便であり、意図を伝えやすいものを作成することができる。また、AppleTV による無線接続は発表者が変わる際のタイムラグがほとんどないため、思考が分断されることなく行うことができる。

(3) 思考スキルの活用

各学習活動において適切な思考スキルを用いることにより、スムーズに情報を整理することができる。アイデアを分類するXチャート、系統化・順序化を図る5×5法において、アイデアの関係付けが進む。

5 単元構成（総時数 13 時間）

主な活動と内容	聞き合いにかかわる手だて
1 県内の特色を調べよう（8 時間） ○自然について調べよう ・海辺のまち 山地のまち ○産業について調べよう ・伝統工芸 ハイテク技術 ○観光について調べよう ・兼六園などの景勝地 温泉街	タブレット活用による情報収集 iPad による効率的な情報収集により 具体性をもって関係づけが進む タブレット活用による効果的な資料提示 ロイロノートによるプレゼンは理解しやすく 思考の再構成も簡便に行うことができる
2 石川県の未来を考えよう（5 時間） 【本時】 ○アイデアを発表し合い より良いものにしよう	

6 第 2 日 授業 ⑤（第 2 次中 3 時） 4 の 3 教室

(1) 本時のねらい

石川の将来像について発表したものを聞き合い より良いものに高めることで 県への認識を深めることができる。

(2) 使用機器 iPad 8 台 デジタルテレビ AppleTV

(3) 展開

学習活動と子どもの思考の流れ	時	関係づけ再構成する手だて
<石川の未来について新しいアイデアを出そう>		
1 石川の将来像についてのアイデアを発表する ○ロイロノートのプレゼンを提示しながら発表する ・伝統工芸は県の宝 伝え発展させるには…！ ・おいしい食べ物 さらに安全をアピールできる県に ・新幹線が開通します このチャンスを生かしましょう	10	タブレット活用による効果的な資料提示 ロイロノートによるプレゼンを見て 自分のアイデアと共通する点や相反する点を見つける
2 発表資料をもとに聞き合う <pre>graph TD A[伝統工芸と生活が一緒にいると楽しいね] --> D[これらをうまく合体できないかな] B[生活しやすい未来都市にしたい] --> D B --> E[お金はどうするの] C[新幹線で東京との関係を強めよう] --> F[上手にアピールするには...?] D --> G[住んでいる私たちが楽しめるものを！] E --> G F --> G G --> H[県外からお客さんをたくさん呼べる工夫が必要] G --> I[私たちが誇りを持って生活できるように] H --> J[石川らしさをアピールし続けよう] I --> K[笑顔があふれる生活しやすい県に]</pre>	20	思考スキルの活用 アイデアを分類する X チャートを活用し 関係づけを図る タブレット活用による効果的な資料提示 結合改善されたアイデアを即時発表することにより 新たな関係づけを誘引する
3 まとめる みんなのアイデアを合わせて新しいアイデアが生まれた	10	
4 今後について話し合う ・具体的に発信しよう	5	

研究 同 人

金沢大学附属小学校

校 長 山 本 一

副校長 林 良 彦

学内教頭 盛 一 純 平

国語科 加納 篤 坂井 昇 登美いづみ

社 会 科 泊 和 寿 澤 田 兼 祐

算 数 科 福 井 時 昌 石 田 美 保 木 谷 崇

理 科 岩 崎 誠 小 網 達 也 森 田 健 太 郎

生 活 科 山 岸 留 美 中 川 好 美

音 楽 科 徳田 典子 大滝菜保美 笹谷真理子

図画工作科 宮本 美紀

家庭科 中田 泉

体 育 科 北 豊 山下亜寿佳

道 徳 盛 一 純 平 北 野 美 紀

英 語 堀 井 洋 一

情 報 教 育 杉 森 慎 一

健康教育 吉本 貴世

旧同人

金岡 弘宣 宮下 智子 古田 正樹

伯耆身奈子 乘富 章子



